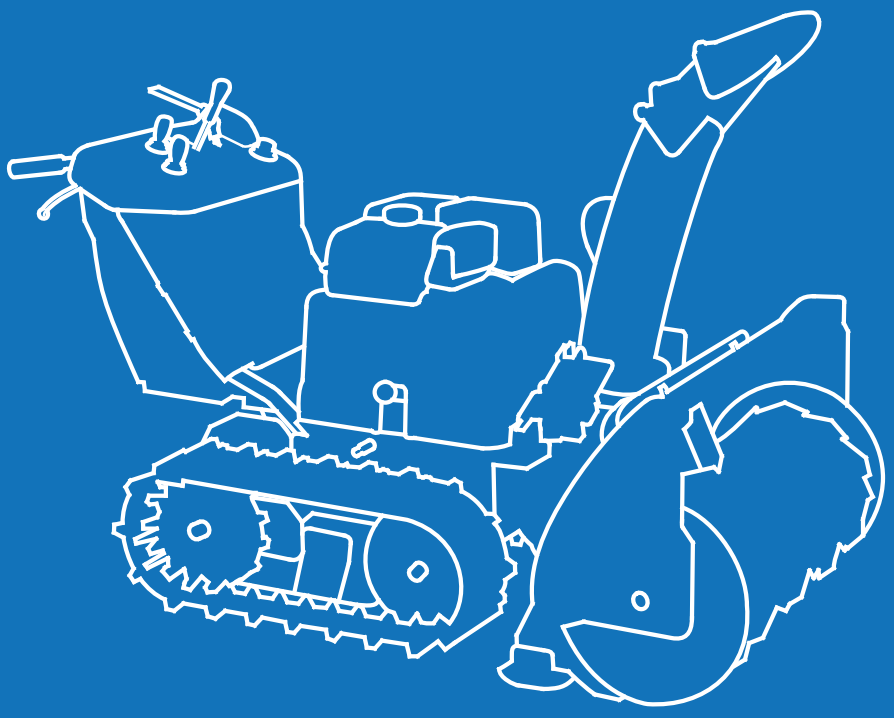
HONDA
汎 用 製 品

除雪機

HSM1380i・HSM1390i

取扱説明書



e SPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

Honda 除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

・**本機は除雪以外の目的で使用しないでください。**
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
故障の原因となるばかりでなく、製品保証の対象外となる場合があります。

取扱説明書について

この取扱説明書は

ー除雪作業をするときは、必ず携帯してください。

ー除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

ー紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPEC は、Honda が「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

Honda 除雪機は、除雪機安全協議会の自主規格「歩行型ロータリ除雪機の安全規格」に適合しています。

は　じ　め　に

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

本書は HSM1380i を中心に編集しています。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう 4
安全ラベル 9

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 11
エンジンスイッチ 15
制御警告灯（赤）.....15
制御表示灯（橙）.....16
充電警告灯 17
オイル警告灯 17
バッテリ警告灯 18
燃料コックレバー 19
マニュアルスタートレバー 19
i コントロールボタン（自動負荷調節）.....20
除雪作業モード切替スイッチ 21
エンジン回転調節レバー 23
前後進速度調節レバー 26
走行クラッチレバー 27
除雪クラッチボタン 27
旋回レバー 28
投雪方向調節スイッチ 29
オーガハウジング調節スイッチ 30
リセットボタン 31
ホイールピン 32
ソリ、スクレーパ 33
雪かき棒 33
作業灯 34
燃料計 34

エンジンをかける前に点検しましょう 35
燃料の点検 35
エンジンオイルの点検 37
バッテリの点検 38
オーガ／ブロアロックボルトの点検 40
その他の点検 40

エンジンのかけかた 41
運転操作のしかた 44
1. ソリ、スクレーパの点検、調節 44
2. オーガハウジング高さの調節 46
3. 始動 47
4. 運転操作 48
5. 旋回のしかた 58
6. 走行モータの保護機能について 60
7. バッテリ走行システム 61
8. リセット位置の変更のしかた 63
9. 除雪のしかた 65

除雪機の止めかた 68

定期手入れを行いましょう 72
日常点検 72
定期点検 73

点検・整備のしかた 74
携帯工具と付属部品 74
エンジンオイルの交換 75
点火プラグの点検、調整、交換 77
クローラの張り点検、調整 78
除雪部の点検 79
オーガ、ブロアの交換 81
バッテリ 82
ヒューズについて 86
各部が作動しないときは 87
各部の作動点検 87

運搬するときは 88
長期間使用しないときの手入れ 91
故障のときは 96
主要諸元 108
配線図 110

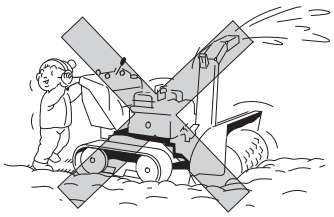
安 全 に お 使 い い た だ く た め に

警告

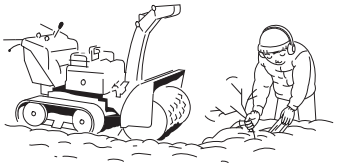
あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

• 作業を始める前に

- 本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- この取扱説明書および除雪機に貼り付けられているラベルを事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」(35 ～ 40 頁) を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。



- カバーやラベル類､その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機を運搬するときや保管するときは除雪クラッチボタンを「切」にしてください。
- 除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前にあらかじめ除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。



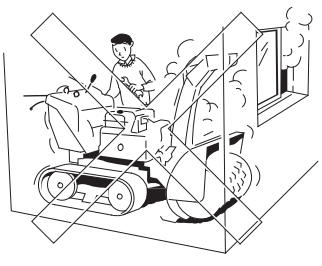
これだけはぜひ守りましょう

警告

- 作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。また防寒靴はすべり止めのあるものを着用してください。
- 砂利道などの除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので注意してください。
- ソリ、スクレーパを適切に調節し、オーガが石を巻き込まないようにして作業してください。
- 投雪場所は石が飛び出しても支障がない所を選んでください。
- 石を巻き込むと、除雪機の故障の原因となるとともに思わぬ事故の原因にもなります。
- 定められた点検を必ず行い､不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、給油限界位置を超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。



- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。



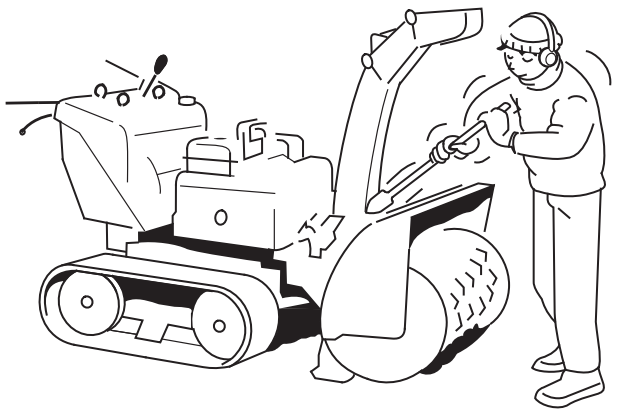
- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

警告

• 作業中の注意

- 除雪部は回転しており誤って触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
- 除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足などを絶対に近づけないでください。
- 投雪方向を人や建物等に向けて使用しないでください。投雪方向の調節は状況に応じて適切に行ってください。
- 雪の中に氷や石が混入している場合にはそれらが雪よりも遠くまで飛ぶことがあるので、余裕をもって調節してください。
- 万一、雪の中に石などの異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
- 除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。

  エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。



警告

- 急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるので必ず前後進速度調節レバーを “N”（中立）の位置（ 26 頁参照）にしてから走行クラッチレバーを握り、徐々に前後進速度調節レバーを操作してください。
- 雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。滑りやすい場所では低速で運転してください。除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、決して走らないでください。また方向転回時は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。特に後進時には、足元および後方に十分注意してください。
- 共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。
- 除雪中障害物に当ったときはすぐにエンジンを止め、エンジンスイッチキーを抜き、回転部が停止していることを確認してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- 傾斜面は横切って除雪しないでください。

  傾斜面で方向を変える場合には、本機の動きが平地と異なることがありますので十分注意してください。
- 作業中に異常な振動や音が発生し始めた場合には、ただちに運転を中止し、その原因を調べてください。
- 除雪作業をしないで本機を移動させる場合は、除雪クラッチボタンを「切」にしてください。
- 駐車をするときは平坦な場所に駐車してください。

警告

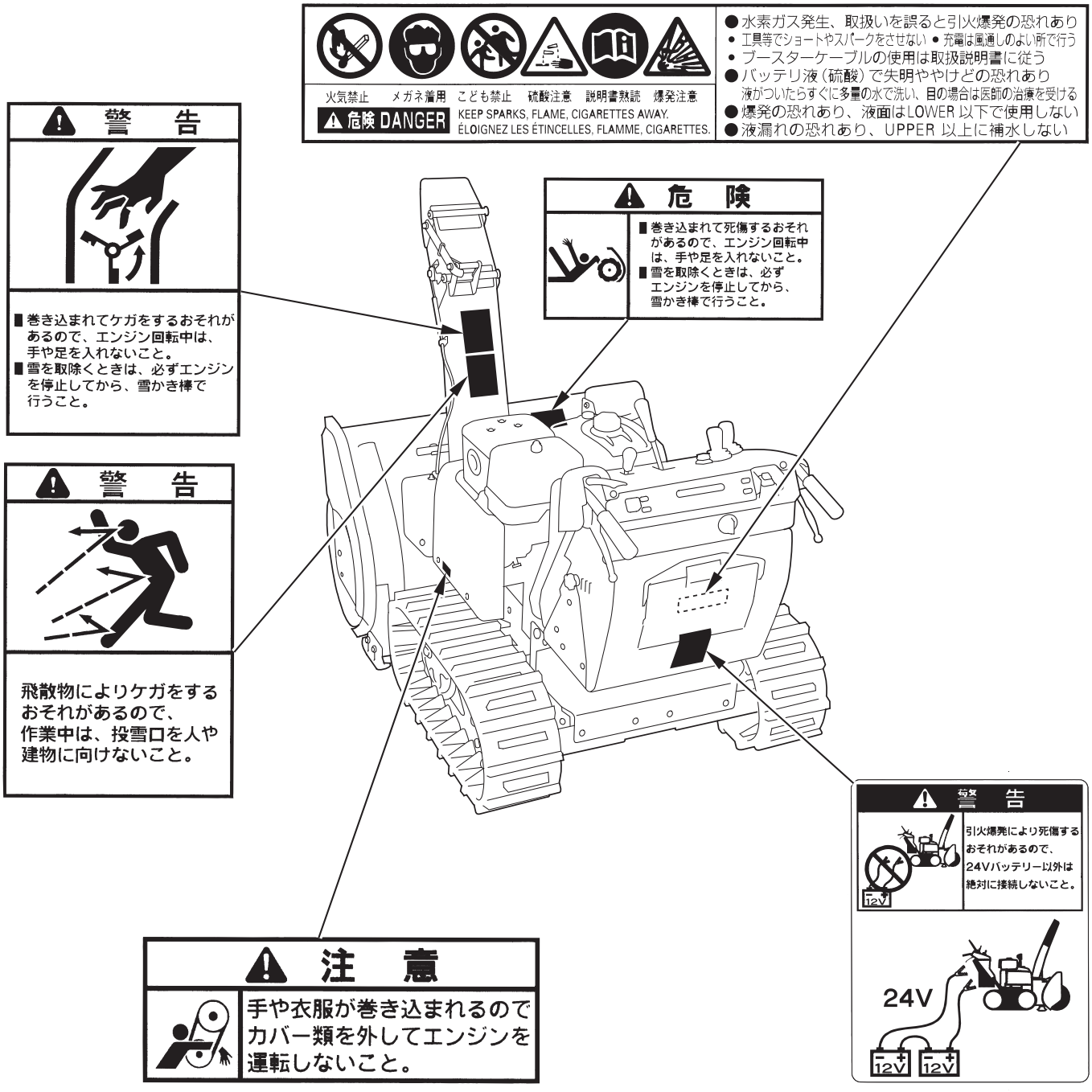
• 作業が終ったら

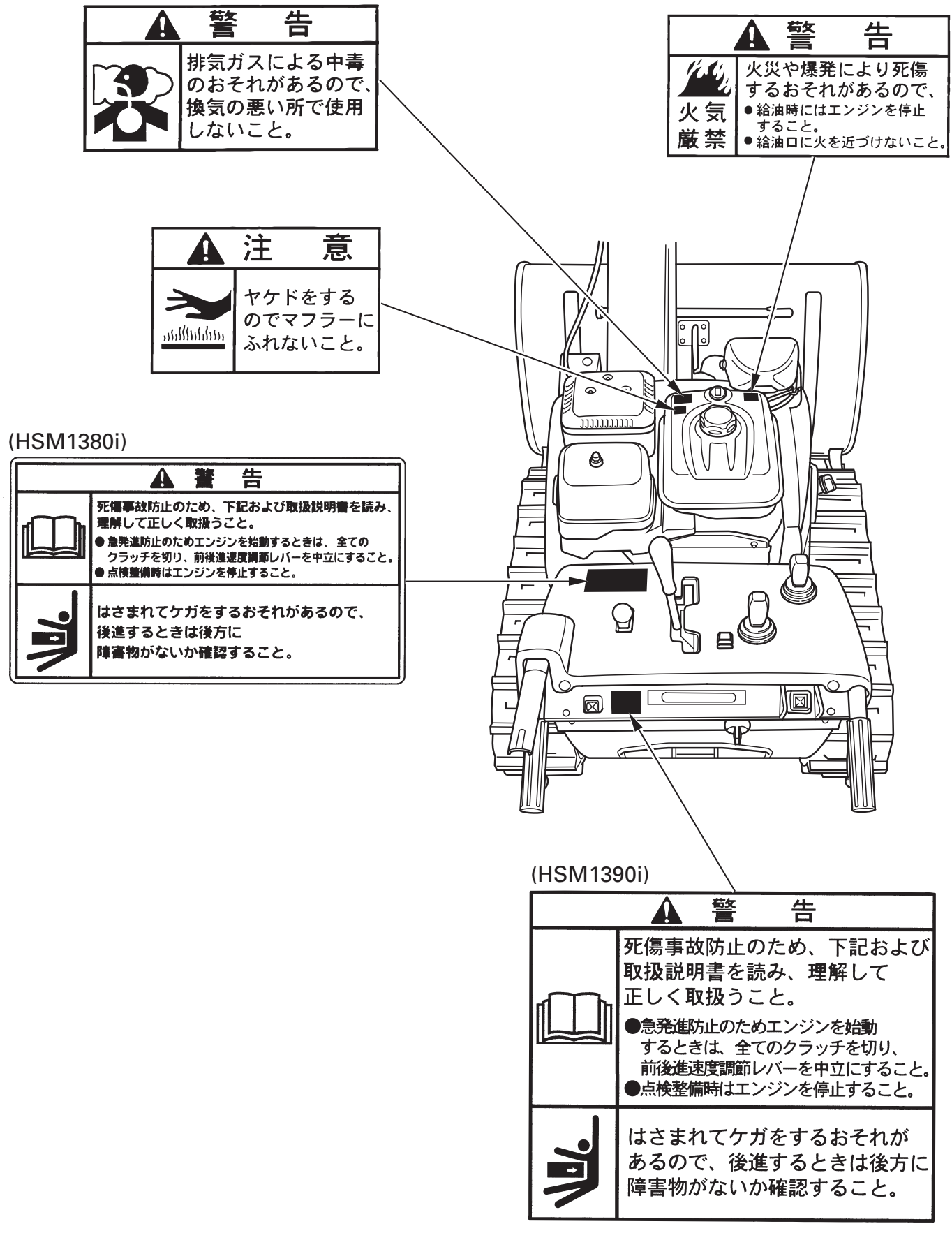
- 本機から離れるときには、オーガハウジングを路面に接地させ、必ずエンジンを止め、エンジンスイッチキーを抜いてください。いたずらなどで本機が動きだし、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機を格納するときやボディーカバーをかけるときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してから行ってください。
- 長期保管時（30 日以上使用しないとき）には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いて行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。
- 枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車保管しないでください。排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。
- 植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、本機の向きを決めましょう。

安全ラベル

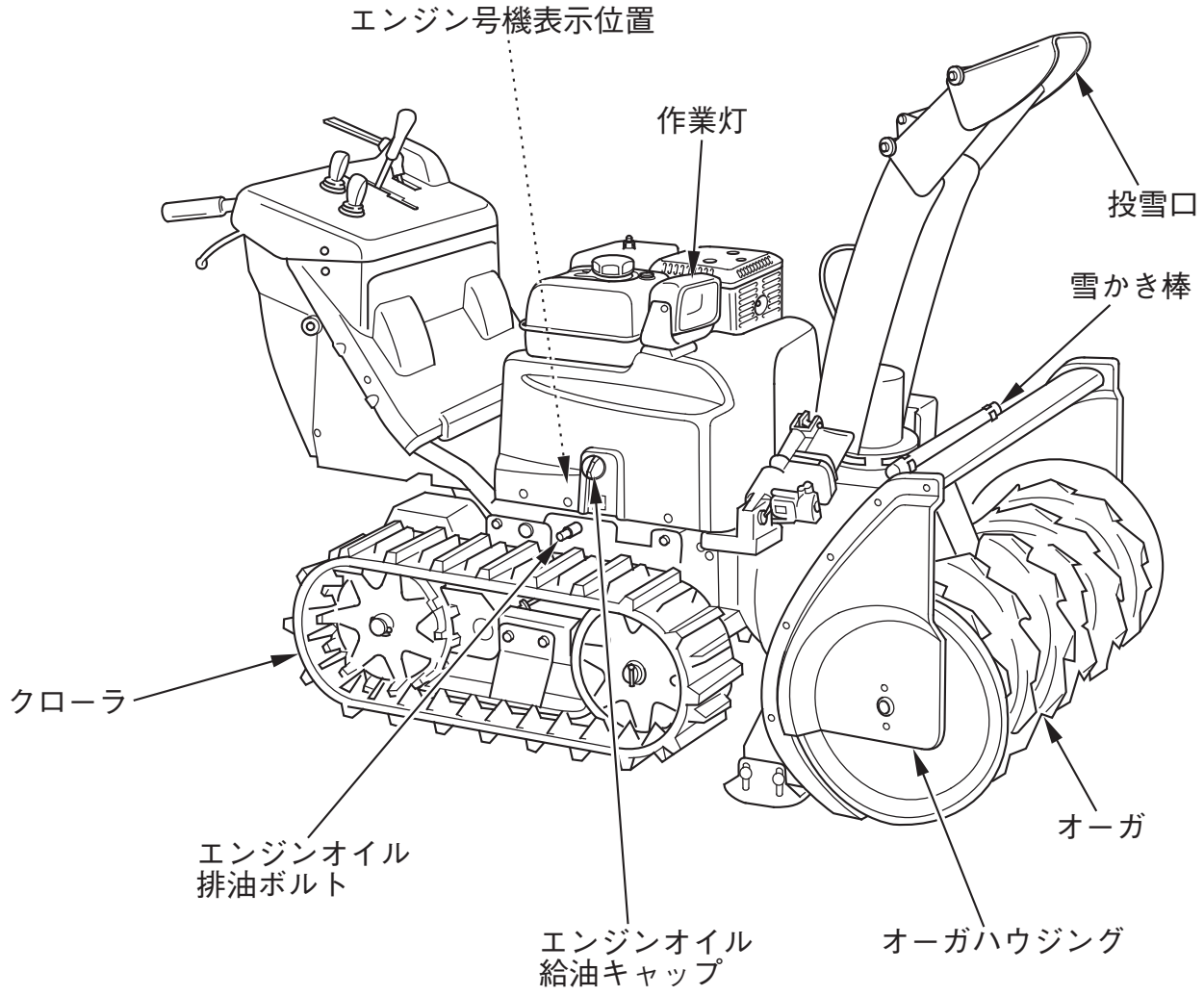
除雪機を安全に使用していただくため、本機は安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

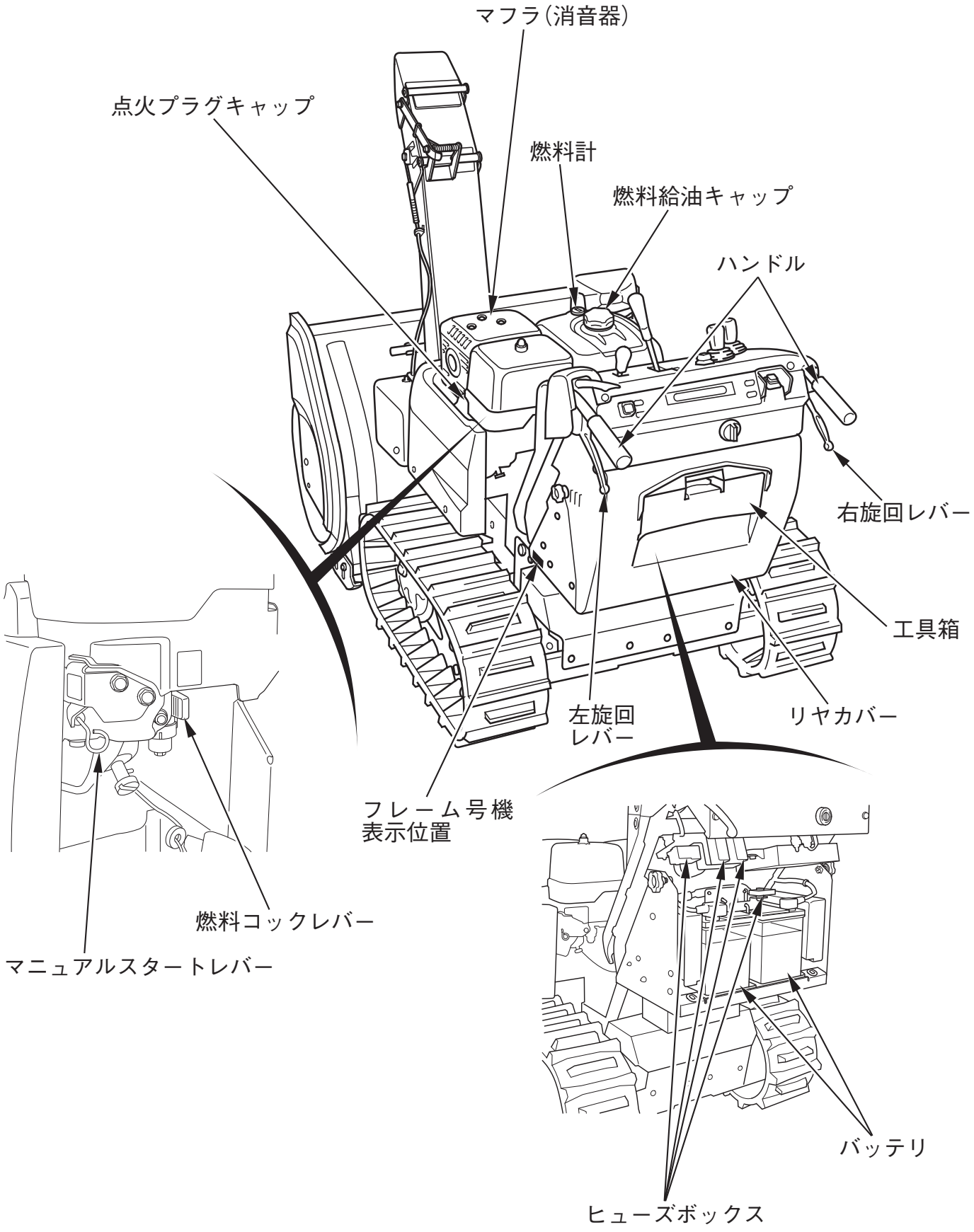



警　告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
警　告
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
● 給油時にはエンジンを停止すること。
● 給油口に火を近づけないこと。
注　意
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。
(HSM1380i)
警　告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
● 急発進防止のためエンジンを始動するときは、全てのクラッチを切り、前後進速度調節レバーを中立にすること。
● 点検整備時はエンジンを停止すること。
はさまれてケガをするおそれがあるので、後進するときは後方に障害物がないか確認すること。
(HSM1390i)
警　告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
●急発進防止のためエンジンを始動するときは、全てのクラッチを切り、前後進速度調節レバーを中立にすること。
●点検整備時はエンジンを停止すること。
はさまれてケガをするおそれがあるので、後進するときは後方に障害物がないか確認すること。

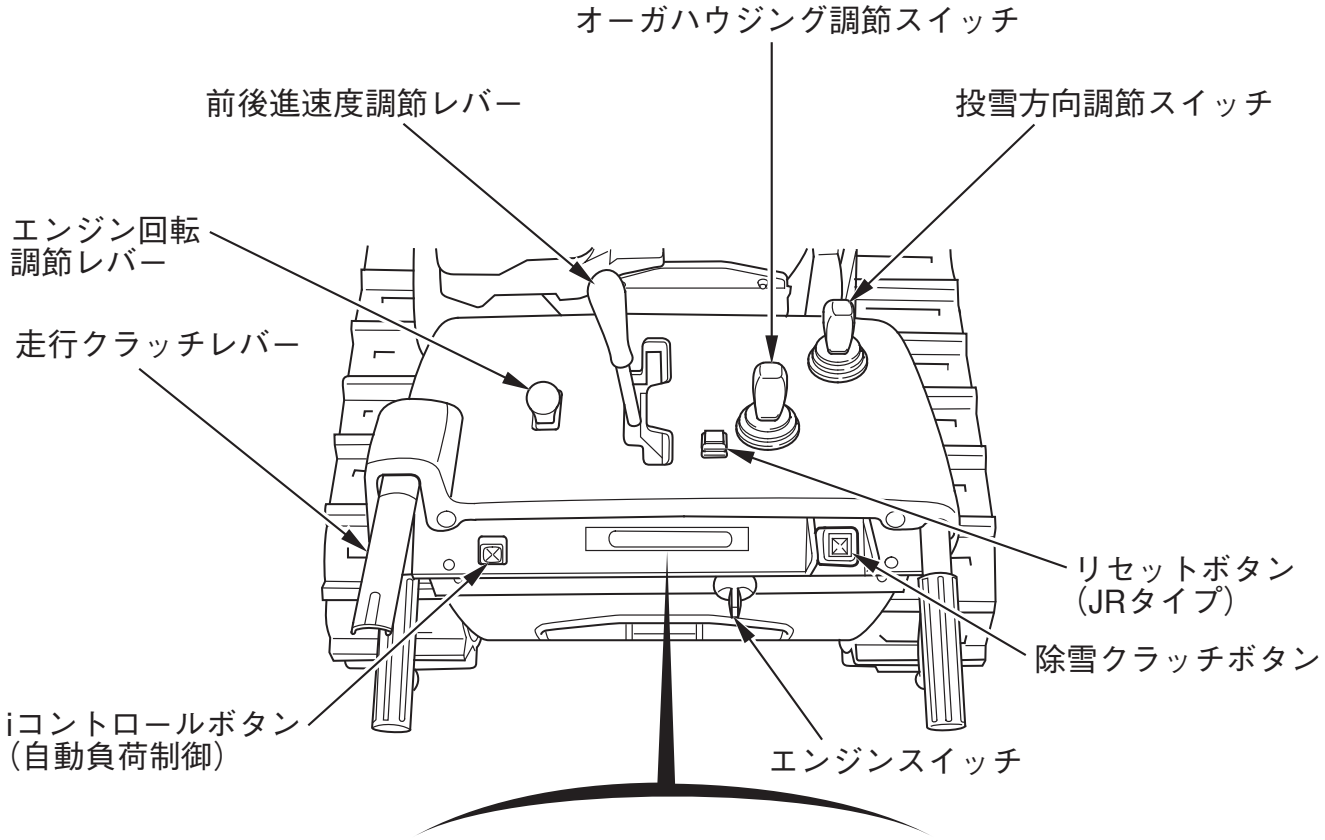
各部の名称と取扱いをおぼえましょう



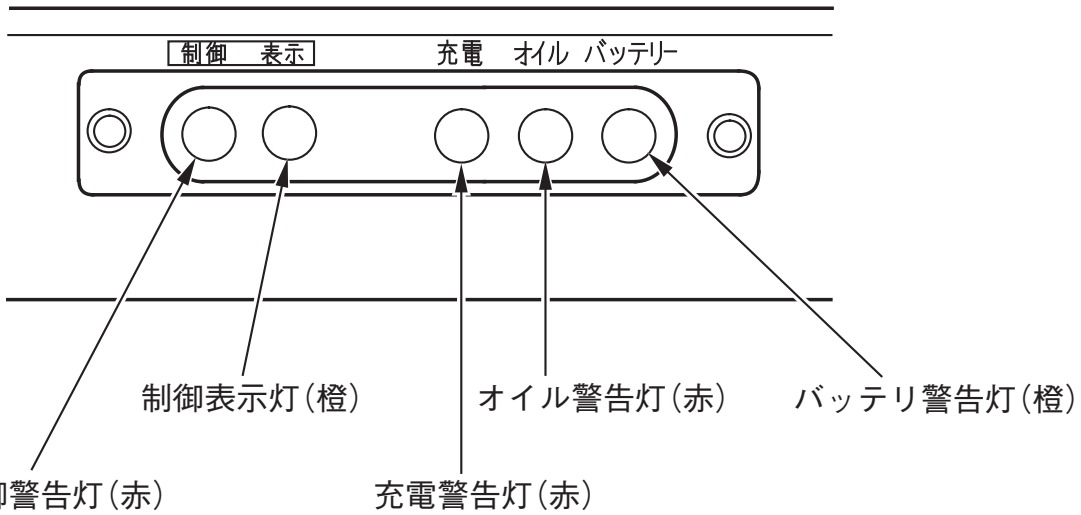
【イラストは HSM1380i（JR タイプ）】


マフラ(消音器)
点火プラグキャップ
燃料計
燃料給油キャップ
ハンドル
右旋回レバー
工具箱
リヤカバー
左旋回
レバー
フレーム号機
表示位置
燃料コックレバー
マニュアルスタートレバー
バッテリ
ヒューズボックス

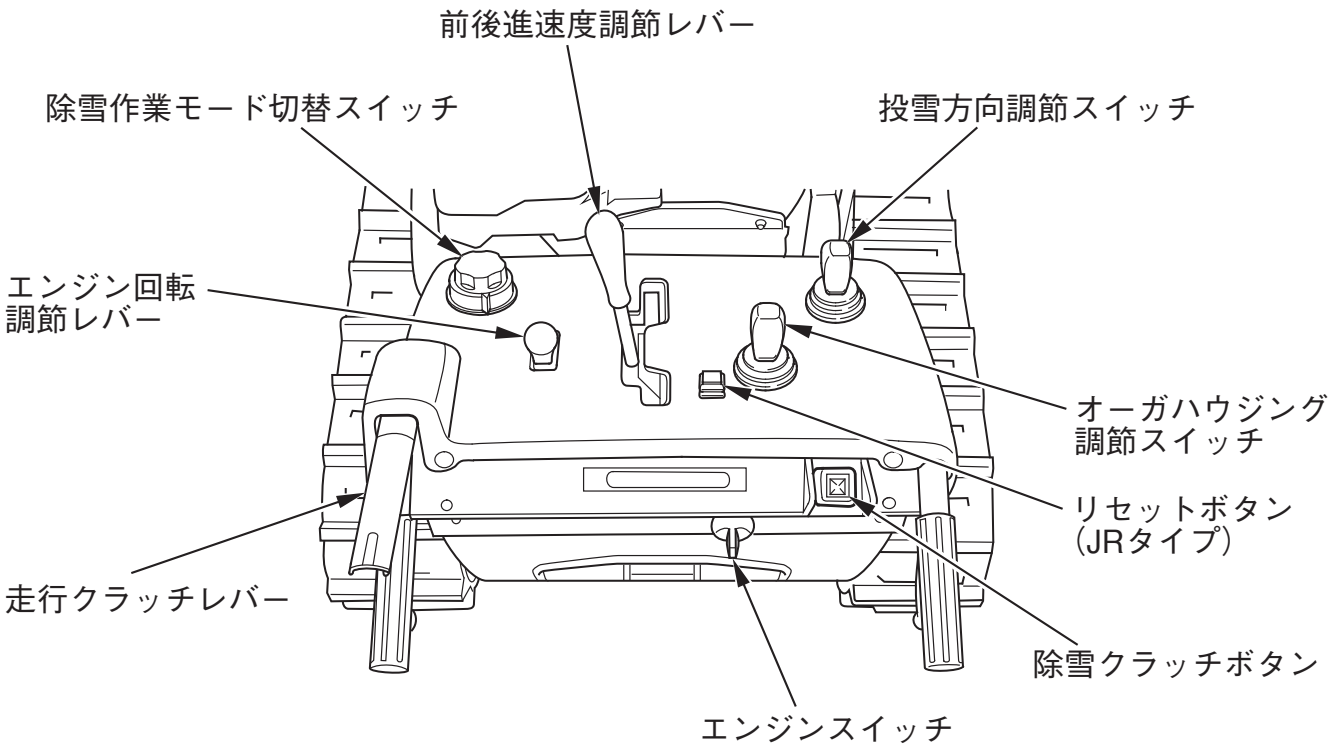
[HSM1380i]



[HSM1380i、HSM1390i]



[HSM1390i]


前後進速度調節レバー
除雪作業モード切替スイッチ
投雪方向調節スイッチ
エンジン回転
調節レバー
オーガハウジング
調節スイッチ
リセットボタン
(JRタイプ)
走行クラッチレバー
除雪クラッチボタン
エンジンスイッチ

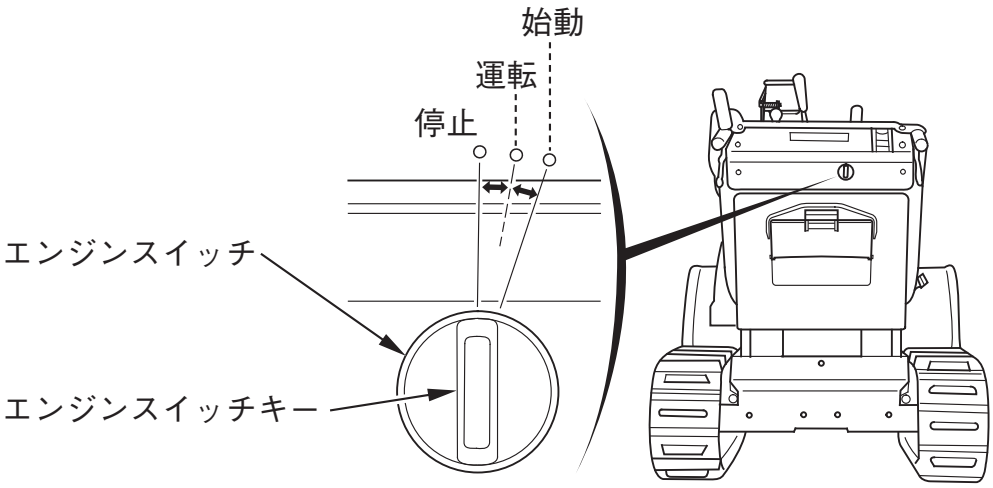
エンジンスイッチ

エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。

停止・・・・・ エンジンを停止する位置です。
（エンジンスイッチキーの抜き取り、差しこみができます。）

運転・・・・・ エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。
（“**停止**” からこの位置にしたとき、カチカチと音が鳴ります。）

始動・・・・・ エンジンを始動させる位置です。スタータモータが回ります。エンジンスイッチキーから手を放すと自動的に “**運転**” の位置に戻ります。

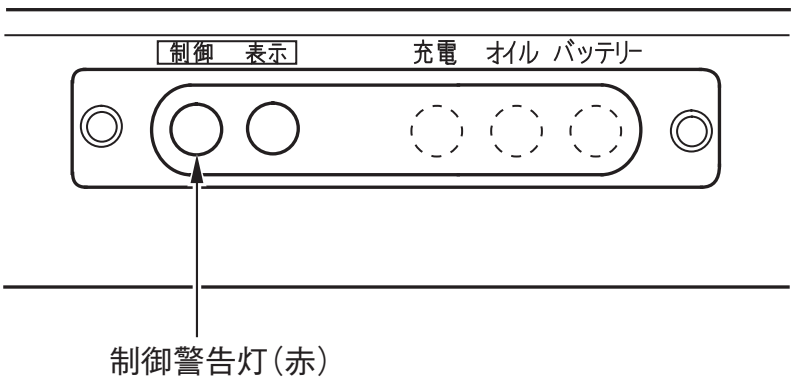


制御警告灯（赤）

除雪機の故障を制御警告灯の点灯により知らせます。

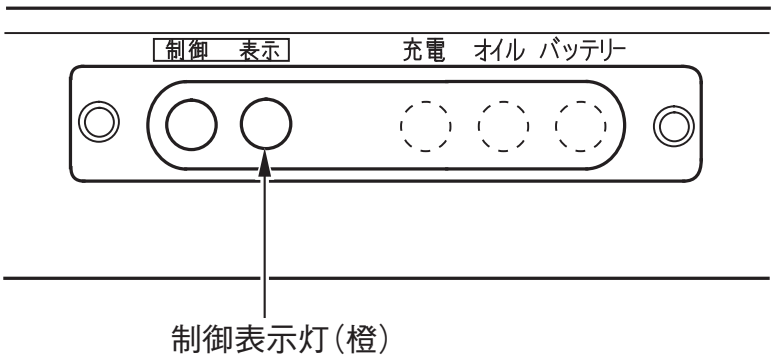
制御警告灯（赤）は、エンジンスイッチを “**運転**” にすると数秒間点灯し、消えるのが正常です。点灯しない場合はお買いあげ販売店で点検を受けてください。

万一、運転中に点灯した場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止し、お買いあげ販売店で点検を受けてください。



制御表示灯（橙）

除雪機の故障や状態を表示灯（橙）の点灯と点滅により知らせます。



《制御表示灯の点灯》

表示灯（橙）は、エンジンスイッチを “**運転**” にすると点灯し、エンジン始動後に消灯すれば正常です。点灯しない場合はお買いあげ販売店で点検を受けてください。

運転中にエンジンが停止した場合も点灯します。再度エンジンを始動し、表示灯が消灯することを確認してください。

《制御表示灯の点滅》

雪質など雪の状態によってはモータ保護機能が働き、表示灯（橙）が点滅します。（60 頁参照）

運転中に点灯または点滅した場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止し、故障診断表（ 98 頁参照）の説明を参考に対処してください。

取扱いのポイント

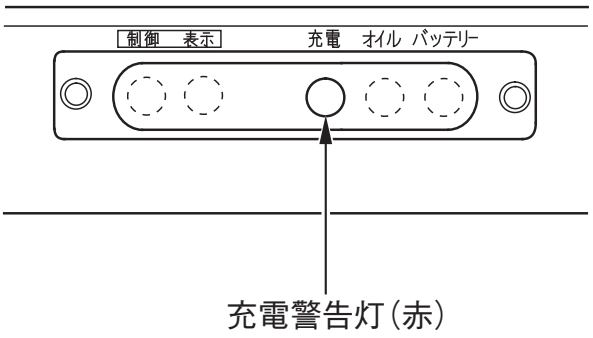
除雪クラッチボタンまたは走行クラッチレバーを操作した状態でエンジンスイッチを “運転” にすると表示灯（橙）が点滅します。除雪クラッチボタンまたは走行クラッチレバーの操作をやめると表示灯（橙）が消灯し、正常な状態になります。

充電警告灯

エンジンの充電系統に異常が発生したときに点灯します。

エンジンスイッチを“**運転**”にすると点灯し、エンジン始動後に消灯すれば正常です。

- 運転中に点灯した場合は、本機を安全な場所に移動して、エンジンを停止し、お買いあげ販売店で点検を受けてください。
- 運転中にエンジンが停止した場合も点灯します。再度エンジンを始動し、警告灯が消灯すれば正常です。

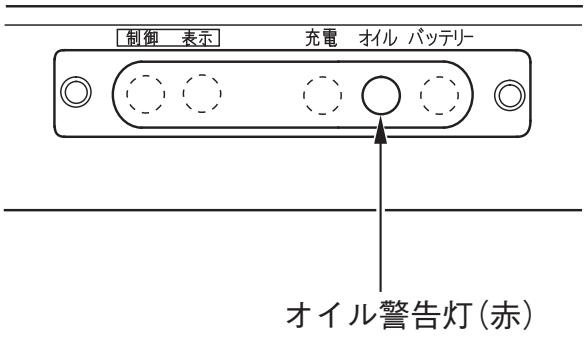


オイル警告灯

エンジンオイル量が少なくなったときに点灯します。

エンジンスイッチを“**運転**”にすると数秒間点灯し、その後消灯すれば正常です。オイル警告灯が消灯しない場合は、エンジンを始動することはできません。エンジンオイル量を点検してください。(37 頁参照)。

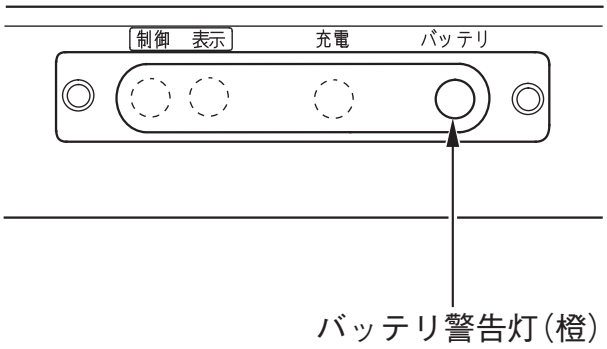
- 運転中にランプが点灯したときはただちに安全な場所に移動してエンジンを停止し、エンジンを水平にしてオイル量を点検してください。(37 頁参照)。
- オイル警告灯が点灯した状態で使用しつづけると、エンジン故障の原因となります。



バッテリ警告灯

バッテリの電圧が低下したときに点滅します。(バッテリの充電または交換方法は83、93 頁参照)。

エンジンスイッチを “**運転**” にすると数秒間点灯し、消灯すれば正常です。消灯しない場合は、バッテリの電圧が低下しています。早めにバッテリの充電（エンジンを始動し暖機運転することでバッテリを充電します。）または交換をしてください。



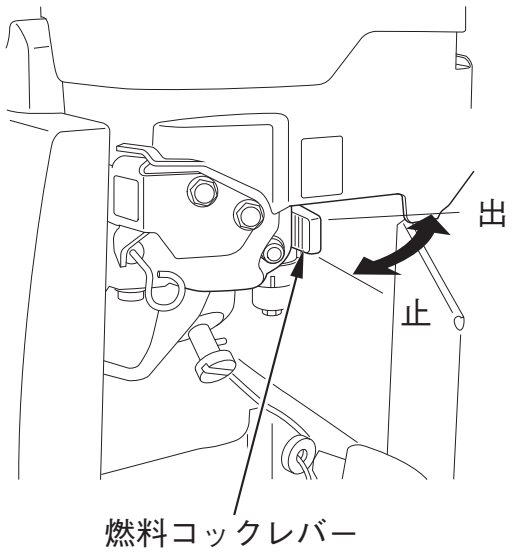
取扱いのポイント

気温が低いときは、バッテリの電圧が低下し消灯しない場合もあります。

- エンジンが停止した状態でエンジンスイッチを “**運転**” にしたままの状態でもバッテリ電圧の低下により点滅します。この場合、エンジンを始動するか、またはエンジンスイッチを “**停止**” にしてください。

燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレータまでの燃料通路を開閉するときに操作します。
操作は確実に “**止**” “**出**” の位置に合わせます。

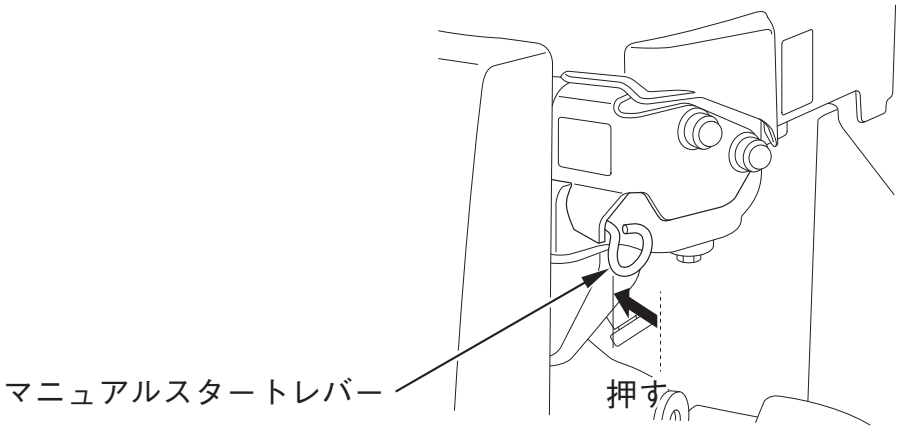


⚠警告

- 本機を運搬するときや、保管および点検整備時に本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れを防ぐためにレバーを “止” の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

マニュアルスタートレバー

本機はオートチョークですが、氷等の付着によりオートチョークが働かなくなり、エンジンが始動しない場合に操作します。（43 頁参照）通常の始動時は、操作しません。

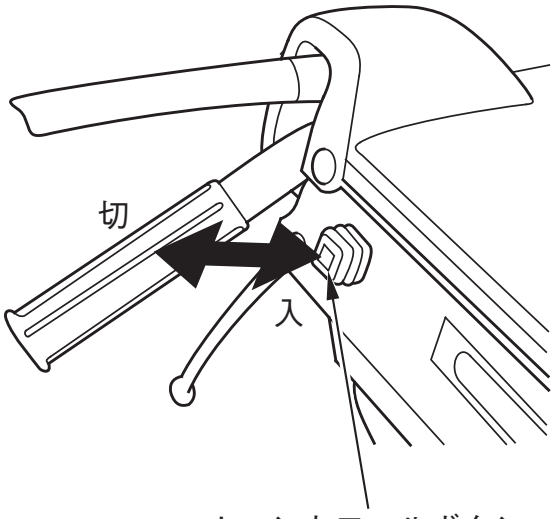


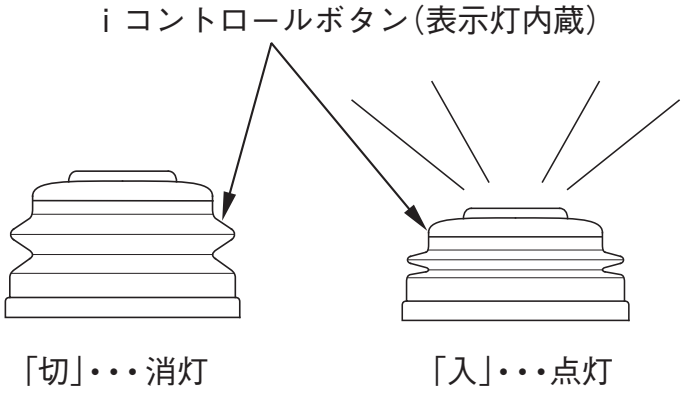
ｉ コントロールボタン（自動負荷調節）
[HSM1380i]

除雪作業時の本機の前進速度を自動調節にするときに操作します。

ｉ コントロールボタンを押すと、表示灯（緑）が点灯し、ｉ コントロールが「入」（作動状態）になります。

再度ボタンを押すと表示灯（緑）が消灯し、ｉ コントロールが「切」（解除）になります。





ｉ コントロールボタン「入」の特徴

- 除雪作業の負荷に応じて、エンジン出力が最大付近を保つように走行速度を自動的に減速します。
- 設定したエンジン回転を一定に保つよう自動調節するので、投雪距離の変化が少なくなります。
- 後進時にオーガを自動的に上昇させます。
  除雪クラッチボタンが「入」のときは、再前進時にオーガを元の位置に自動的に戻します。（JR タイプ）

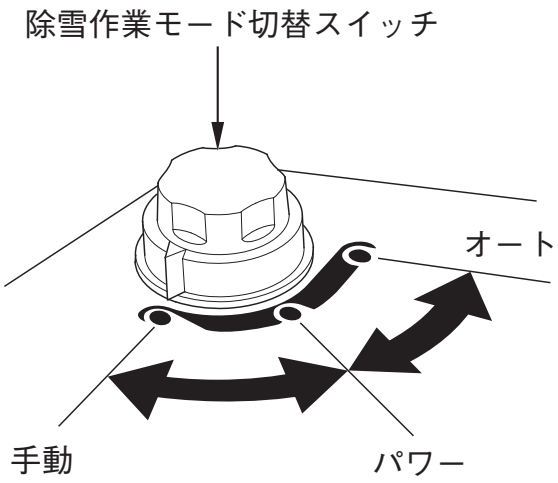
ｉ コントロールボタン「切」

- 自動調節は行いません。エンジン回転と走行速度は除雪作業の負荷に応じて調節が必要です。

除雪作業モード切替スイッチ

[HSM1390i]

除雪作業に応じて本機の除雪作業モード（自動調節機能）を切替えるときに操作します。除雪作業モードは、【オート】【パワー】【手動】の3モードから選択できます。



【オート】モードの特徴

- 除雪作業の負荷に応じて走行速度を自動的に減速して、除雪部の浮き上がりを低減します。
- 運転状況に応じてエンジン回転数を自動的に設定するので、エンジン回転の調節が不要です。
- エンジン回転を一定に保つよう自動調節するので、投雪距離の変化が少なくなります。
- 後進時にオーガを自動的に上昇させます。除雪クラッチボタンが「入」のときは、再前進時にオーガを元の位置に自動的に戻します。
  (JR タイプ)
- 移動時の走行速度は他のモードより低く設定しています。速く移動したい場合は、他のモードを選択してください。

【パワー】モードの特徴

- 除雪作業の負荷に応じて、エンジン出力が最大付近を保つように走行速度を自動的に減速します。
- 設定したエンジン回転を一定に保つよう自動調節するので、投雪距離の変化が少なくなります。
- 後進時にオーガを自動的に上昇させます。除雪クラッチボタンが「入」のときは、再前進時にオーガを元の位置に自動的に戻します。
  (JR タイプ)

【手動】モード

・自動調節は行いません。エンジン回転と走行速度は除雪作業の負荷に応じて調節が必要です。

取扱いのポイント

走行中には除雪作業モード切替スイッチを切替えないでください。走行中に切替えるとエラーが出て走行が停止し、除雪部の回転も停止します。

停止した場合は、前後進速度調節レバーを “N”（中立）にして、走行クラッチレバーを放し、再度握るとエラーから解放されます。

各部の設定が作業目的に合っているか確認してから作業を再開してください。

エンジン回転調節レバー

エンジン回転調節レバーは、エンジン回転／投雪距離を調節するときに操作します。

作業環境に応じ調節し設定してください。

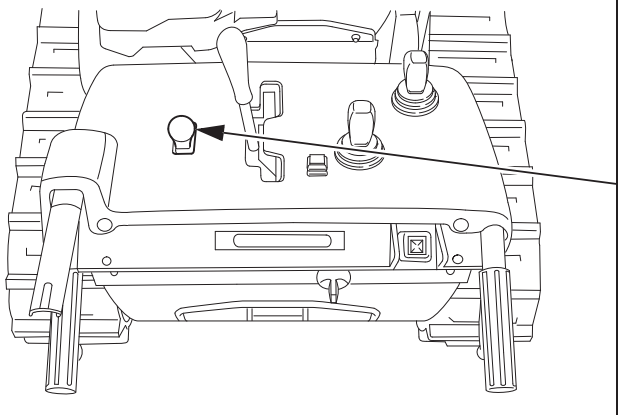
・設定に迷う場合、3 番目「標準」の位置にし、除雪作業を行いながら適切な投雪距離に調節することを推奨します。

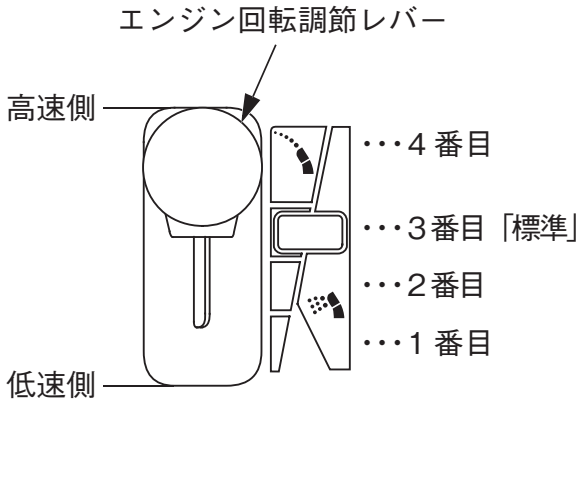
エンジン回転調節レバー		エンジン回転	投雪距離	除雪量＊
高速側	4 番目	速い	長い	少い
↕	3 番目「標準」	↕	↕	↕
↕	2 番目	↕	↕	多い
低速側	1 番目	遅い	短い	少い

＊除雪量は「エンジン回転」でなく「エンジントルク（エンジンの力強さ）」によります。「エンジントルク」は「エンジン回転」と異なり「2 番目」が最大です。

エンジン回転調節レバーは、【オート】モードで機能しません。

機種	モード	エンジン回転調節レバー
HSM1380i	i コントロール「入」	機能する
	i コントロール「切」	機能する
HSM1390i	【オート】	機能しない
	【パワー】	機能する
	【手動】	機能する

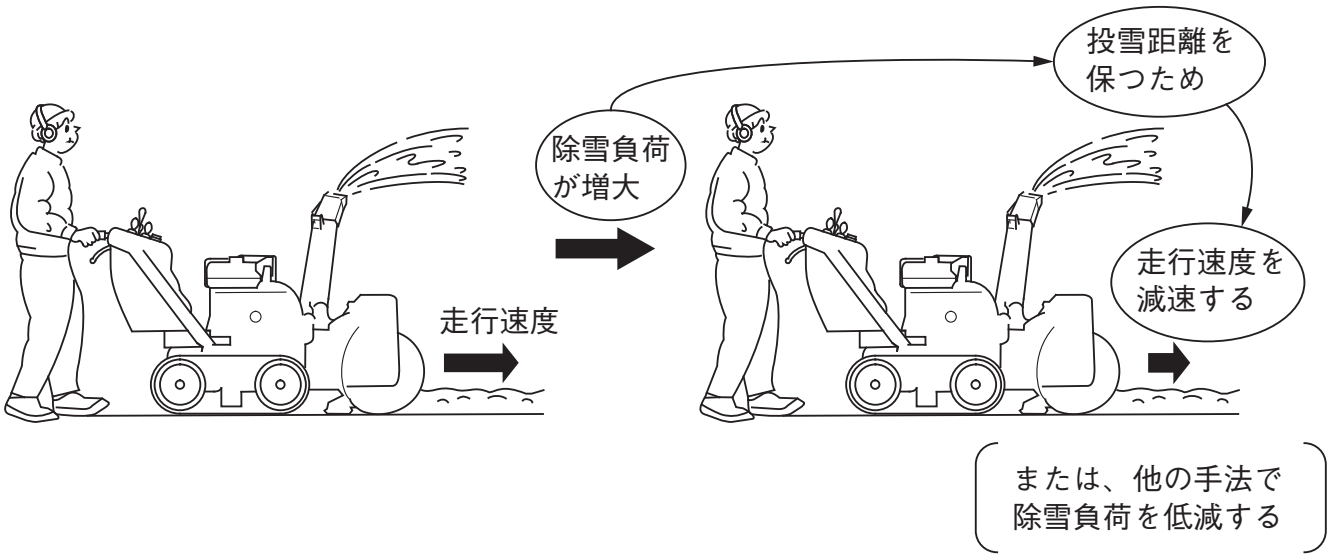




除雪負荷と投雪距離について：

設定されたエンジン回転は、除雪負荷が増大すると遅くなります。投雪距離を一定に保つためには、「走行速度の減速」など作業方法を変更し、除雪負荷を低減してください。

雪		除雪負荷	エンジン回転／投雪距離を一定に保つ方法		
量	重さ		走行速度	除雪幅	段切除雪
多い ↕ 少ない	重い ↕ 軽い	増大 ↕ 減少	減速する ↑	狭くする ↑	段切する ↑

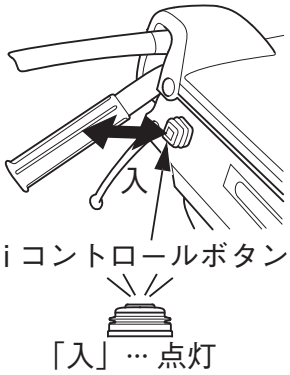


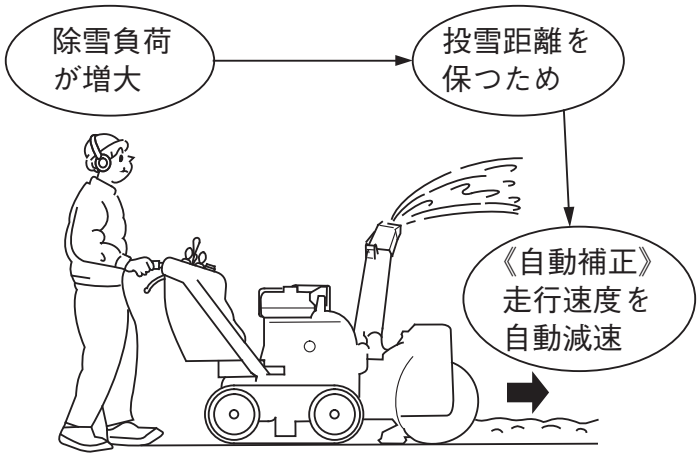
i コントロールボタン「入」（HSM1380i）

【パワー】モード（HSM1390i）

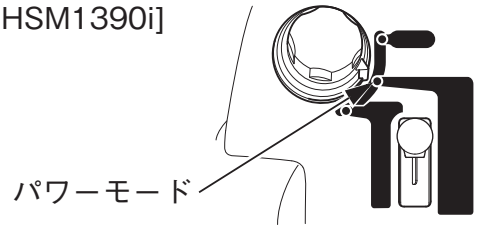
除雪負荷が増大すると「設定されたエンジン回転／投雪距離」を保つために、走行速度を自動的に減速します。

[HSM1380i]





[HSM1390i]

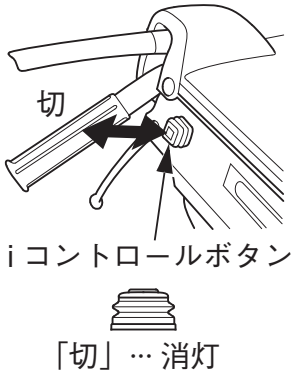


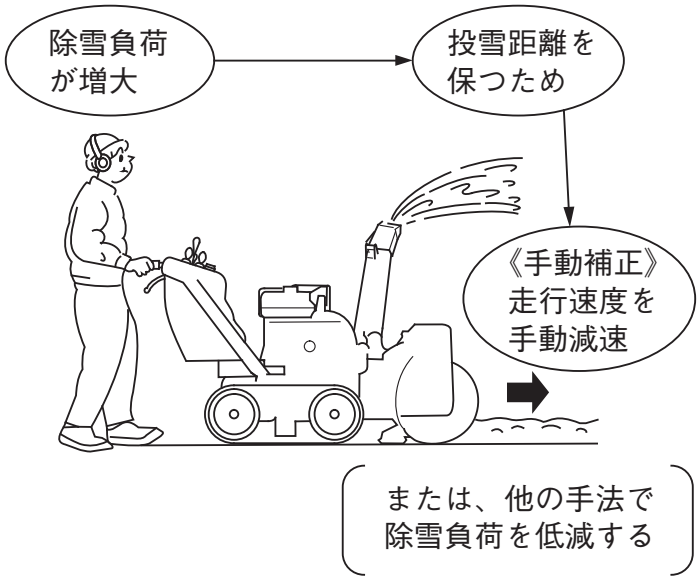
i コントロールボタン「切」（HSM1380i）

【手動】モード（HSM1390i）

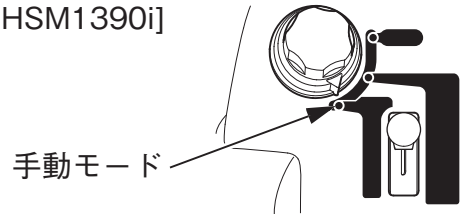
除雪負荷が大きくなると、「設定されたエンジン回転／投雪距離」が低下します。エンジン回転／投雪距離を一定に保つためには、除雪負荷を低減させてください。

[HSM1380i]





[HSM1390i]



前後進速度調節レバー

本機を前進、後進するときに操作します。

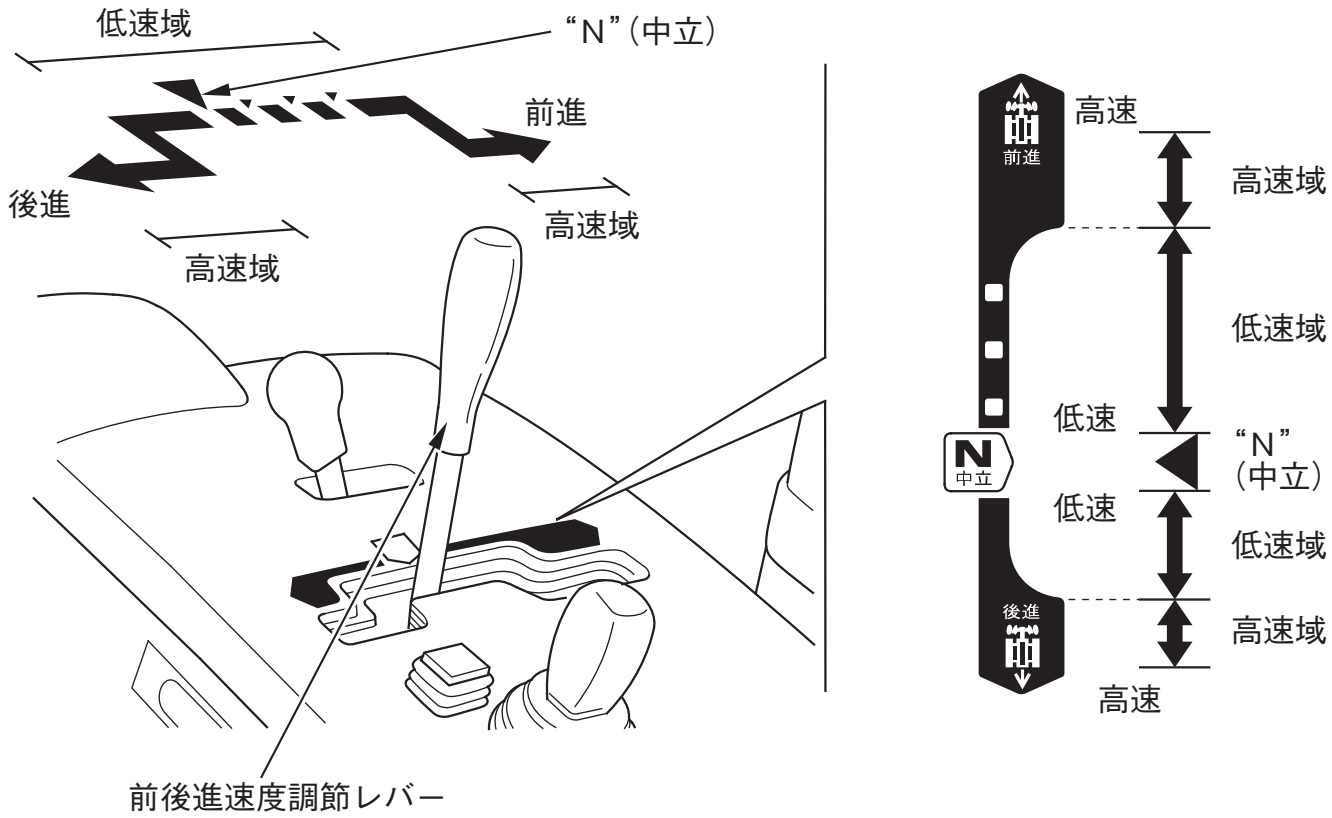
低速域、高速域に区切ってあり、前進、後進の前後進速度調節レバーの位置により前進、後進の速度を無段階に調節することができます。

前進するときは‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ “N”（**中立**）の位置から前方へ徐々に動かします。

後進するときは‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ “N”（**中立**）の位置から後方へ徐々に動かします。

本機を使用しないときは “N”（**中立**）の位置にしてください。

- 雪質に合わせて低速域内で前後進速度調節レバーの位置を選び、速度を設定し、除雪作業をします。
- 移動時は路面や周囲の状況に合わせて速度を設定してください。

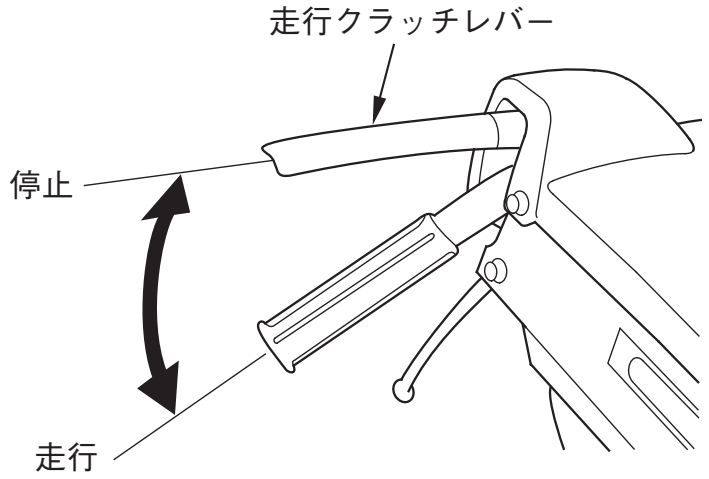


取扱いのポイント

本機は後進時の最高速度を制限することができます。必要な場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。

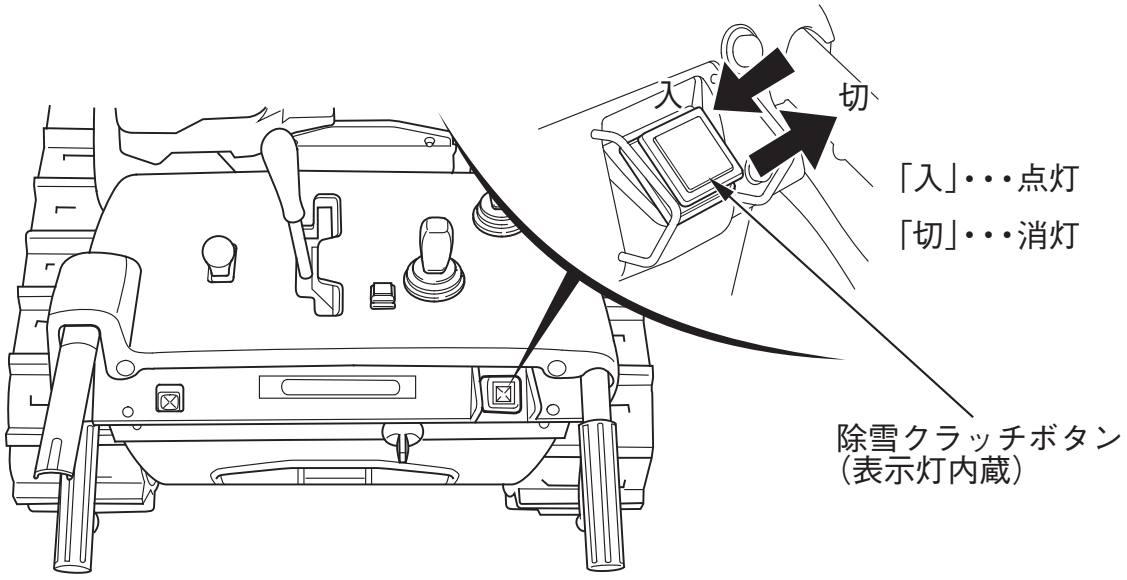
走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを握ると走行し、放すと止まります。



除雪クラッチボタン

除雪クラッチボタンを押し、表示灯（緑）が点灯するとオーガとブロアが回転します。スイッチを放すと消灯し、数秒後にオーガとブロアの回転が止まります。



除雪クラッチボタンと走行クラッチレバーを連動して作動させることができます。（50、53、57 頁参照）

- 除雪クラッチボタンを押しても表示灯（緑）が点灯せず、またオーガとブロアも回転しない場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。
- 除雪クラッチボタンを 4 秒以上押し続けると、オーガとブロアの回転が止まります。

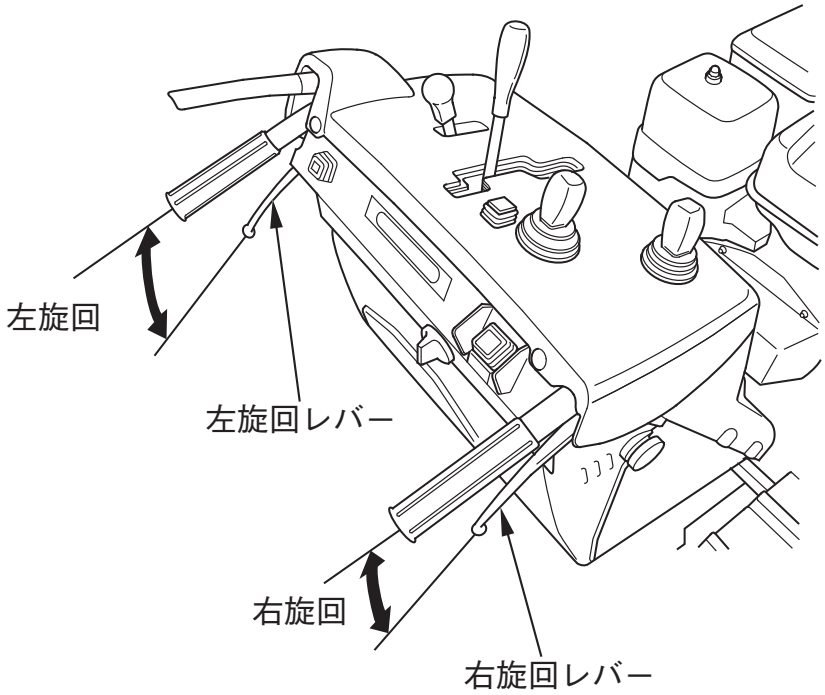
旋回レバー

本機の方向を変えるときに操作します。

走行中に旋回したい方向のレバーを握ると、握った方向に本機は旋回します。また、前後進速度調節レバーの位置および旋回レバーの握り込み量により旋回径が変わります。

右旋回 ····· 右旋回レバーのみを握ります。

左旋回 ····· 左旋回レバーのみを握ります。



⚠警告

- 旋回するときは、十分スピードを落としてください。雪の上での作業は滑りやすく転倒するおそれがあります。
- 旋回レバーを操作するときは、周囲の安全を十分確認してください。また、旋回レバーの握り込み量によっては本機の方向が急激に変化することがあります。ハンドルや操作パネルに体が触れないよう注意してください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 路面の状況（アスファルト・雪・傾斜・凸凹等）により旋回径および運転感覚が変わる場合があります。

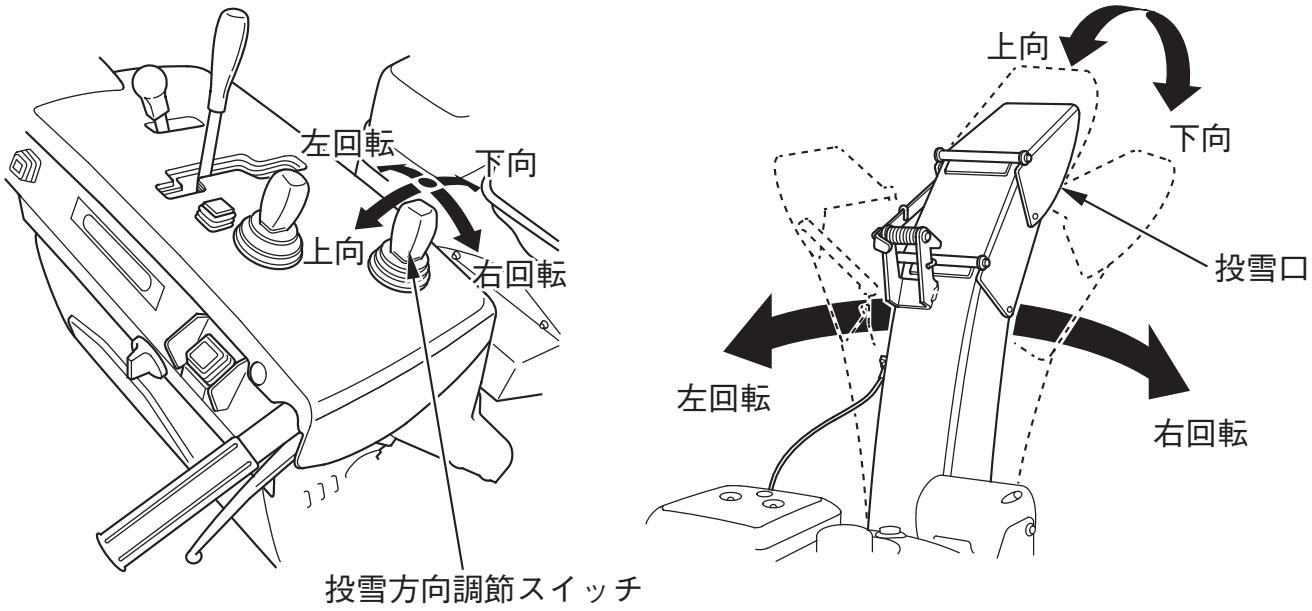
投雪方向調節スイッチ

投雪角度と方向を変えるときに操作します。

エンジンスイッチを “**運転**” の位置にし、スイッチを操作することによって投雪口を上下、左右に無段階に調節することができます。

投雪方向調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。

- シュータ／シュータガイドモータがロックした状態で投雪方向調節スイッチを操作し続けると保護機能が働き、動かなくなることがあります。動かなくなった場合は、時間をおいてから再度操作してください。



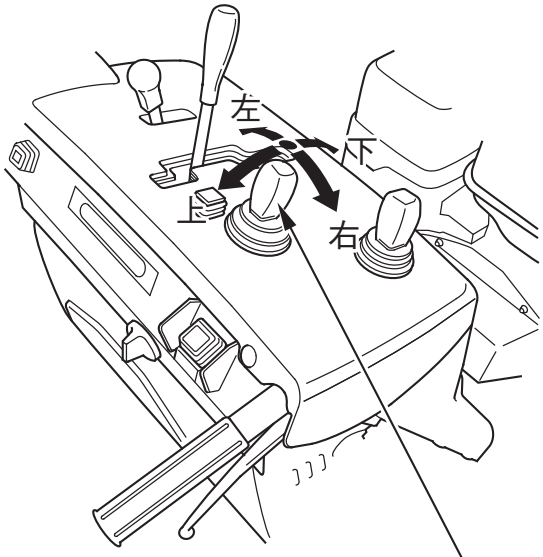
⚠注意

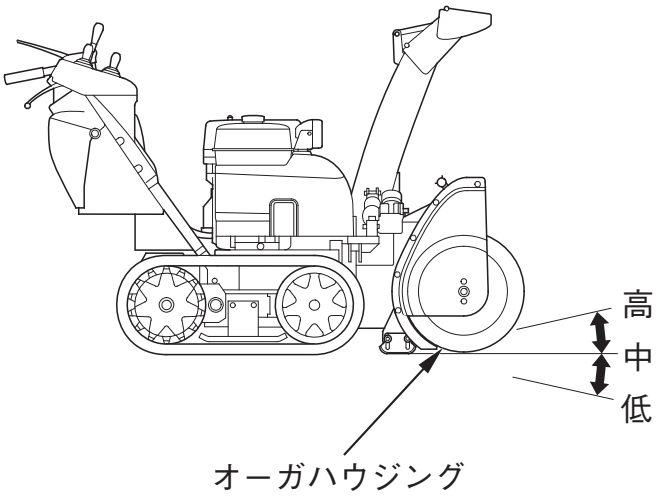
投雪角度や方向を変えるときには、人や建物などに注意して行ってください。

オーガハウジング調節スイッチ

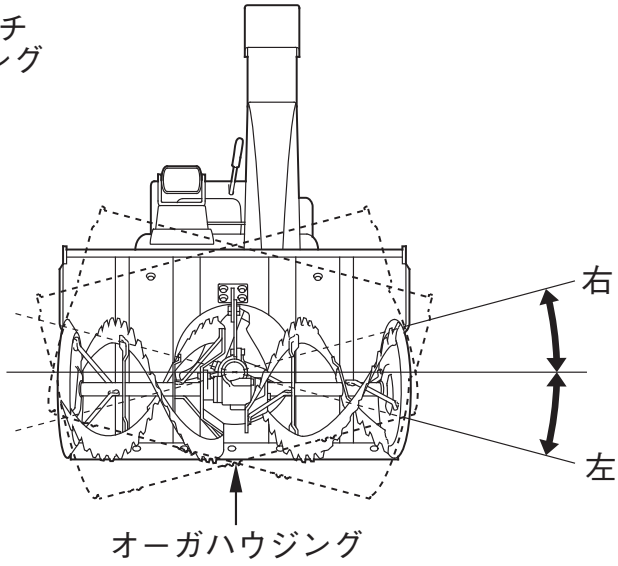
- **ローリング機構（除雪部の左右の傾きを調節する機構）付きタイプ（JR タイプ）**
  除雪部の高さと左右の傾きを調節するときに操作します。
  除雪部を上下、左右無段階に調節することができます。
- **ローリング機構無しタイプ（JN タイプ）**
  除雪部の高さを変えるときに調節してください。
  除雪部を上下無段階に調節することができます。

オーガハウジング調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。





オーガハウジング調節スイッチ
（左右の傾きの調節はローリング
機構付きタイプのみ可能）

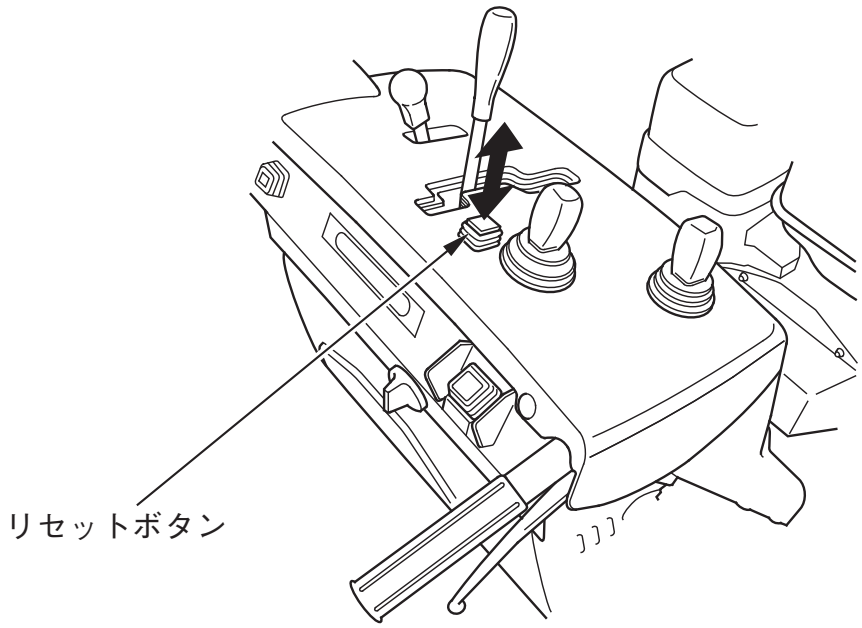


リセットボタン

[JR タイプ]

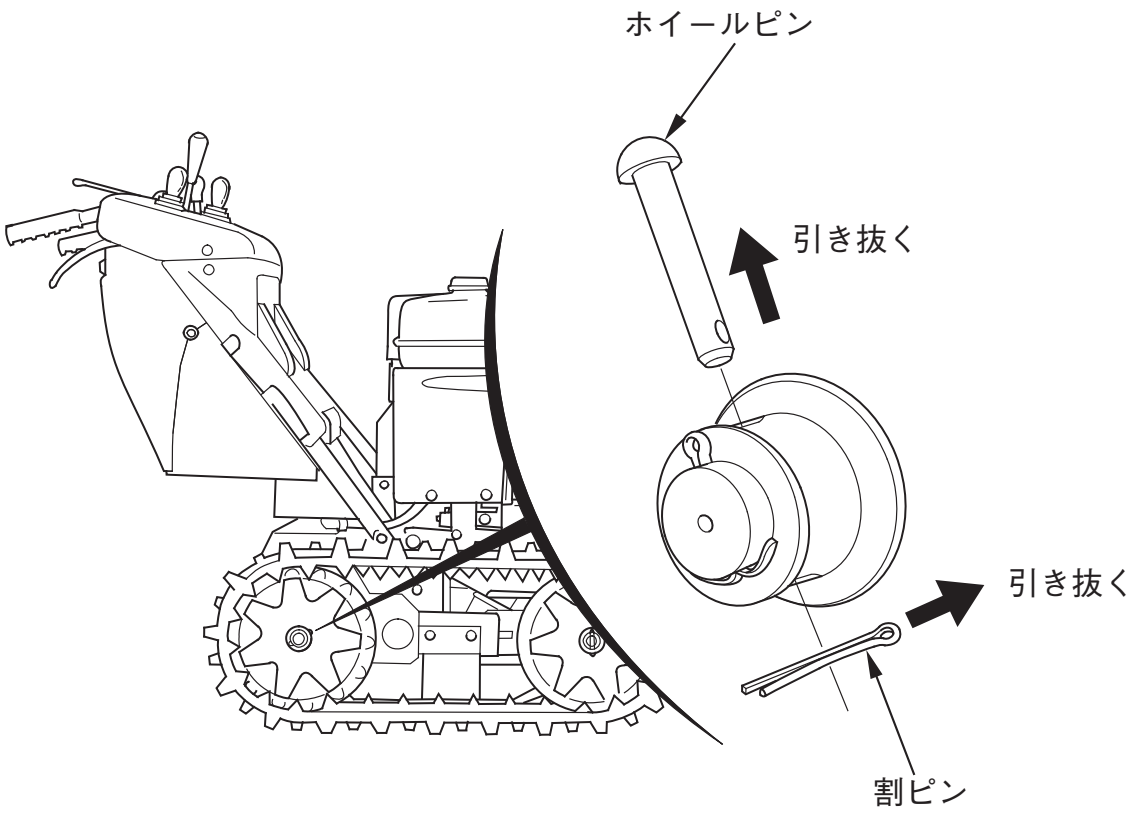
オーガハウジングの上下位置をリセット位置に戻すときに操作します。(左右位置をリセット位置に戻すことはできません) オーガハウジング調節スイッチでオーガハウジングの高さを動かし、元の位置に戻すときに便利です。お買い上げ時のリセット位置は、平坦な場所で除雪部が路面に接地するように設定されています。

リセット位置の設定は変更が可能です。(変更方法は 63 頁参照)



ホイールピン

エンジンやモータの故障などで本機が動かなくなったときは、左右後輪のホイールピンを引き抜くと、クローラが空転状態となり押したり、引いたりして移動することができます。

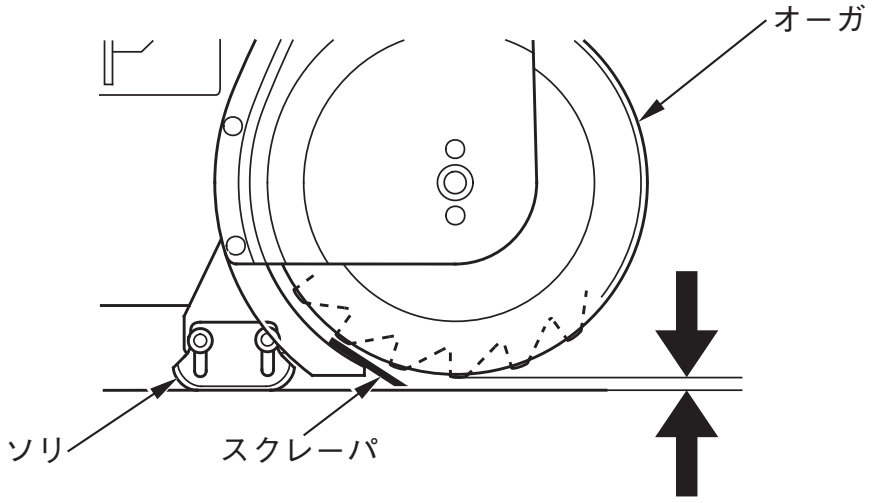


⚠警告

- ホイールピンを抜くときはエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから作業を行ってください。
- 傾斜地ではホイールピンを抜かないでください。本機が空走して、思わぬ事故を招くことがあります。
- 滑りやすい場所では十分に注意して移動してください。
- 移動後は平坦な場所に駐車し、ホイールピンを取り付けるときは新しい割ピンを使用してください。

ソリ、スクレーパ

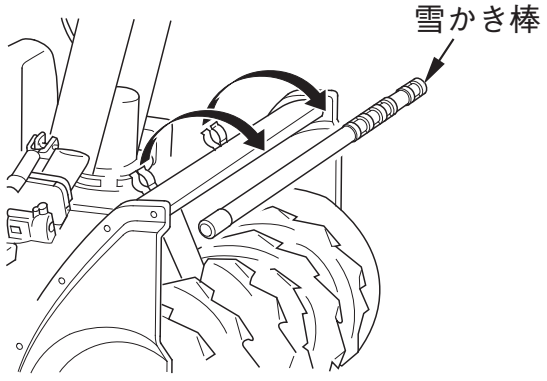
除雪する路面の状態に合わせて調節してください。ソリは除雪部と路面との高さを決め、スクレーパは除雪面をならします。調節のしかたは、44、45 頁を参照してください。



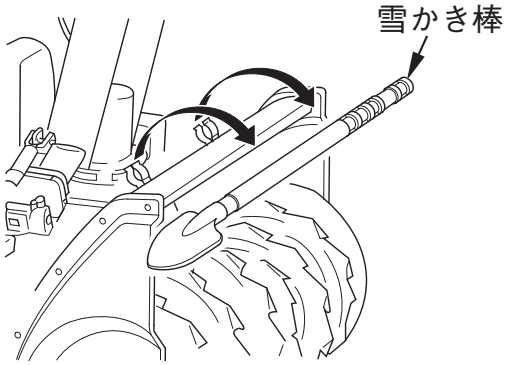
雪かき棒

雪が除雪部や投雪口に詰まったときに使用します。

雪かき棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取付け位置にセットしてください。



(HSM1380i)



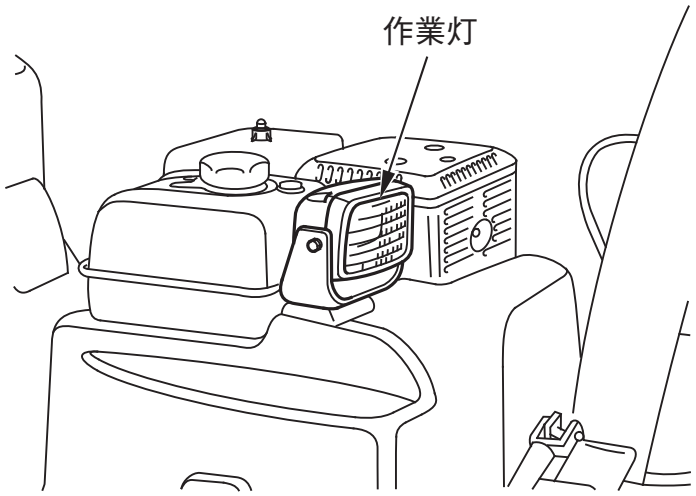
(HSM1390i)

⚠警告

除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

作業灯

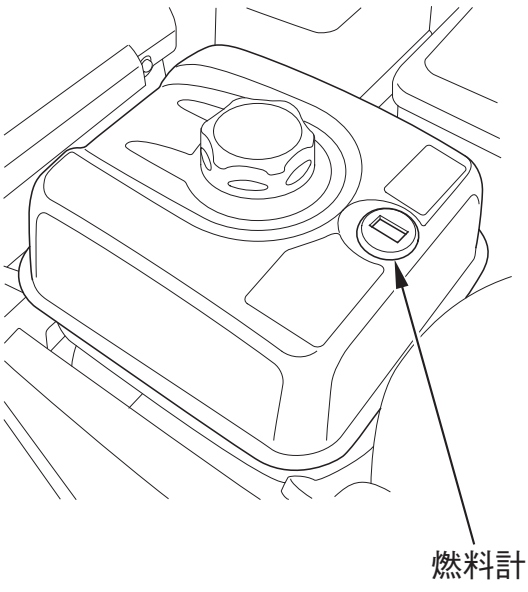
エンジンスイッチを “**運転**” の位置にすると点灯します。エンジンを始動させずに作業灯を点灯させ続けると、バッテリが消耗して使用できなくなるおそれがあります。作業灯が点灯しない場合、バルブ切れのほかバッテリに異常がある可能性がありますので、バッテリの点検も実施してください。



燃料計

燃料の残量を示します。

燃料計の針が “**空**” に近づいたら早目に燃料を補給してください。



エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

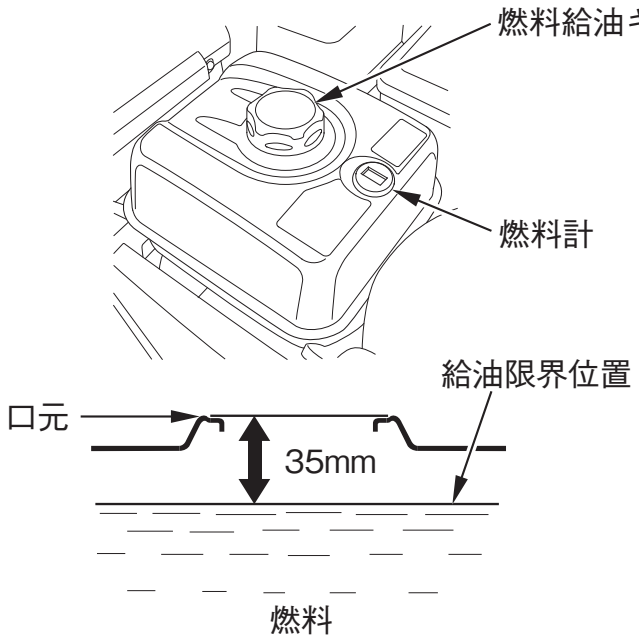
点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように、エンジンスイッチキーを抜いて行ってください。

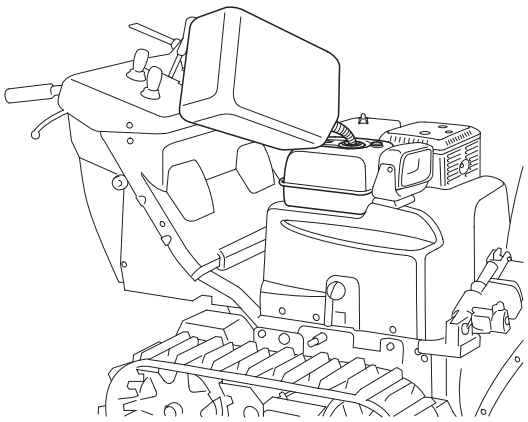
エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

燃料の点検

点検

燃料計の針が “ 満 ” の位置にあることを確認します。少ないときには図の給油限界位置まで補給してください。





補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 補給は燃料給油キャップを外し、燃料膨張を考慮し口元から 35mm 以上の余裕を取ってください。
- 補給は本機の右側（燃料タンク側）で行ってください。
- 補給後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

- ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。（ 91 頁参照）

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

燃料を補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し死傷するおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布きれなどは火災と環境に注意して処分してください。
- 燃料は注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

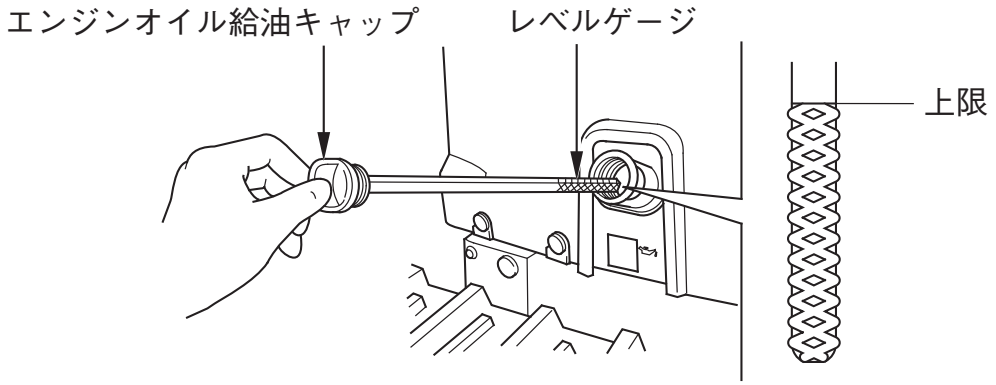
取扱いのポイント

- 除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入ると、エンジン不調の原因になります。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

エンジンオイルの点検

点検

点検時は平坦な場所でオーガを完全に路面に接地させます。本機を水平にしてオイル給油キャップを取外します。オイル給油キャップをねじこまず差し込んで、レベルゲージの上限までオイルがあるか確認してください。少ないときは新しいオイルを補給してください。



補給

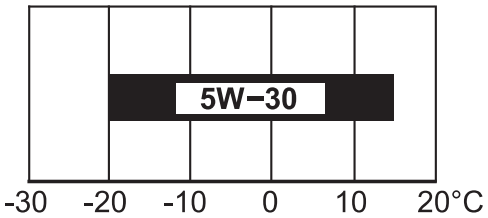
推奨オイル：

Honda 純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）または API 分類 SE 級以上の SAE 5W-30 エンジンオイルをご使用ください。

オイル容量：1.1L

- 少ないときには新しいオイルを上限まで補給します。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は 75 頁参照）

取扱いのポイント

- エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- 補給、交換時にこぼれたオイルは、布きれなどでふき取ってください。

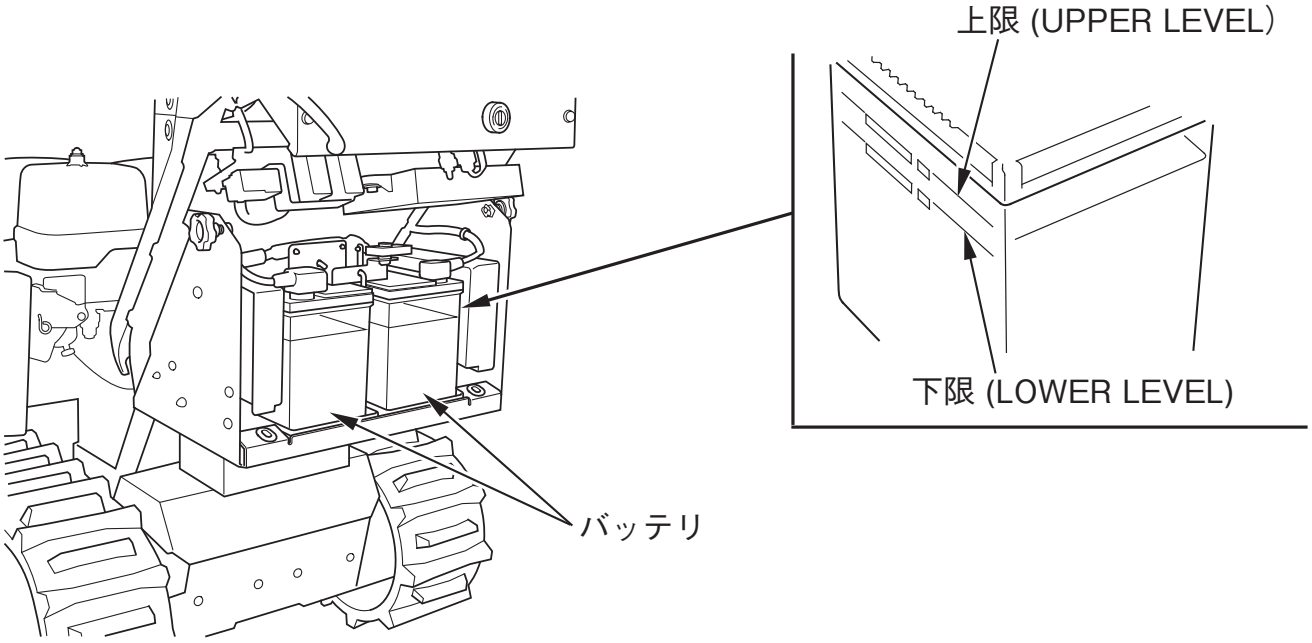
バッテリの点検

点検

リヤカバーを取外して(83頁参照)両方のバッテリの液面が各槽とも上限(UPPER LEVEL）にあるか確認してください。

同時にキャップの通気孔のつまり、端子のゆるみがないか確認してください。

バッテリ液が下限（LOWER LEVEL）に近い場合は、バッテリ補充液（蒸留水）を補給してください。(85 頁参照)



⚠警告

- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は（＋）側から接続し、外すときは（－）側から外し、付属のチューブを端子に取付け、保護してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- 本機に 24 V（12 V バッテリ 2 個直列接続）以外の接続はしないでください。引火、爆発により重大な傷害に至る可能性があります。
- 端子部の取付けがゆるい状態で使用すると、作業灯、警告灯、表示灯のバルブが切れたり、ECU（コンピュータ）が故障判定することがあります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 15 分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

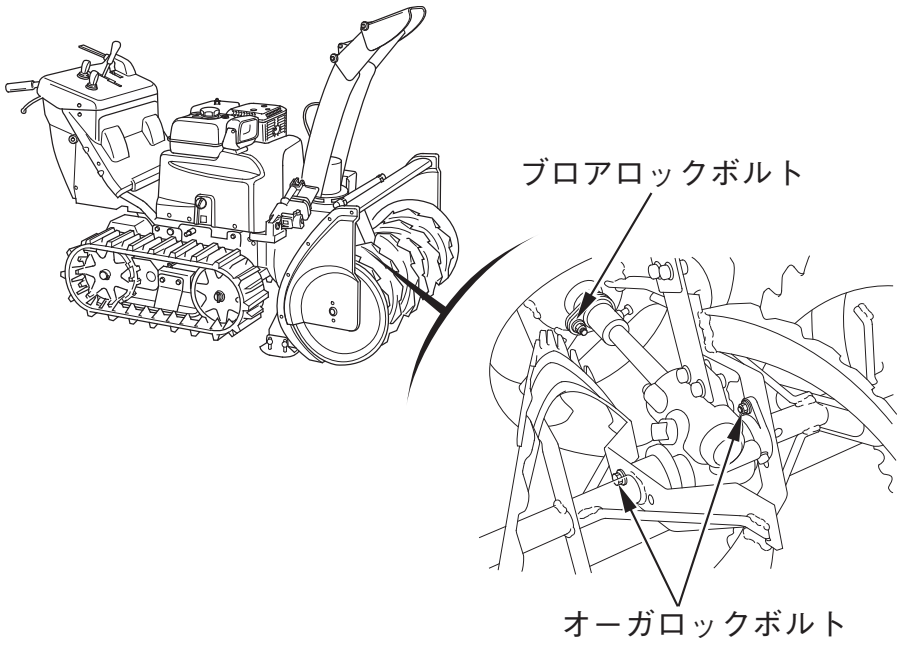
- 長時間使用しない場合には、（－）バッテリ端子を外しておいてください。長期間保管中は、6 か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液（蒸留水）を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限（UPPER LEVEL）以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

オーガ／ブロアロックボルトの点検

オーガ／ブロアロックボルトのゆるみ、折れがないか確認します。

ロックボルトは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

もし折れている場合は、79 頁の手順に従って交換してください。



⚠警告

オーガ、ブロアを点検するときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いてください。

その他の点検

- 除雪部（オーガ、ブロア）及び投雪口（シュータ）に障害物がないこと。
- ソリ、スクレーパの点検（ 44 頁参照）
- 次の点検も忘れずに行ってください。

1. 各部の締付け、ゆるみ、ガタはないか
2. エンジン始動後点灯、点滅し続ける警告灯はないか
3. 各部の作動状態
4. 異常箇所 …… 前日悪かった所はないか

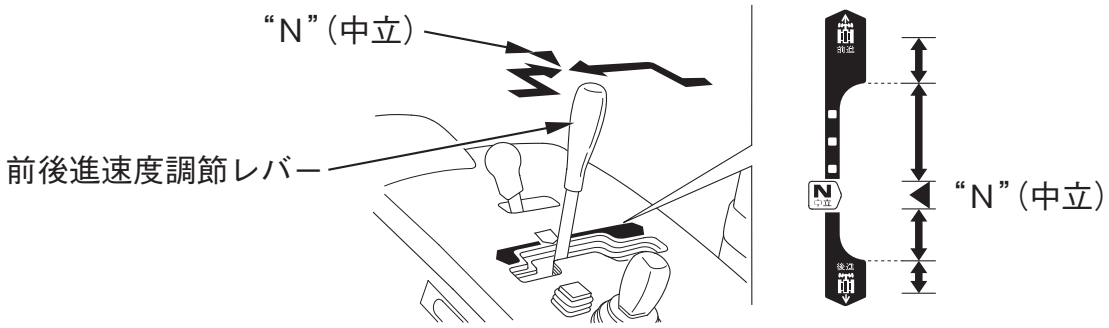
その他の異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

⚠警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。

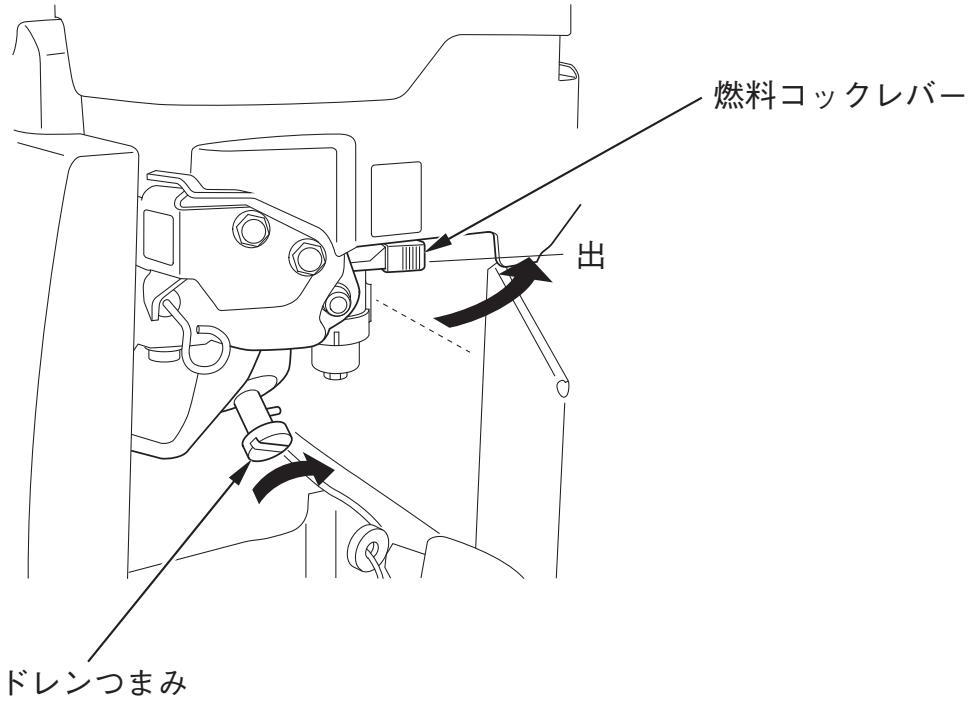
1. 前後進速度調節レバーが **“N”（中立）**の位置にあることを確認します。



2. ドレンつまみが確実にしまっていることを確認し、燃料コックレバーを **“出”**の位置に合わせます。

⚠警告

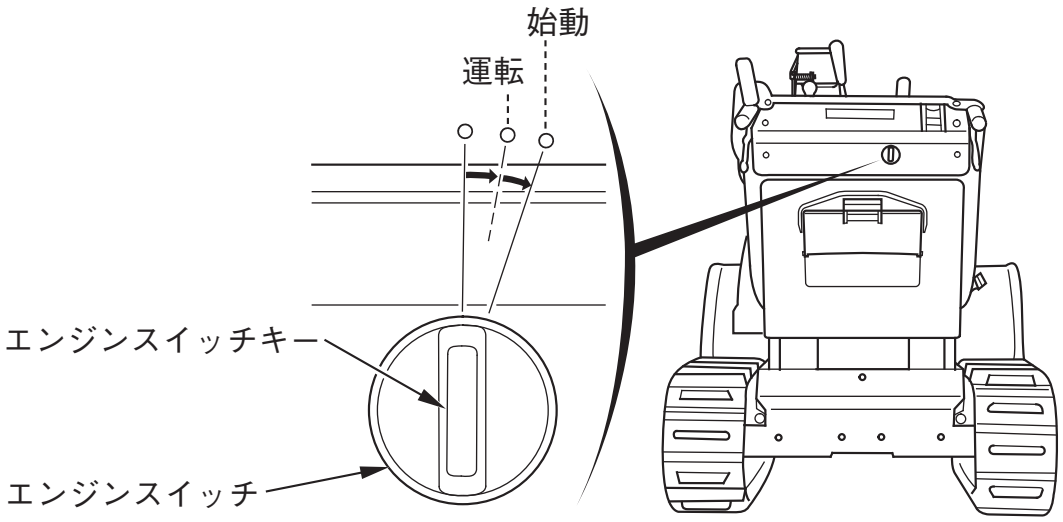
ドレンつまみがゆるんでいると燃料が漏れる場合があり危険です。



3. エンジンスイッチを “**始動**” の位置まで回し、スタータをまわします。
エンジンが始動したらエンジンスイッチキーから手を放してください。“**運転**”の位置に戻ります。

取扱いのポイント

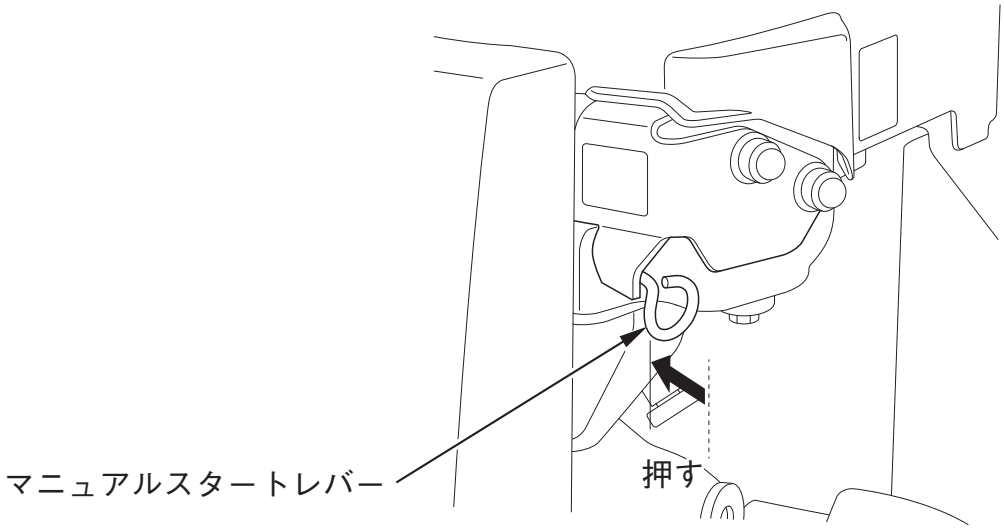
スタータを回すとき、除雪クラッチボタンまたは走行クラッチレバーを操作していると、スタータは始動しません。（エンジン始動インターロック）



取扱いのポイント

スタータを回して 5 秒以内でエンジンが始動しないときは、10 秒ほど間をおいてから再始動してください。

- 本機はオートチョークですが、氷等の付着によりオートチョークが働かない場合があります。
- エンジンの始動を 5 回行っても始動しない場合は、マニュアルスタートレバーを 1 回だけ押してください。
- 上記の操作を行ってもエンジンが始動しない場合は、マニュアルスタートレバーを押したままで始動させてください。



運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず “安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう” の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

⚠注意

- 除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。
- 本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

除雪作業は雪質など雪の状態に影響されます。最適な除雪作業をするため、必要に応じてソリ、スクレーパ、オーガハウジング高さを調節してください。

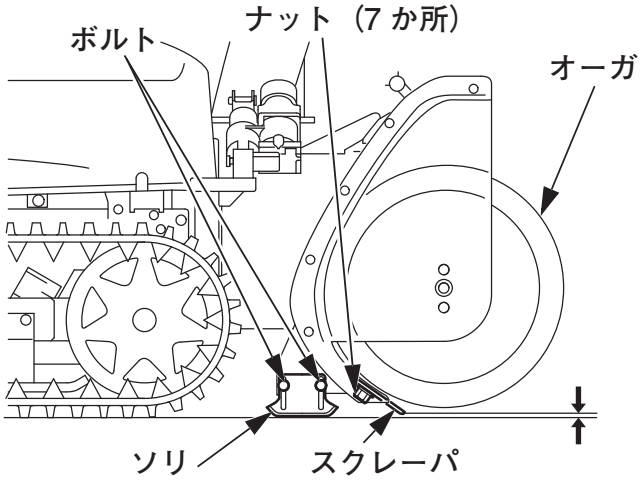
1. ソリ、スクレーパの点検、調節

⚠警告

ソリ、スクレーパを調節するときは、必ずエンジンを停止し誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いて行ってください。

除雪する路面の雪の状態に合わせて、路面との高さを調節します。

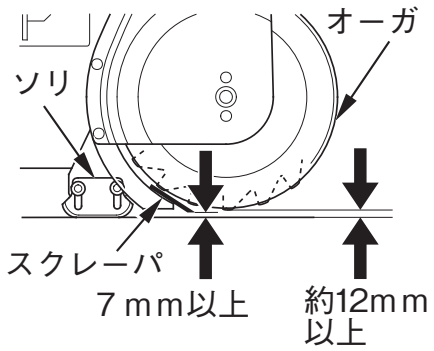
1. 本機を平坦な場所に置き、オーガハウジング調節スイッチを操作して、除雪部を水平状態のまま路面に接地させます。
2. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
3. 《ソリ》
   ソリは左右にあり、ボルトをゆるめ調節します。
   《スクレーパ》
   ナット（7 か所）をゆるめ調節します。



・ソリおよびスクレーパは左右同じ高さに調節してください。
・調節後は必ずボルト･ナットを確実に締付けてください。
・段切作業用に調節した状態で路面出し作業を行なわないでください。除雪部に悪影響をあたえます。

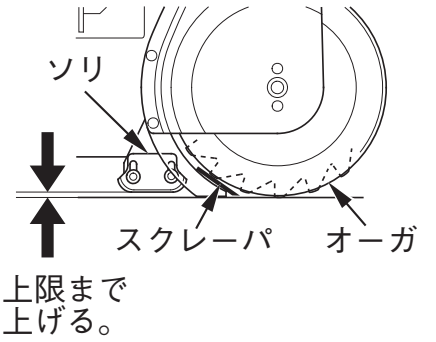
●ソリとスクレーパの調節はこんなときに行います

・回転するオーガが路面に接触して困る場合：
・砂利などが多い路面を除雪する場合：
オーガを路面から約12mm以上持ち上げた状態で、ソリを固定します。
スクレーパは路面から 7mm 以上持ち上げた状態で固定します。
砂利などを巻き込まないために、雪を残して作業します。

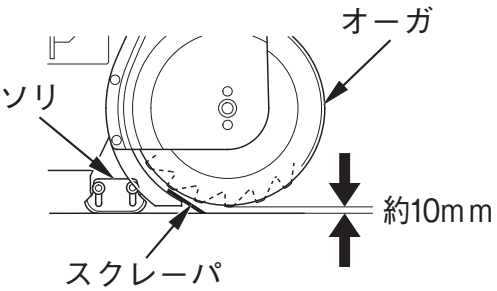


・屋根から落ちた固い雪などを崩したい場合：
・締まった根雪などで､本機が食い込まず持ち上ってしまう場合：
オーガを路面に接地させた状態で、ソリとスクレーパを調整代の上限まで持ち上げた状態で固定します。

＊この場合は、路面にオーガが接触して路面を傷つけたり石飛びのおそれがありますので、注意してご使用ください。
また、一般的な条件で使用する場合は、元に戻してから使用してください。

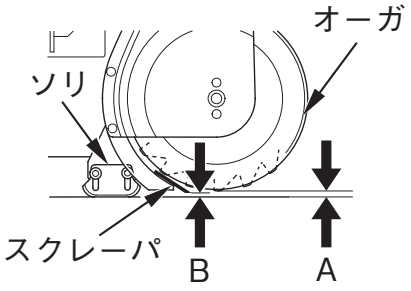


・除雪した後に雪が残ってしまい､もっときれいに仕上げたい場合：
オーガを路面から約10mm程度持ち上げた状態で、ソリを路面に接地させて固定します。
スクレーパは路面に接地させた状態で固定します。



標準位置（工場出荷状態）は、次のように調整されています。

A	8—12 mm
B	3—7 mm



2. オーガハウジング高さの調節

1. オーガハウジング調節スイッチを前後に操作します。オーガハウジングの高さは無段階に調節できます。

   上げるとき･･･オーガハウジング調節スイッチを “上” 方向に引きます。

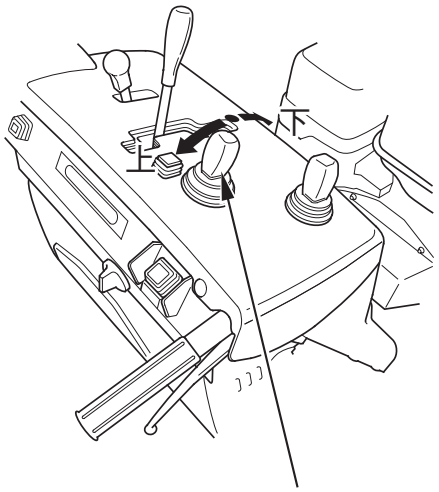
   下げるとき･･･オーガハウジング調節スイッチを “下” 方向に押します。

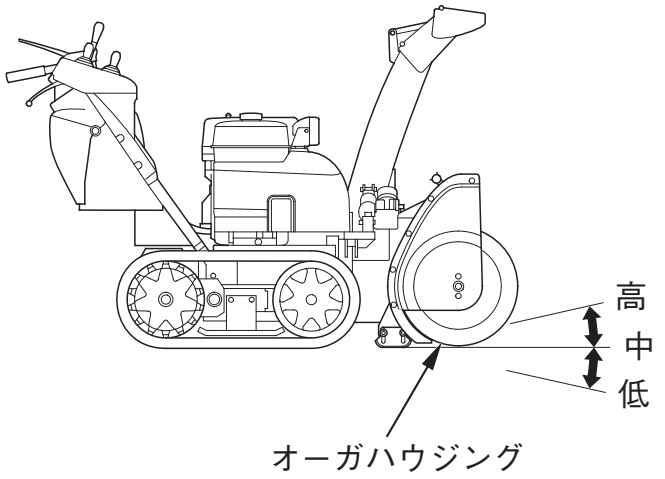
2. オーガハウジング調節スイッチを放すとその位置でオーガハウジングが固定されます。

高：段切除雪、後進および移動の場合に使用してください。

中：一般除雪（通常はこの位置で除雪してください。）

低：固雪除雪（固い雪で除雪部が浮き上がりぎみのとき使用してください。）





⚠注意

“固雪除雪” の位置は、固くなった雪の除雪の場合のみ使用してください。柔らかい状態の雪や不整地での使用は路面を傷付けたり、石飛びのおそれがあり危険です。また本機が破損したり、除雪部がいちじるしく消耗・損傷する場合があります。

- ｉ コントロールボタン（HSM1380i）が「入」／除雪モード切替えスイッチ（HSM1390i）が【オート】、【パワー】モードのときは、後進時に自動的にオーガハウジングが上昇します。

  除雪クラッチボタンが「入」のときは、再前進時にオーガを元の位置に自動的に戻します。（JR タイプ）
- オーガハウジングが自動的に上昇、下降しない様にするには、ｉ コントロールボタン（HSM1380i）を「切」／除雪モード切替えスイッチ（HSM1390i）を【手動】モードにしてください。
- オーガハウジングが自動的に上昇、下降している時、オーガハウジングの動きを止めるには、オーガハウジング調節スイッチを上昇時は下に、下降時は上に操作してください。
- オーガハウジング調節スイッチを頻繁に操作すると保護装置が働き、表示灯（橙）が点滅し、除雪部の調節ができなくなります。このときは操作をやめ、しばらく待ってから再度操作してください。

3. 始動

始動については「エンジンのかけかた」（ 41 頁～ 43 頁）を参照してください。

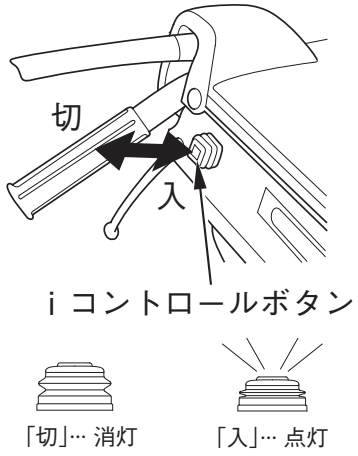
4. 運転操作

－ 1. 前後進速度調節レバーが “N” （中立）の位置にあることを確認します。

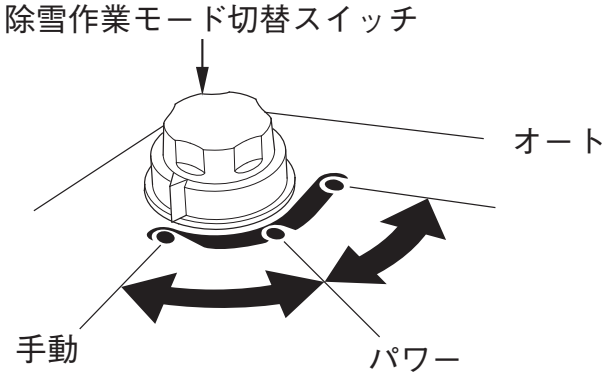
－ 2. i コントロールボタン（HSM1380i）を「入」または「切」にします。除雪作業モード切替スイッチ（HSM1390i）を操作して、除雪作業モードを選択します。

i コントロールボタンの「入」、「切」、選択する除雪作業モードにより操作および作業内容が変わってきます。目的にあった位置を選択してください。（21、22 頁参照）

[HSM1380i]



[HSM1390i]



i コントロールボタン／除雪作業モード選択の目安

【オート】モード
（HSM1390i）・・・・・・・・・・・・・49 頁参照

1. 除雪機の操作に慣れていない。
2. 除雪作業時にいろいろ操作したくない。
3. できるだけ静かに除雪作業をしたい。
4. オーガの浮き上がりを少なくしたい。

i コントロールボタン（HSM1380i）「入」／【パワー】モード
（HSM1390i）・・・・・・・・・・・・・51 頁参照

1. 除雪作業の負荷に応じて走行速度を自動調節してほしい。
2. 雪を遠くまで飛ばしたい。
3. 作業を早く終わらせたい。

i コントロールボタン（HSM1380i）「切」／【手動】モード
（HSM1390i）・・・・・・・・・・・・・55 頁参照

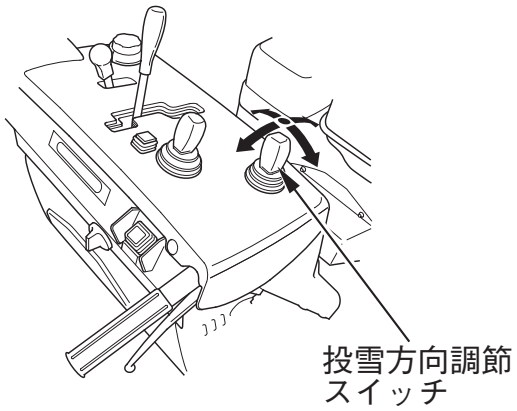
全ての操作を自分の好きなように行いたい。

取扱いのポイント

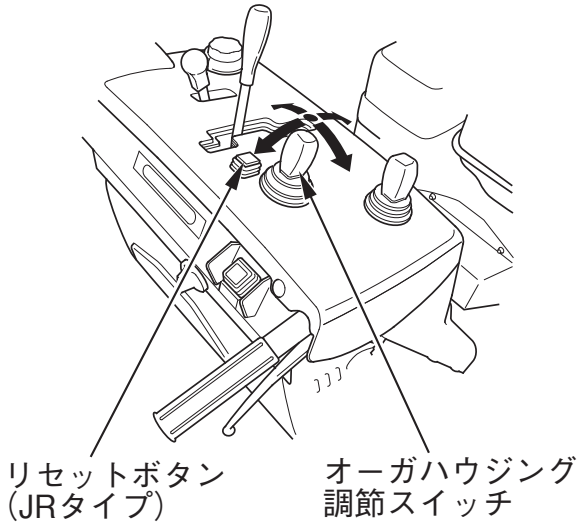
走行中に除雪作業モード切替スイッチを操作しないでください。走行中に操作すると表示灯（橙）が点滅して走行が停止し、オーガとブロアの回転も止まります。表示灯（橙）の点滅は走行クラッチレバーを放せば解除できます。各部の設定が作業目的に合っているか確認してから作業を再開してください。
（HSM1390i）

4a.【オート】モード（HSM1390i）での除雪作業

【オート】モードでは、除雪負荷に応じて走行速度を自動的に調節して、除雪部の浮き上がりを抑えたり、エンジン回転数を自動的に設定したりするなど除雪作業に伴うわずらわしい操作を減らします。

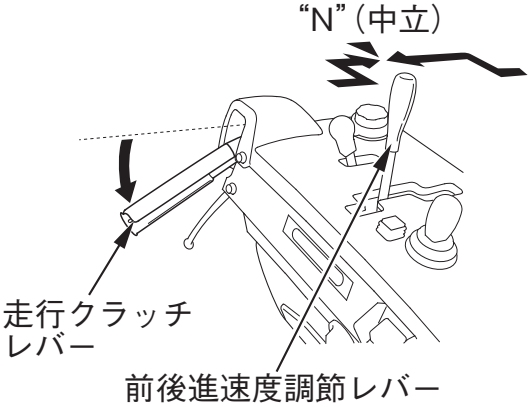


1. 投雪方向調節スイッチを操作し、投雪角度と投雪方向を調節します。（29 頁参照）

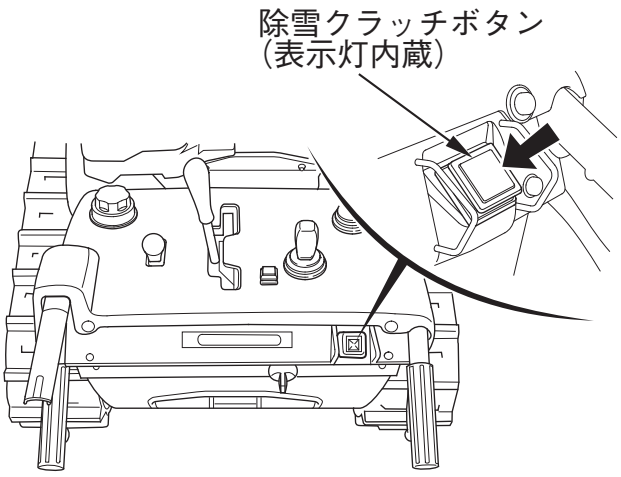


2. オーガハウジング調節スイッチを操作して、オーガが路面と平行になるように調節します。（30 頁参照）

   [JR タイプ]
   - リセットボタンを押せば、オーガの高さを初期設定位置に戻すことができます。
   - リセットボタンを押して初期設定位置に戻した場合には、除雪する場所の起伏や本機の姿勢により、オーガが路面にあたったり、路面からオーガが浮いたりして残雪ができることがありますので、必要に応じてオーガ位置を微調節してください。



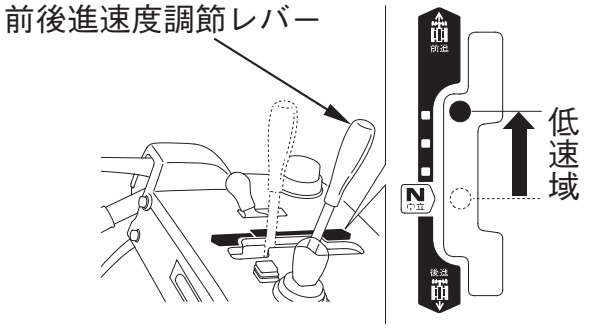
3. 前後進速度調節レバーが “N” (中立）の位置にあることを確認し、走行クラッチレバーを握ります。

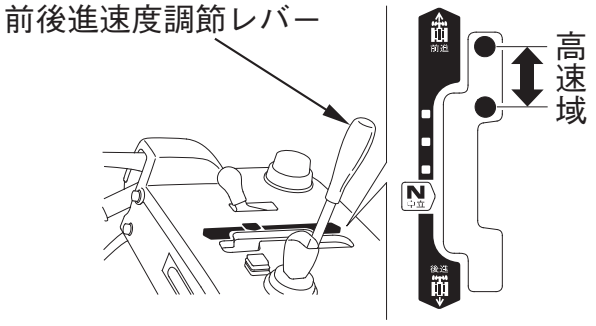


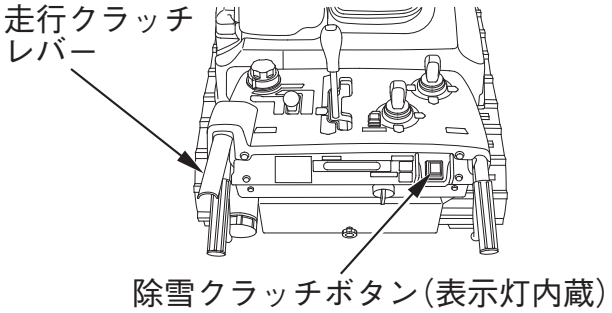
4. 除雪クラッチボタンを押してオーガとブロアを回転させます。
   - 除雪クラッチボタンを押すと、表示灯（緑）が点灯します。
   - 除雪クラッチボタンを４秒以上押し続けると保護機能が働き、オーガとブロアが停止します。
   - 走行クラッチレバーを握っているときはオーガとブロアの回転が保持されます。ボタンを再度押すとオーガとブロアは停止します。(走行クラッチレバーと除雪クラッチボタンの連動操作)

⚠注意

走行クラッチレバーおよび除雪クラッチボタンを操作すると除雪部が回転します。レバーおよびボタンを操作するときには周囲の安全を十分に確認してください。







5. 前後進速度調節レバーをゆっくりと前進側の低速域いっぱいまで操作し、除雪作業をします。
   - オーガが路面にあたったり、本機が傾いてきたときは、オーガハウジング調節レバーを操作してオーガハウジングの位置を調節します。
   - 積雪が少ないときや、雪質が軽いときには、前後進速度調節レバーを高速域へ操作します。走行速度が安定しない場合には、前後進速度調節レバーを微調節して走行速度を安定させます。

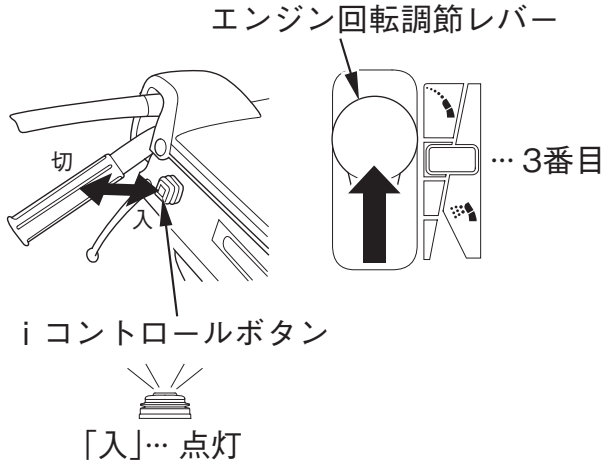
6. 走行クラッチレバーから手を放すと除雪クラッチボタンの表示灯（緑）が消灯して、オーガとブロアの回転が停止し、同時に走行も停止します。
   - 移動のときは、除雪クラッチボタンを「切」にしてください。

4b. ｉ コントロールボタン（HSM1380i）「入」／【パワー】モード（HSM1390i）での除雪作業

ｉ コントロールボタン「入」（HSM1380i）／【パワー】モード（HSM1390i）ではエンジン回転／投雪距離を調節することができます。雪を捨てる場所までの距離に合わせてエンジン回転数／投雪距離を調節することが、作業を早く終わらせるうえで重要です。

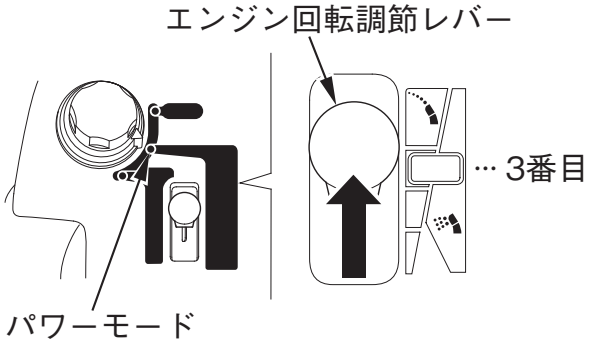
- 除雪部が回転していないとエンジン回転調節レバーは働きません。このときエンジン回転数は自動的に設定されます。

[HSM1380i]



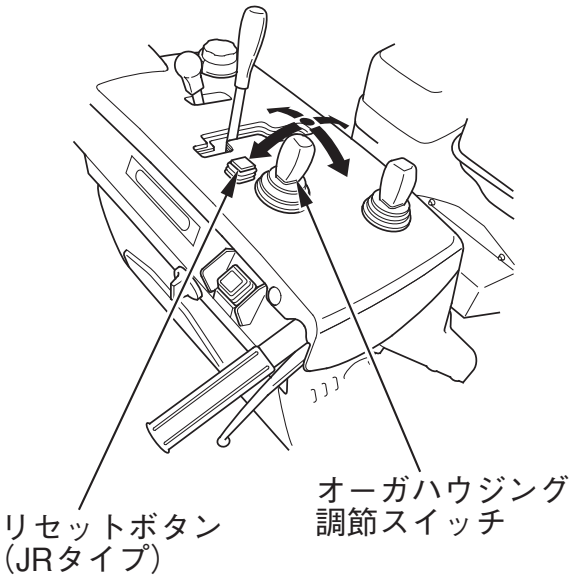
1. エンジン回転調節レバーを下から３番目の位置にあわせます。

[HSM1390i]



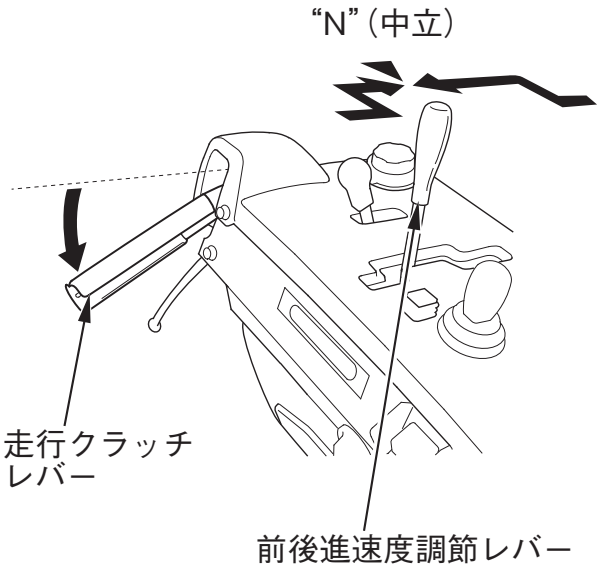


2. 投雪方向調節スイッチを操作し、投雪角度と投雪方向を調節します。（29 頁参照）

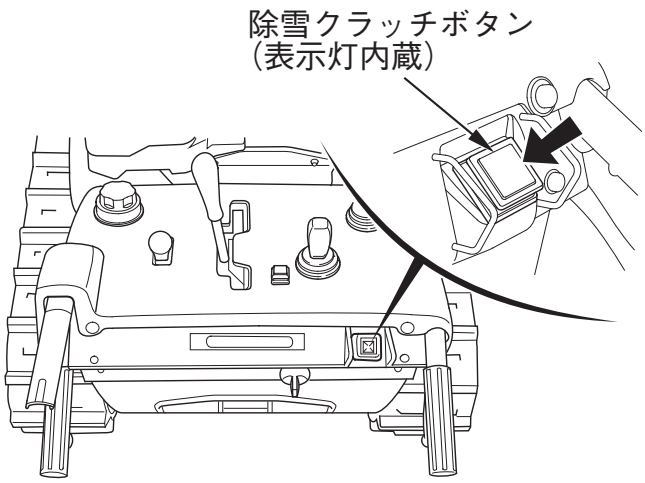


3. オーガハウジング調節スイッチを操作して、オーガが路面と平行になるように調節します。(30 頁参照)

   [JR タイプ]
   - リセットボタンを押せば、オーガの高さを初期設定位置に戻すことができます。
   - リセットボタンを押して初期設定位置に戻した場合には、除雪する場所の起伏や本機の姿勢により、オーガが路面にあたったり、路面からオーガが浮いたりして残雪ができることがありますので、必要に応じてオーガ位置を微調節してください。



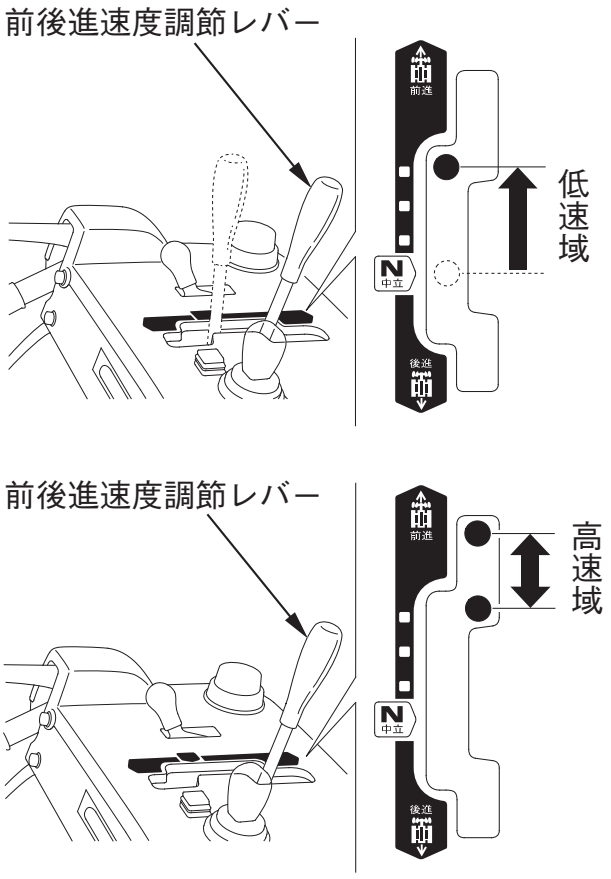
4. 前後進速度調節レバーが “**N**” (**中立**) の位置にあることを確認し、走行クラッチレバーを握ります。



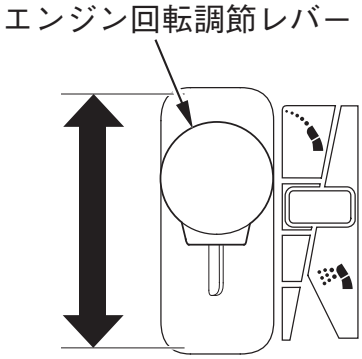
5. 除雪クラッチボタンを押してオーガとブロアを回転させます。
   - 除雪クラッチボタンを押すと、表示灯（緑）が点灯します。
   - 除雪クラッチボタンを4秒以上押し続けると保護機能が働き、オーガとブロアが停止します。
   - 走行クラッチレバーを握っているときはオーガとブロアの回転が保持されます。ボタンを再度押すとオーガとブロアは停止します。（走行クラッチレバーと除雪クラッチボタンの連動操作）

⚠注意

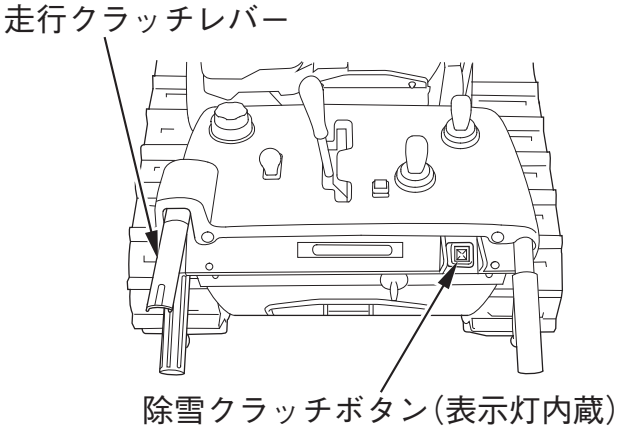
走行クラッチレバーおよび除雪クラッチボタンを操作すると除雪部が回転します。レバーおよびボタンを操作するときには周囲の安全を十分に確認してください。



6. 前後進速度調節レバーをゆっくりと前進側の低速域いっぱいまで操作し、除雪作業をします。
   - オーガが路面にあたったり、本機が傾いてきたときは、オーガハウジング調節レバーを操作してオーガハウジングの位置を調節します。
   - 積雪が少ないときや、雪質が軽いときには、前後進速度調節レバーを高速域へ操作します。走行速度が安定しない場合には、前後進速度調節レバーを微調節して走行速度を安定させます。



7. 除雪作業が安定したら、エンジン回転調節レバーを操作して必要な投雪距離に調節します。
   - 投雪距離を長くすると走行速度が遅くなり、短くすると速くなります。必要に応じて、エンジン回転調節レバーを操作して投雪距離を調節します。

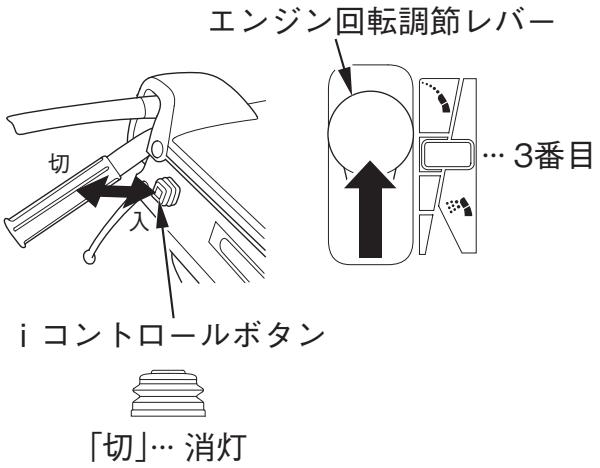


8. 走行クラッチレバーから手を放すと除雪クラッチボタンの表示灯(緑)が消灯して、オーガとブロアの回転が停止し、同時に走行も停止します。
   - 移動のときは、除雪クラッチボタンを「切」にしてください。

4c. ｉ コントロールボタン（HSM1380i）「切」／【手動】モード（HSM1390i）での除雪作業

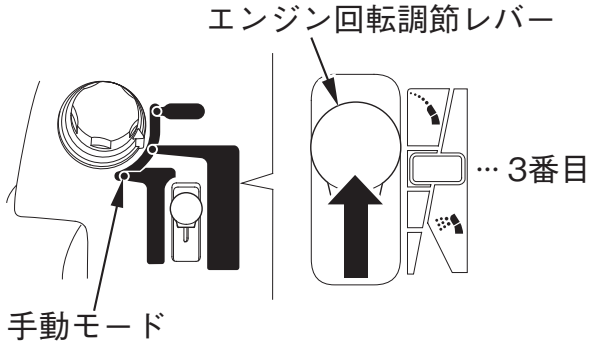
ｉ コントロールボタン（HSM1380i）「切」／【手動】モード（HSM1390i）操作時、自動制御は行われません。エンジン回転や走行速度などを自由に調節することができます。

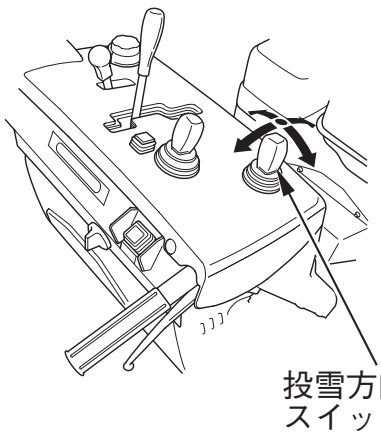
[HSM1380i]



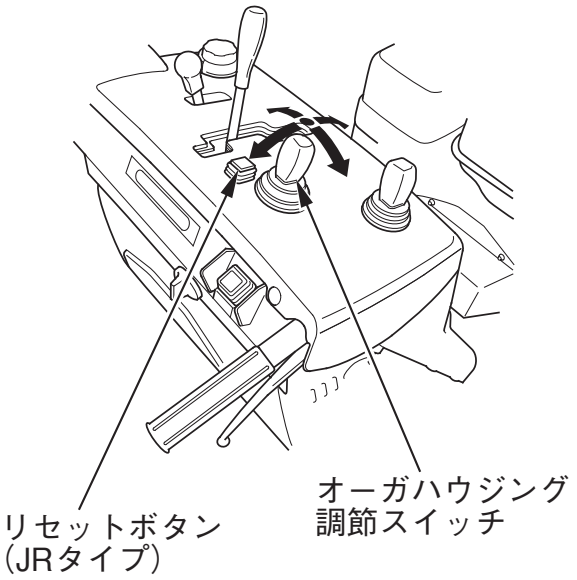
1. エンジン回転／投雪距離調節レバーを下から3番目の位置にあわせます。

[HSM1390i]





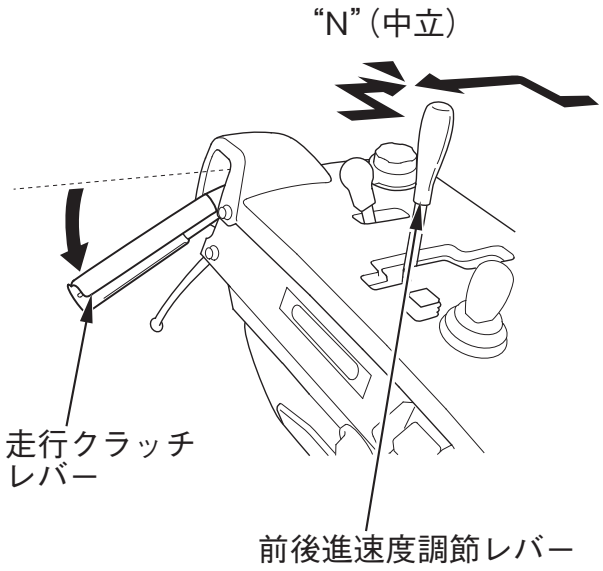
2. 投雪方向調節スイッチを操作し、投雪角度と投雪方向を調節します。(29 頁参照)



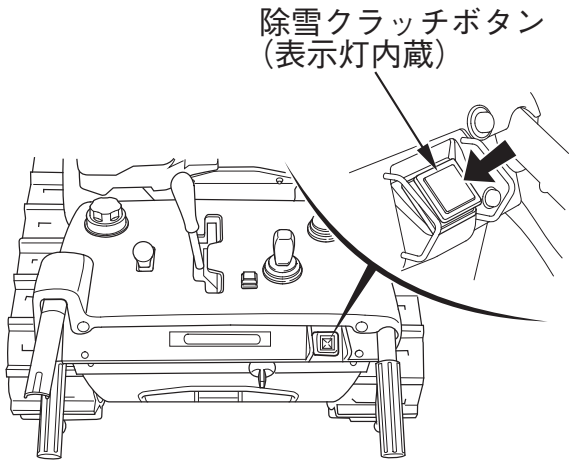
3. オーガハウジング調節スイッチを操作して、オーガが路面と平行になるように調節します。(30 頁参照)

   [JR タイプ]

   - リセットボタンを押せば、オーガの高さを初期設定位置に戻すことができます。
   - リセットボタンを押して初期設定位置に戻した場合には、除雪する場所の起伏や本機の姿勢により、オーガが路面にあたったり、路面からオーガが浮いたりして残雪ができることがありますので、必要に応じてオーガ位置を微調節してください。



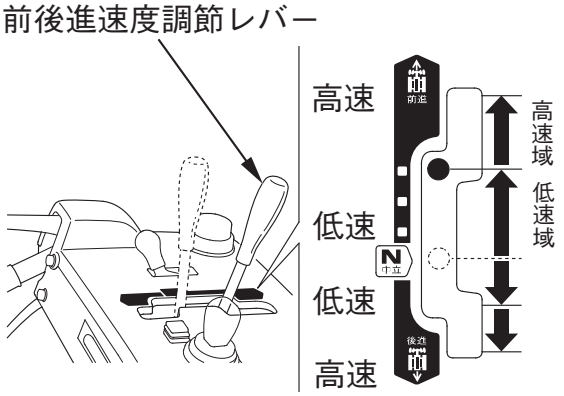
4. 前後進速度調節レバーが “N”（中立）の位置にあることを確認し、走行クラッチレバーを握ります。



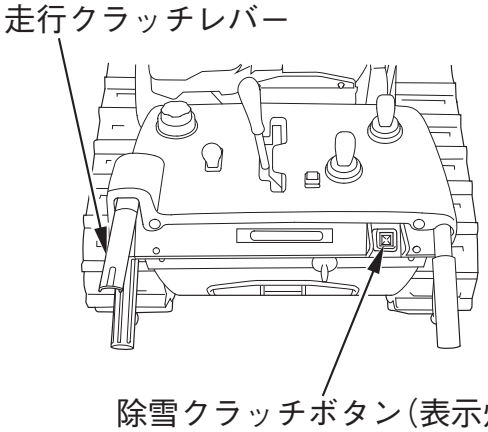
5. 除雪クラッチボタンを押してオーガとブロアを回転させます。
   - 除雪クラッチボタンを押すと、表示灯（緑）が点灯します。
   - 除雪クラッチボタンを4秒以上押し続けると保護機能が働き、オーガとブロアが停止します。
   - 走行クラッチレバーを握っているときはオーガとブロアの回転が保持されます。ボタンを再度押すとオーガとブロアは停止します。（走行クラッチレバーと除雪クラッチボタンの連動操作）

⚠注意

走行クラッチレバーおよび除雪クラッチボタンを操作すると除雪部が回転します。レバーおよびボタンを操作するときには周囲の安全を十分に確認してください。



6. 雪質、積雪量に合わせて、前後進速度調節レバーの低速域で位置を選び速度を設定し除雪作業をします。
   - 除雪作業中も雪質、積雪量の変化に合わせて前後進速度調節レバーを操作して走行速度を調節してください。
   - オーガが路面にあたったり、本機が傾いてきたときは、オーガハウジング調節レバーを操作してオーガハウジングの位置を調節します。



7. 走行クラッチレバーから手を放すと除雪クラッチボタンの表示灯（緑）が消灯して、オーガとブロアの回転が停止し、同時に走行も停止します。
   - 移動のときは、除雪クラッチボタンを「切」にしてください。

5. 旋回のしかた

走行中に旋回レバーを握ることで本機の進行方向を変えることができます。旋回は、前後進速度調節レバーの位置と旋回レバーの握り込み量により、通常の旋回と、超信地旋回（その場で旋回）ができます。

左旋回するとき ‥‥‥‥左旋回レバーを握ります。
右旋回するとき ‥‥‥‥右旋回レバーを握ります。

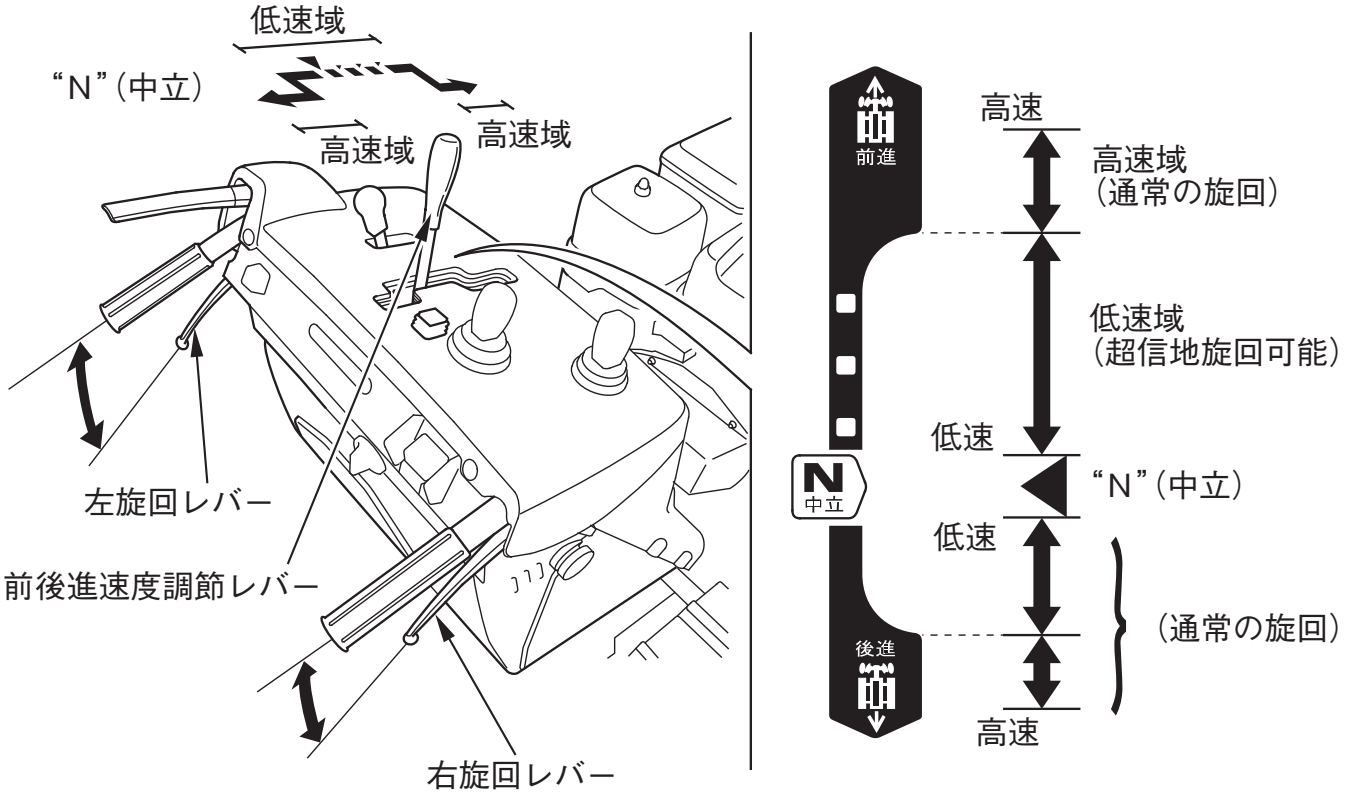
・通常の旋回

大きく旋回したい場合 ‥‥‥‥旋回レバーの握り込み量を小さくします。
小さく旋回したい場合 ‥‥‥‥旋回レバーの握り込み量を大きくします。

・超信地旋回（前進の低速域で可能）

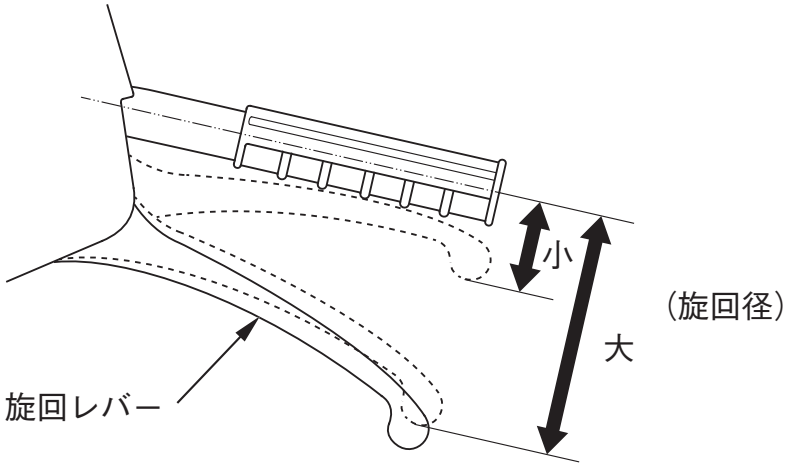
前進側低速域で走行中に、旋回したい方の旋回レバーを完全に握りこむと超信地旋回（その場で旋回）できます。

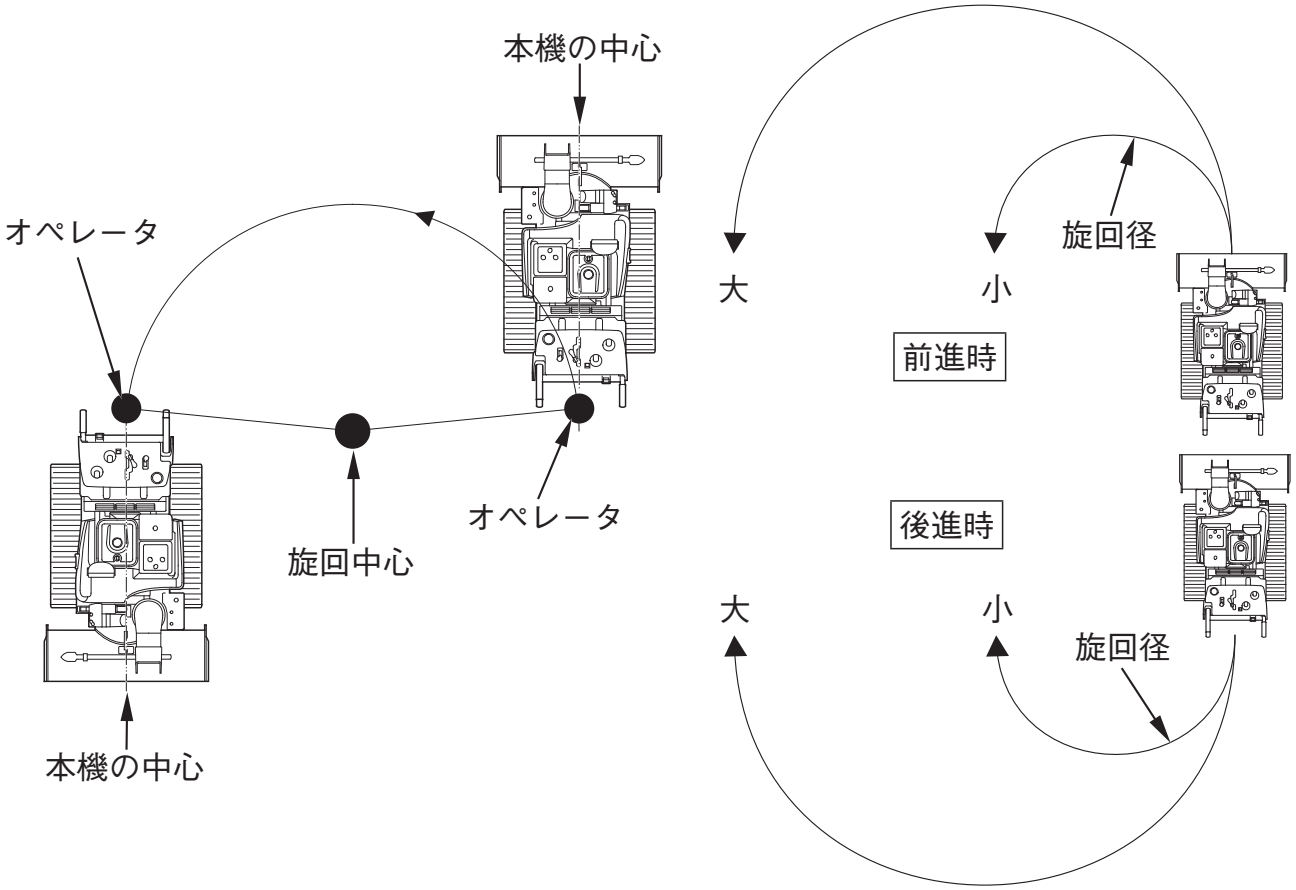
本機の出し入れ、狭い場所などでの方向転換や方向修正が容易にできます。



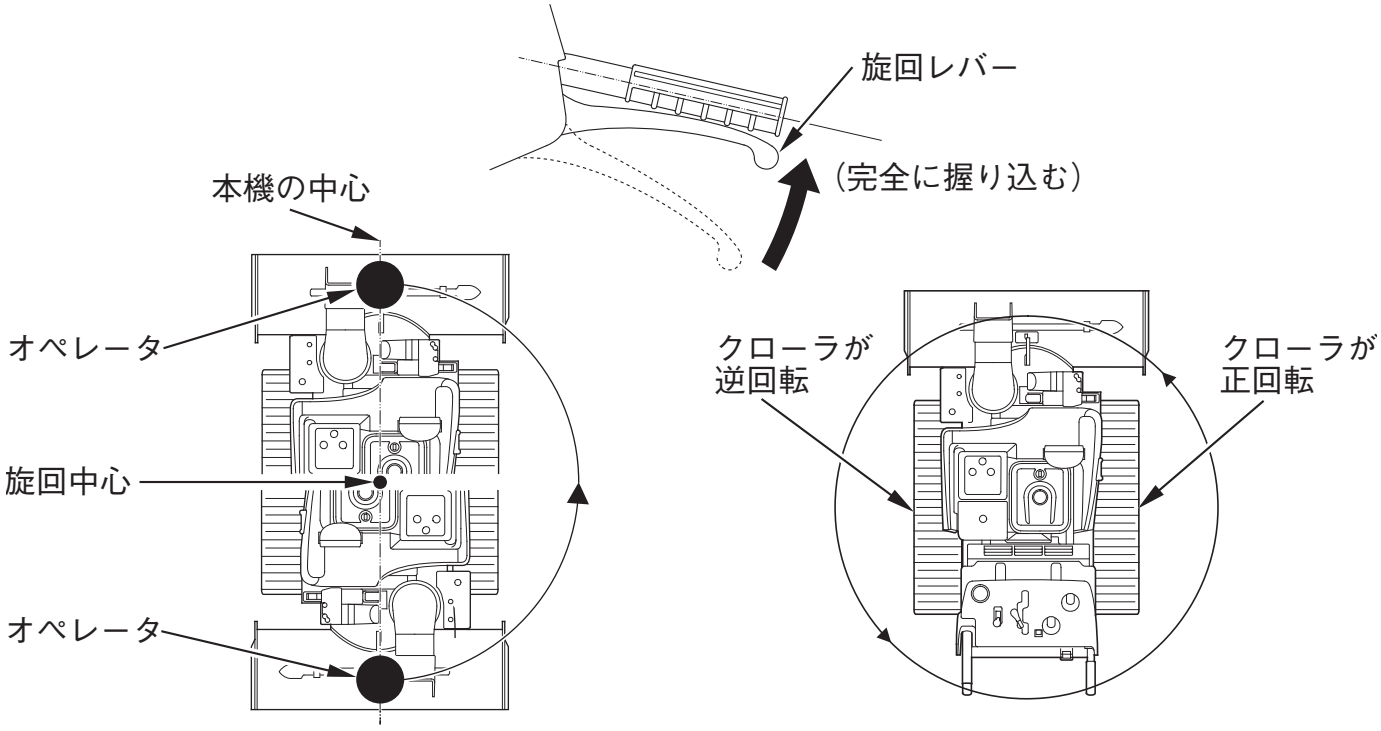
例：左旋回するとき（右旋回のときは図の対称側方向になります。）

- **通常の旋回（前進低速域で旋回レバーの握り込み量が途中までのとき、前進高速域のとき、後進のとき）**





・**超信地旋回（前進低速域で旋回レバーを完全に握り込んだとき）**
旋回する側のクローラが逆回転して、超信地旋回（その場で旋回）します。



6. 走行モータの保護機能について

・本機はモータで走行する機構になっています。本機の使用条件によってはモータに大きな負荷が加わり、保護回路の働きで表示灯（橙）が点灯、点滅し、速度が低下したり、走行が停止する場合があります。

この場合は一度エンジンスイッチを **“停止”** の位置にし、モータが少し冷えるのを待ってから、再度エンジンを始動してください。このとき表示灯（橙）が点灯、点滅しなければ正常な状態に復帰したのでそのまま作業を行ってください。

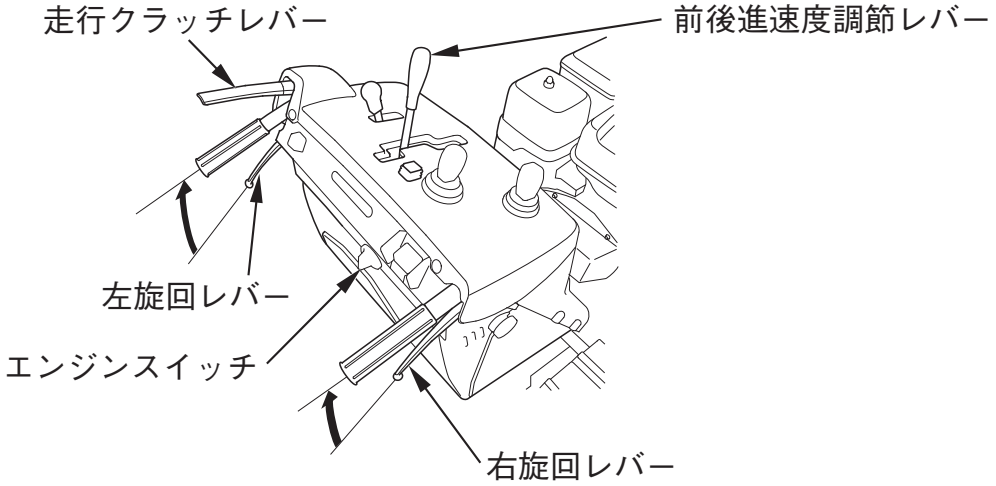
モータへの負荷が多過ぎると、保護機能が頻繁にはたらく場合があります。その場合は、負荷を少なくするなど調節しながら除雪してください。

エンジンが再始動できなかったり、エンジンを始動しても表示灯（橙）が点灯、点滅する場合は故障の可能性がありますので、クローラのホイールピンを抜くなどして、本機を安全な場所に移動して、故障診断表（98 頁参照）にて故障内容を確認し、必要ならばお買いあげ販売店で点検、修理を受けてください。ピンの抜き方は 107 頁を参照してください。

7. バッテリ走行システム

バッテリ走行システムは、エンジンが始動できないときの移動時にのみ操作をしてください。

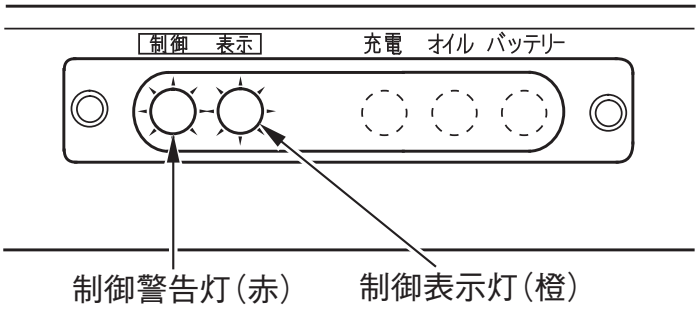
－ 1. 前後進速度調節レバーを “N” （中立）の位置にします。
－ 2. 走行クラッチレバーから手を放し “停止” の位置にします。
－ 3. エンジンスイッチを “運転” の位置にします。
－ 4. 旋回レバーを左右同時に約３秒間握り続けます。



－ 5. 約３秒間握り続けると制御警告灯（赤）と表示灯（橙）が点滅します。点滅したら、走行クラッチレバーを握り “走行” にします。

点滅が始まってから 5 秒以内に走行クラッチレバー及び前後進速度調節レバーの操作入力がなければ、制御警告灯（赤）と表示灯（橙）が点灯し、自動的にバッテリ走行システムが終了してバッテリでの走行ができなくなります。この場合、再度エンジンスイッチを “停止” の位置にしてから再始動してください。

・走行クラッチレバーを握っている間は、バッテリ走行モードを継続します。



ー 6. 前後進速度調節レバーを操作し、適切な車速で走行します。
ー 7. 走行後はエンジンスイッチキーを “**停止**” の位置にします。

取扱いのポイント

- バッテリ走行システムは、エンジンが始動できないときの移動時にのみ操作をしてください。
- バッテリ走行システムはバッテリを消費させるため、通常満充電状態で通算 3 分以内を目安とし、それ以上もしくは頻繁に操作するとバッテリがあがり、エンジンの始動および走行ができなくなります。
- バッテリ走行後は、必ずエンジンスイッチを “停止” の位置にしてください。エンジンスイッチを “運転” のままで放置するとバッテリが放電し、思わぬ事故を招くことがあります。
- 必要によりバッテリを充電してください。(93 頁参照)
- バッテリ走行システムは緊急時の移動を目的とするため、走行クラッチレバーを握っていても作動します。
  バッテリ走行システムを起動するときは、必ず前後進速度調節レバーを “N” (中立) の位置にしてください。
- 次の条件では走行しない場合があります。走行しない場合はホイールピンを取外して移動してください。(107 頁参照)
  - ・バッテリが放電している場合。
  - ・走行モータなどに不具合がある場合。
  - ・ホイールピンが折損または外れている場合。
  - ・コントローラの故障。

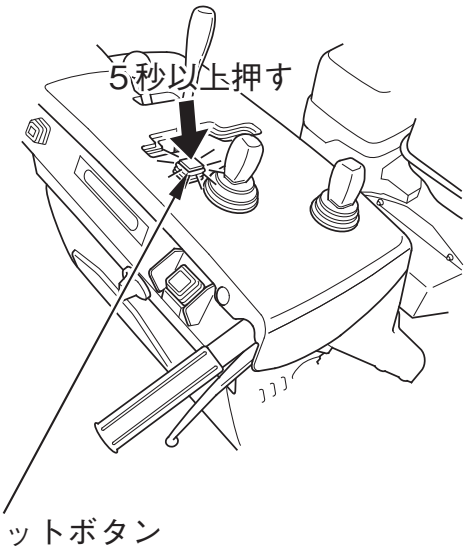
8. リセット位置の変更のしかた（JR タイプ）

リセットボタン操作時にオーガハウジングが戻る上下の位置を変更することができます。

リセット位置の変更は以下のような場合に行います。

1. 砂利がまかれている場所の除雪作業で、オーガが砂利を巻き込むため、オーガハウジングを水平まで下げたくないとき。
2. スクレーパおよびソリの位置を調整したため、設定されているリセット位置では合わなくなったとき。
3. 各部が磨耗してリセット位置が合わなくなったとき。
4. 好みの位置にリセット位置を変更したいとき。

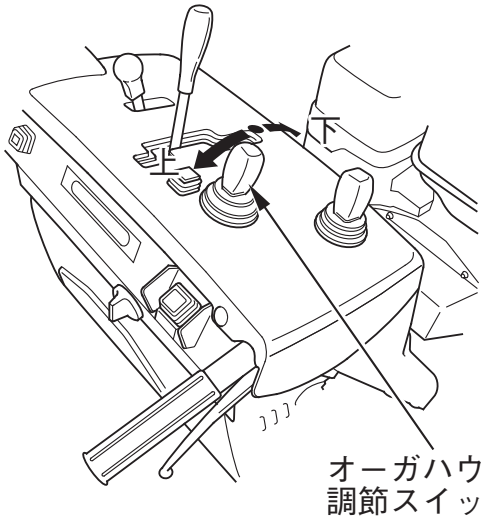
リセット位置の変更は平坦な場所で行ってください。平坦な場所でないとリセット位置を正しく設定できません。



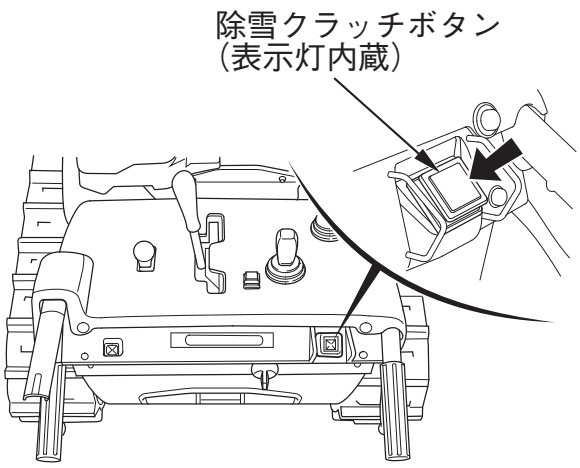
－ 1. エンジンスイッチを “**運転**” の位置にします。（42 頁参照）

－ 2. リセットボタンを5秒以上押し続けます。
- リセットボタンを押すとオーガハウジングがリセット位置に移動しますが、押し続けてください。

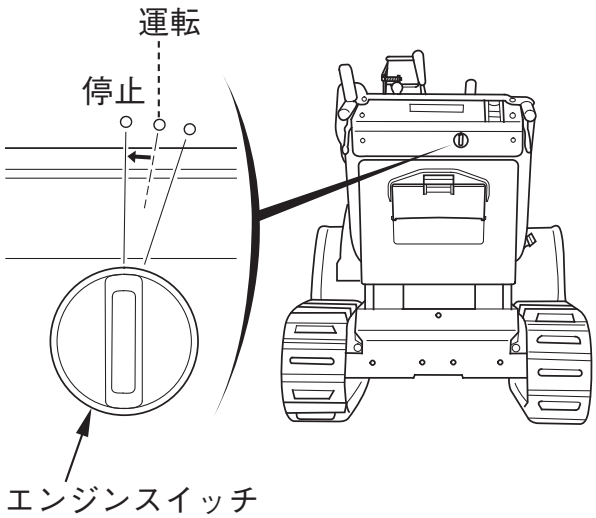
－ 3. リセットボタンから手を放し、リセットボタンが点滅していることを確認します。



－4. オーガハウジング調節スイッチを操作して、オーガハウジングを変更したい上下の位置に調節します。



－5. 除雪クラッチボタンを押します。リセットボタンが消灯してリセット位置が変更されます。



－6. エンジンスイッチを “**停止**” の位置にします。

- エンジンスイッチを一度 “**停止**” の位置にしないと本機を操作することはできません。

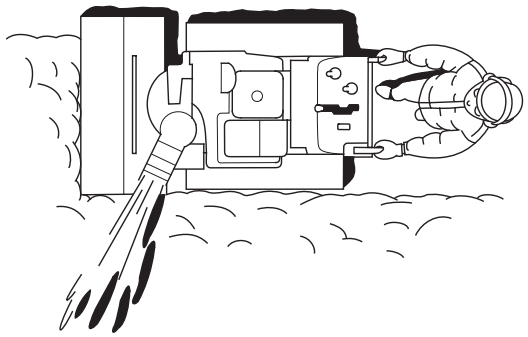
リセット位置の変更がうまくできない場合や、お買いあげ時のリセット位置に戻したい場合はお買いあげ販売店にお申しつけください。

9. 除雪のしかた

除雪作業は、必要な投雪距離に見合ったエンジン回転を選択し、エンジンの回転を落とさず行うことが重要です。前後進速度調節レバーを低速の位置にしてもエンジン回転が落ちる場合は次の要領を参考にして、除雪作業を行ってください。

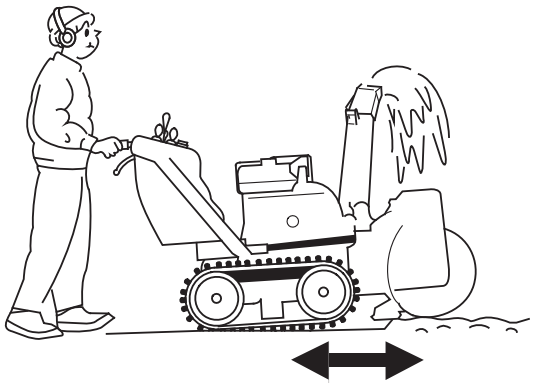
・除雪幅を狭くする方法

深い雪や、重くなった雪を除雪する場合は、遅い速度で除雪してください。またこのような場合、除雪部に掛かる雪幅を狭くし、除雪部に入る雪の量を少なくして除雪を行ってください。



・前後進除雪の方法

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、遅い速度で除雪してください。1 回で除雪しきれない場合には、**“前、後進”** をくり返して除雪してください。



取扱いのポイント

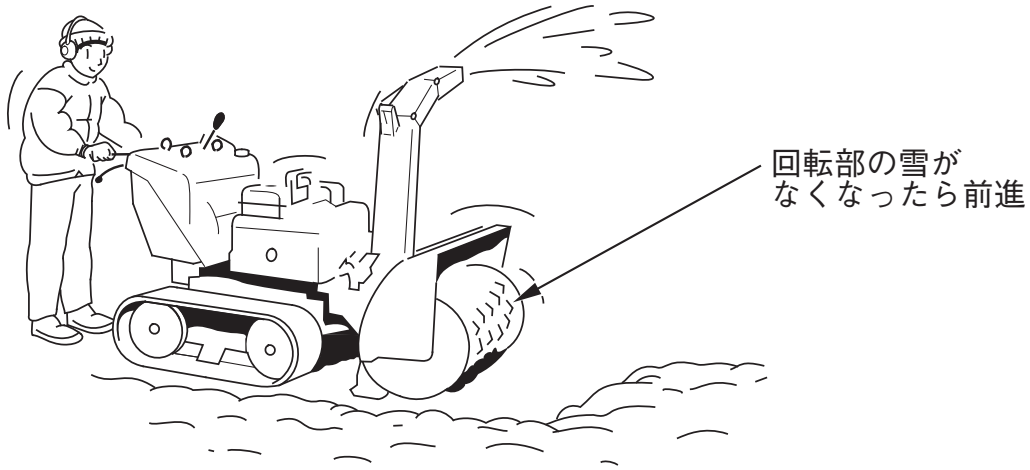
i コントロールボタン（HSM1380i）が「入」の場合、除雪モード切替えスイッチ（HSM1390i）が【オート】モード、【パワー】モードの場合は、後進時にオーガハウジングが自動的に上昇します。

除雪クラッチボタンが「入」のときは、再前進時にオーガを元の位置に自動的に戻します。（JR タイプ）

・断続除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合には、断続的に除雪を行ってください。

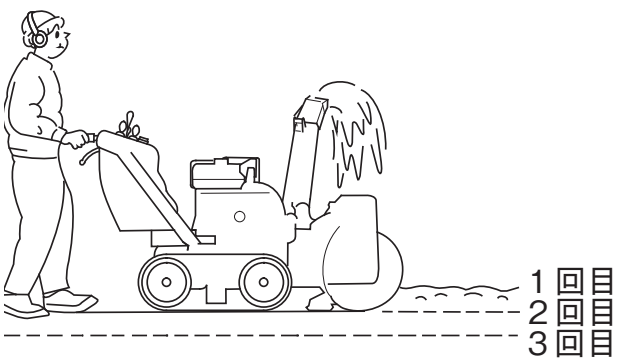
1. エンジン回転が回復するまで前後進速度調節レバーを “N”（中立）の位置に操作してください。（この時除雪クラッチボタンの表示灯（緑）を点灯させ、除雪部が回転したままにしておきます。）
2. 除雪部の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら前後進速度調節レバーを前進側低速域に操作してください。
3. 再びエンジン回転が低下する場合には、1. ～ 2. を繰り返して行います。

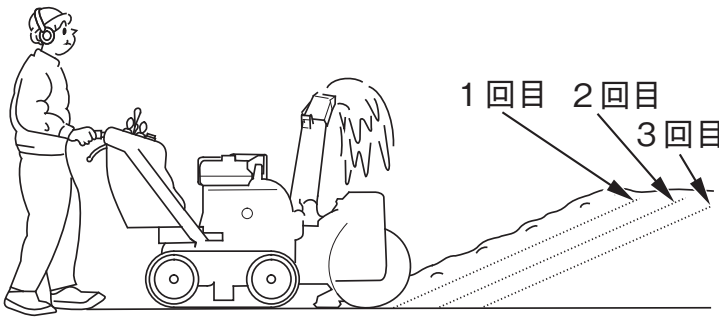


・段切除雪の方法

積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合などには段階的に除雪を行ってください。

1. のぼるときは、
   - オーガハウジング調節スイッチを操作し除雪部を少し上げます。
2. 食い込ませるときは、
   - オーガハウジング調節スイッチを操作し、除雪部を少し下げます。
   - 必要に応じて、ソリの位置を調節します。（44 頁参照）



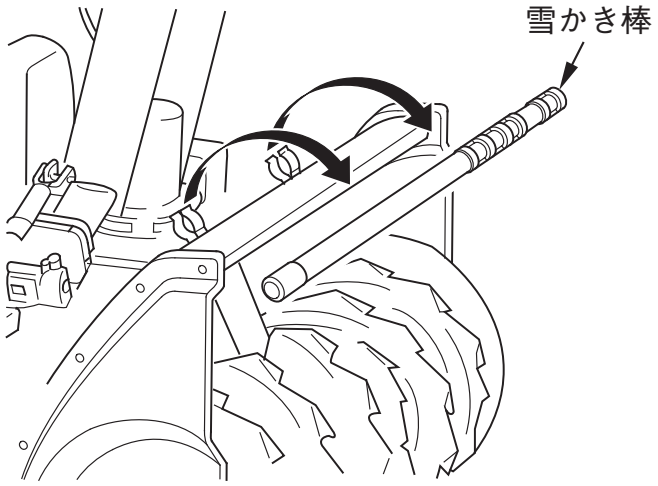


・投雪口に詰まった雪の除去

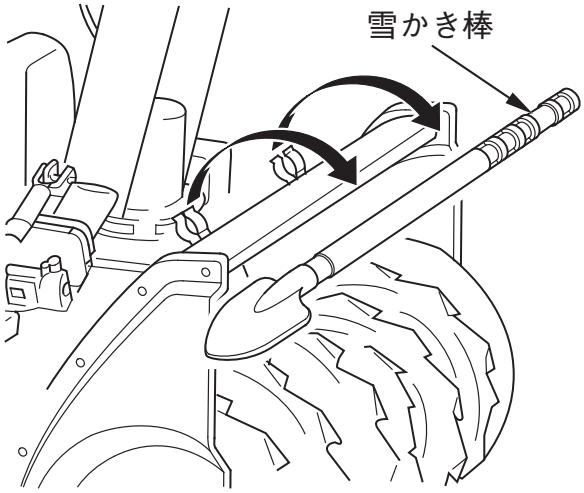
⚠警告

除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

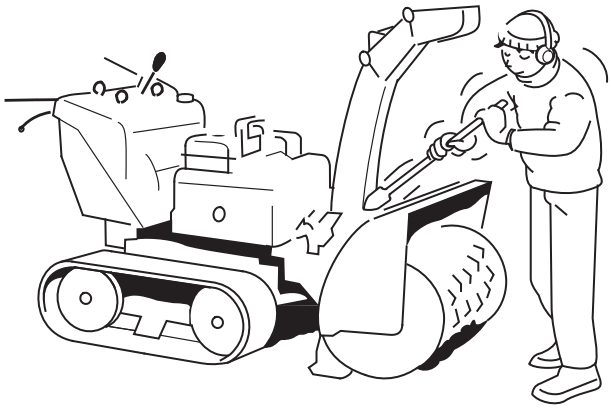
1. 除雪作業中、投雪口に雪が詰まったときは、雪かき棒で除去します。



（HSM1380i）



（HSM1390i）



2. 雪かき棒は使用後、必ず元の位置に戻してください。

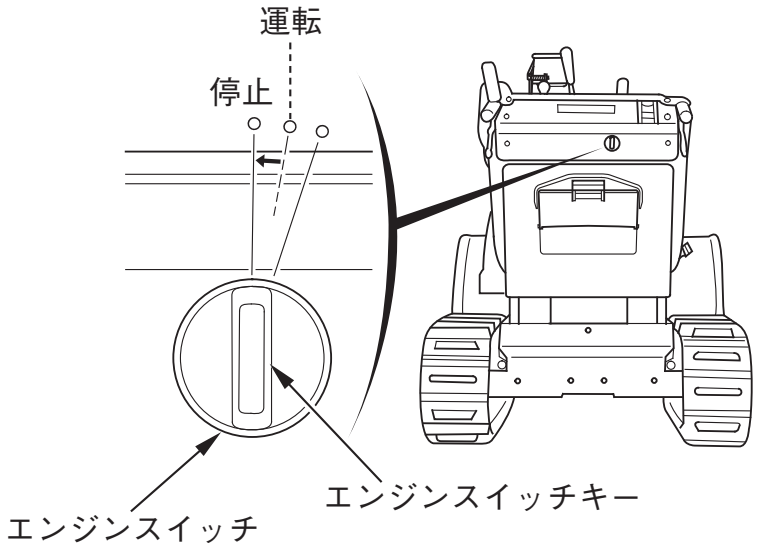
除　雪　機　の　止　め　か　た

⚠警告

平坦な場所に駐車してください。

・緊急にエンジンを停止する場合

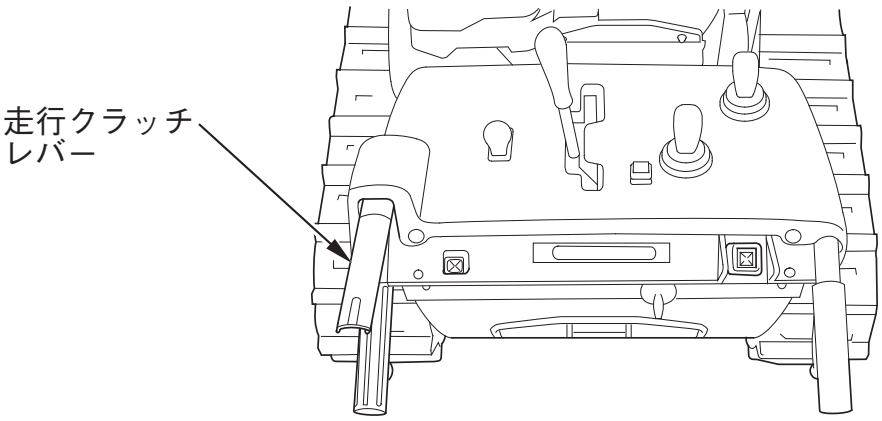
エンジンスイッチを “**停止**” の位置にし、エンジンスイッチキーを抜きます。



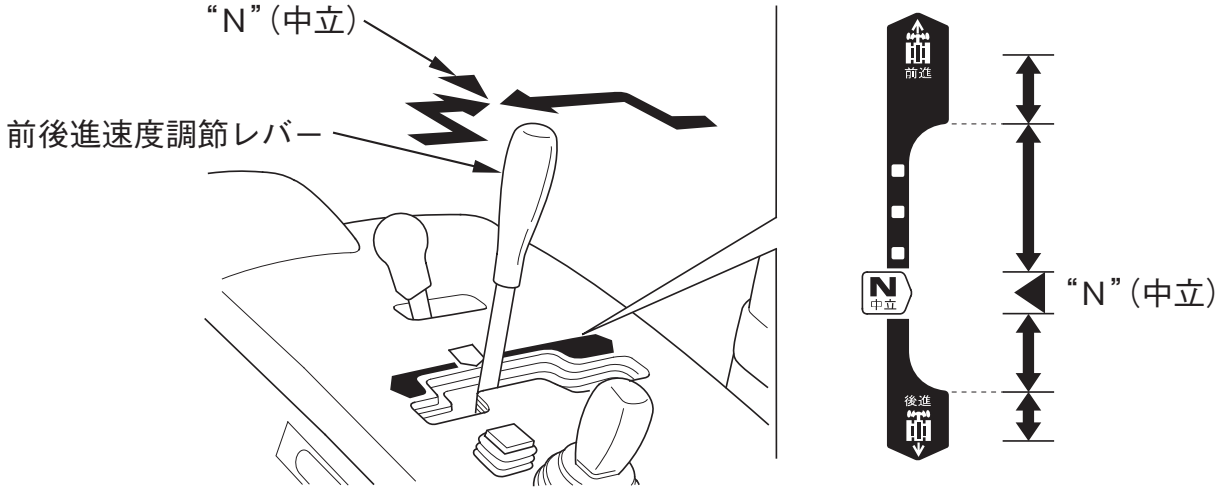
エンジンスイッチキーを使って本機を緊急停止させた場合は、再び始動する前に前後進速度調節レバーを “**N**” （**中立**）の位置にしてください。

・通常停止の場合

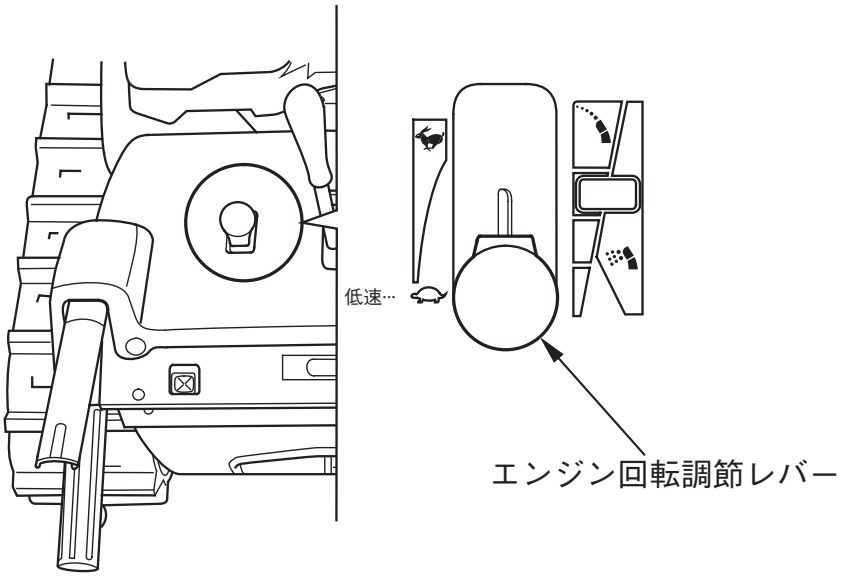
1. 走行クラッチレバーから手を放します。
   走行が停止し、数秒後に除雪部の回転が停止します。



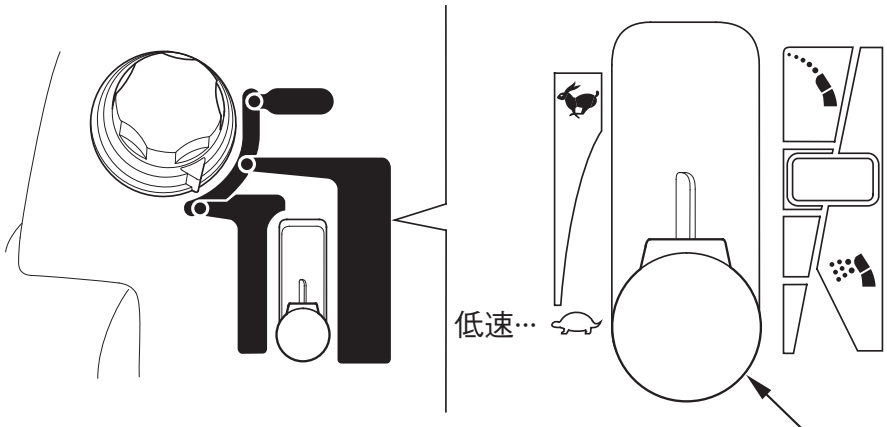
2. 前後進速度調節レバーを “N” （中立）の位置にします。



3. エンジン回転調節レバーを “低速” にします。



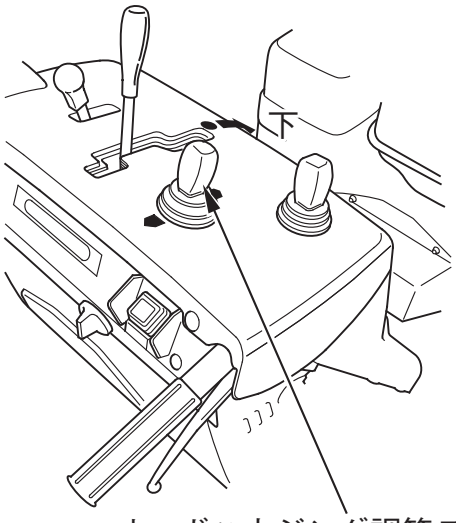
（HSM1380i）



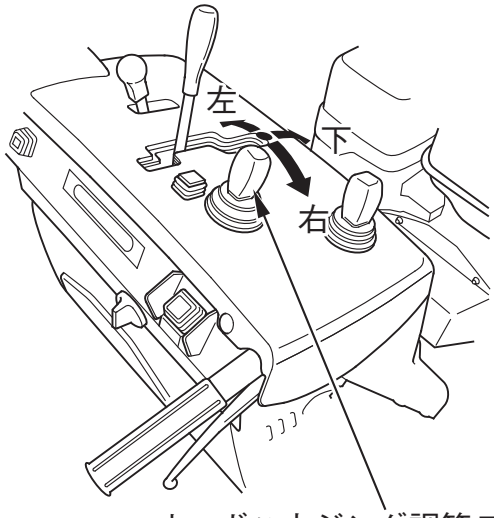
（HSM1390i）

4. オーガハウジング調節スイッチを操作して、除雪部を水平にし、完全に路面へ接地させます。

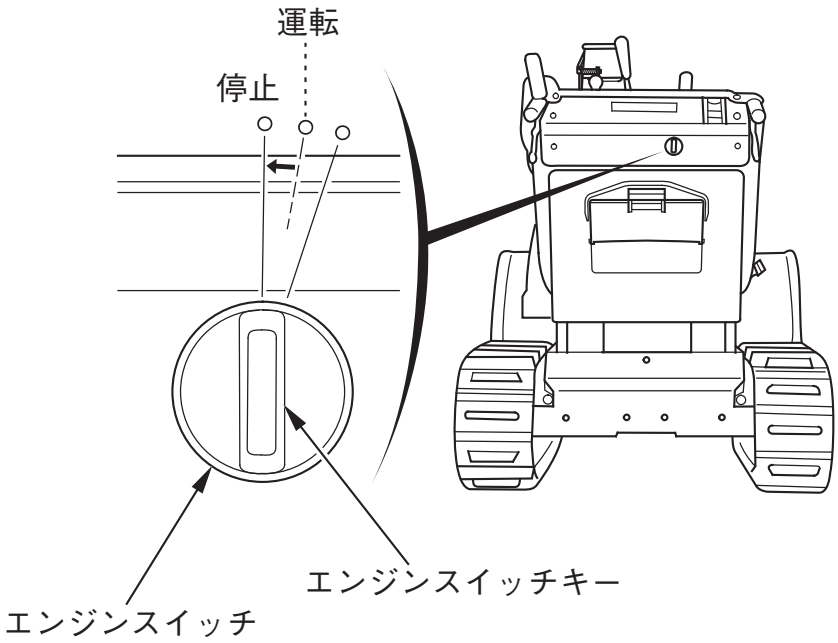
（JNタイプ）



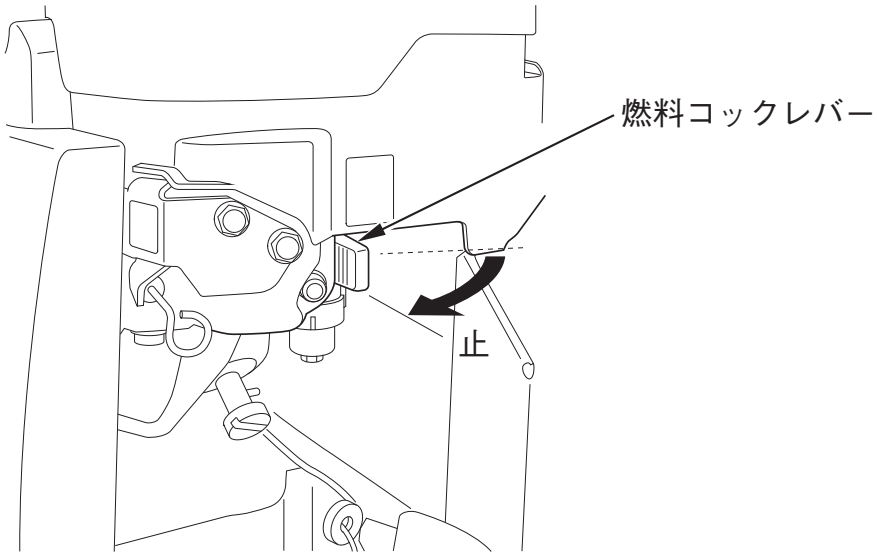
（JRタイプ）



5. エンジンスイッチを “**停止**” の位置にし、エンジンスイッチキーを抜きます。



6. 燃料コックレバーを “止” の位置にします。



取扱いのポイント

作業後は、各部の雪を取除いて格納してください。雪が付いたまま放置すると凍結し、次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

定 期 手 入 れ を 行 い ま し ょ う

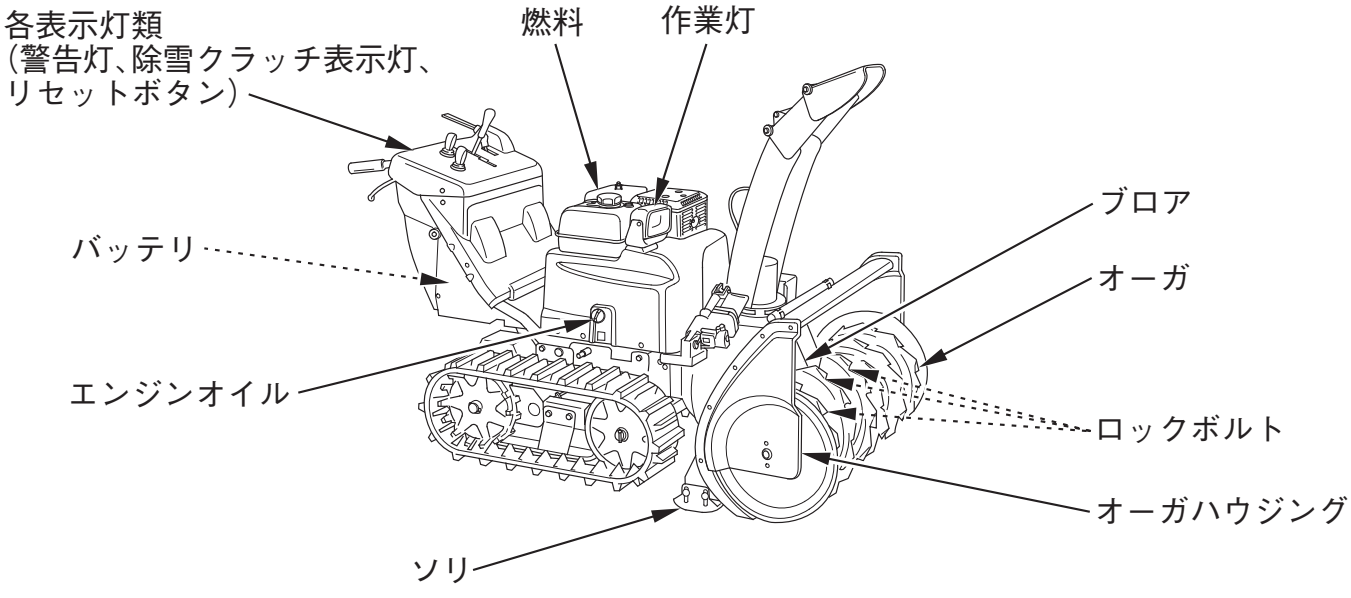
日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

- 燃料 …… 残量の確認。漏れがないこと。
- エンジンオイル …… 規定量入っていること。漏れがないこと。
- 各部の締付け …… ハンドルのガタがないこと。
- バッテリ …… バッテリ液の点検（38 頁参照）端子のゆるみ（82 頁参照）
- ソリ …… ソリの高さ調整（44 頁参照）
- 投雪方向調節スイッチ、オーガハウジング調節スイッチ …… 作動の確認。
- オーガ、ロックボルト、ブロア、オーガハウジング等の損傷やゆるみがないこと。
- 前回の作業で異常箇所はなかったか。異常箇所は点検整備のこと。
- 運転中に制御表示灯（橙）が点灯、点滅し、エンジン再始動後も消灯しない場合、また、その他異常を感じたら、ただちにお買い上げ販売店へお申しつけください。（97、98 頁参照）

取扱いのポイント

- カバー類を取外したまま屋外に放置しないでください。故障の原因となります。
- 本機を洗車する場合は、直接電装部品に被水しないように行ってください。被水すると、浸水し故障の原因となります。



定期点検

お買いあげいただきましたHonda除雪機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

点検時期（1） 点検項目		作業前点検	シーズン毎		1ケ月目または初回20時間運転目	100時間運転毎	300時間運転毎	4年毎
			除雪時期初め	除雪時期終わり				
エンジンオイル	点検、補給	○						
	交換		○ (5)		○	○ (5)		
バッテリ液	点検	○						
	比重点検		○ (2) (5)					
モータ減速機オイル	点検		○ (2)					
オーガトランスミッションオイル	交換	2年毎（2）（5）						
点火プラグ	点検、調整		○ (5)					
	交換						○	○
ソリ、スクレーパ	点検、調整	○	○ (5)					
クローラ	点検、調整		○ (5)		○			
オーガ、ブロア、ロックボルト	点検	○						
各部締め付け点検	点検	○						
燃料ろ過カップ	清掃			○				
タンク、キャブレータの燃料	抜き			○				
格納時各部防錆、給油	塗布、給油			○				
シュータケーブル	点検、調整		○ (2) (5)		○ (2) (5)			
オーガベルト	点検、調整		○ (2) (4) (5)		○ (2) (4) (5)			
ACGベルト	点検、調整		○ (2) (4) (5)		○ (2) (4) (5)			
アイドル回転	点検、調整		○ (2)				○ (2)	
吸入、排気弁すき間	点検、調整		○ (2)				○ (2)	
燃焼室	清掃	1，000時間運転毎（2）（3）						
燃料タンク、ろ過網	清掃					○ (2)		○ (2)
燃料チューブ	点検	2年毎（2）						
	交換							○ (2)

(1) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(2) 適切な工具と整備技術を必要としますので、販売店またはサービス店で実施していただく項目です。
(3) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。
(4) ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。
(5) 消耗部品であり、使用状況や環境によって点検、交換時期が変わります。異常や損傷がある場合は早めに交換してください。

点　検　・　整　備　の　し　か　た

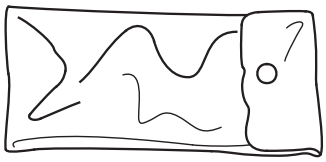
点検・整備を行う前に作業内容を確認してください。ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店へご相談ください。

⚠警告

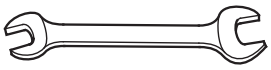
点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いて行ってください。

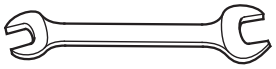
携帯工具と付属部品

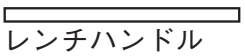
工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。
（　）は、個数を表示しています。

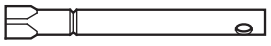

工具袋

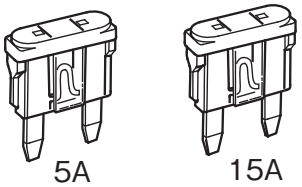

10X12mm アイレンチ

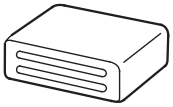

10X14mm スパナ


12X17mm スパナ(2)

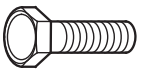

レンチハンドル

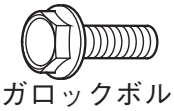

スパークプラグ用レンチ


5A　15A
予備ヒューズ


予備ヒューズカバー

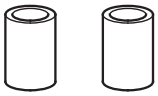

プライヤー

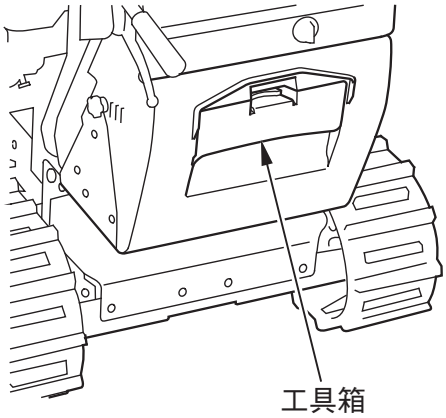

ブロアロックボルト(5)


オーガロックボルト(10)


8mmブロア／オーガロックナット(15)


ホイールピン固定用割ピン(2)


チューブ(2)
（バッテリ端子カバー）


工具箱

エンジンオイルの交換

⚠警告

- エンジン停止直後はエンジン本体やオイルの温度が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。
- 補給、交換時にこぼれたオイルは布きれなどでふき取ってください。エンジン高温部、マフラ等に付着すると火災の原因となります。

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

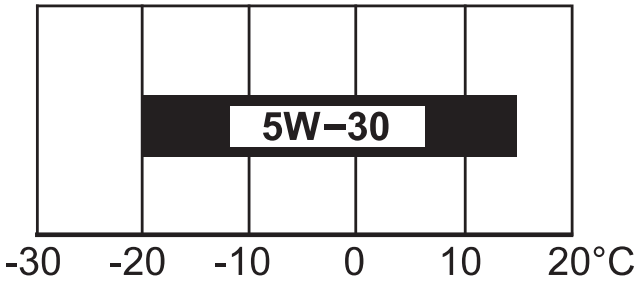
73 頁を参照。

《推奨オイル》

Honda 純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）または API 分類 SE 級以上の SAE 5W-30 エンジンオイルをご使用ください。

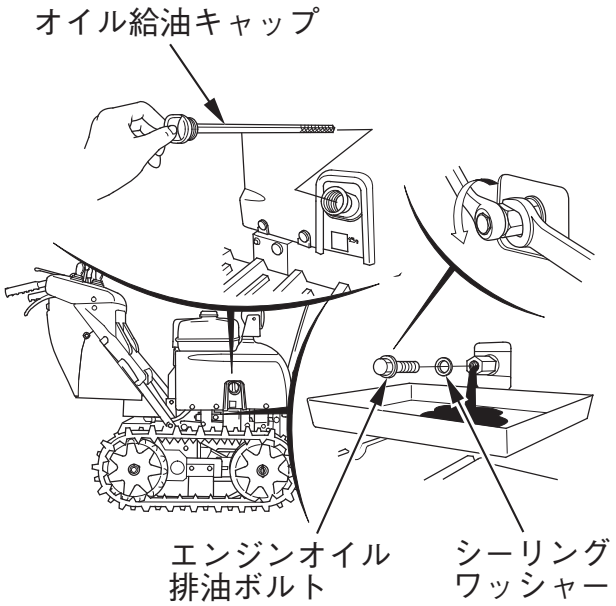
《規定量》1.1 L

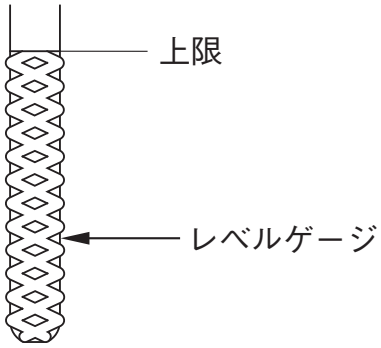
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《交換のしかた》

1. 本機を平坦な場所で水平な状態にします。
2. オイル受けを用意して排油ボルトの下にセットします。
3. エンジンオイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
4. オイルが抜けたら新しいシーリングワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
5. 新しいエンジンオイルをレベルゲージの上限まで注入します。
6. 注入後、エンジンオイル給油キャップを確実に締付けます。





取扱いのポイント

- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。
- 外したシーリングワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリングワッシャを使用してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがにじみでることがあります。

点火プラグの点検、調整、交換

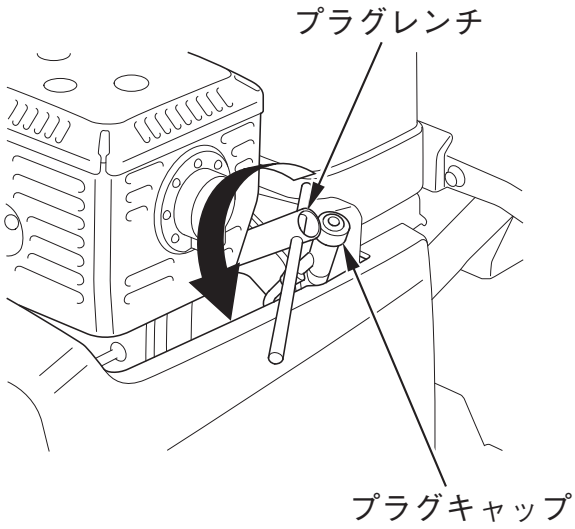
⚠注意

エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《点検・調整時期》
73 頁を参照。
《交換時期》
73 頁を参照。
《指定プラグ》

BPR5ES (NGK)
W16EPR-U (DENSO)



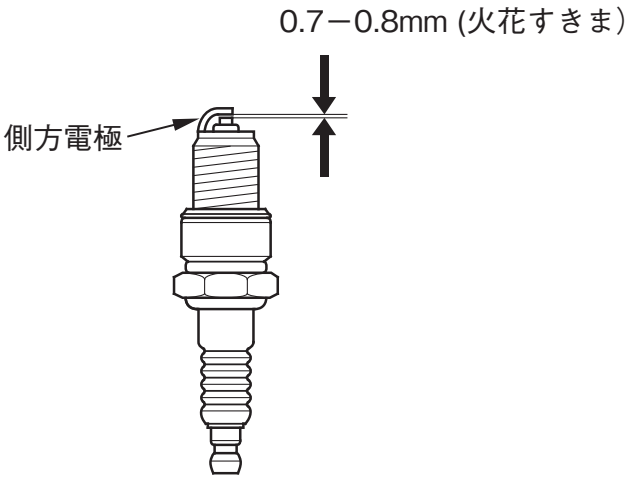
清掃のしかた

1. 点火プラグキャップを取外してください。
2. プラグレンチ（同梱工具）で点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。プラグクリーナがないときは、針金かワイヤブラシで汚れを落としてください。

《調整》

調整のしかた

側方電極を曲げて火花すき間を 0.7 ー 0.8 mm に調整します。



取扱いのポイント

- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検、調整後は点火プラグキャップを確実に取付てください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

クローラの張り点検、調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検時期》

73 頁を参照。

点検のしかた

クローラ中央部を強く（約 98 N（10 kgf））押したときたるみが適正寸法になっていることを確認します。

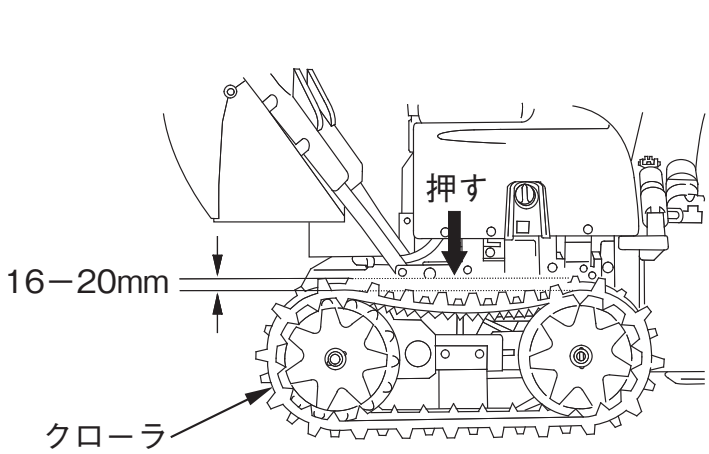
適正寸法：16 － 20 mm

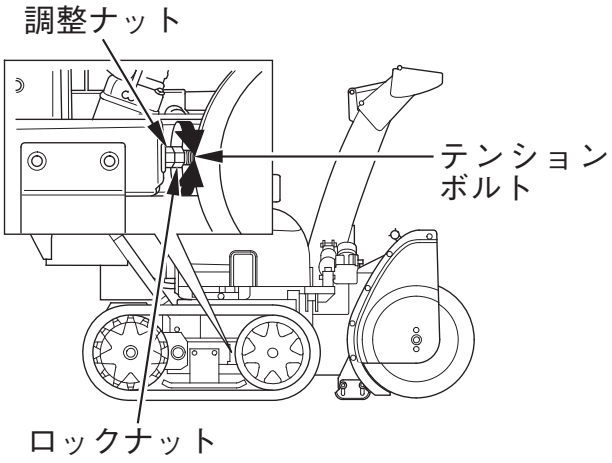
調整のしかた

1. テンションボルトのロックナットをゆるめて、調整ナットを回して調整してください。（12mm スパナ 2 本使用）
   右に回すとクローラは張ります。
   左に回すとクローラはゆるみます。
2. たるみが適正寸法になるように調整してください。
3. 調整後確実にロックナットを締付けてください。
4. 左右同じ方法で点検し、均等に調整してください。

取扱いのポイント

クローラが凍結しているときは正しい張り調整ができません。
必ず凍結を取り除いてから調整してください。





除雪部の点検

オーガ、オーガハウジング、ブロアに損傷のないことを確認します。

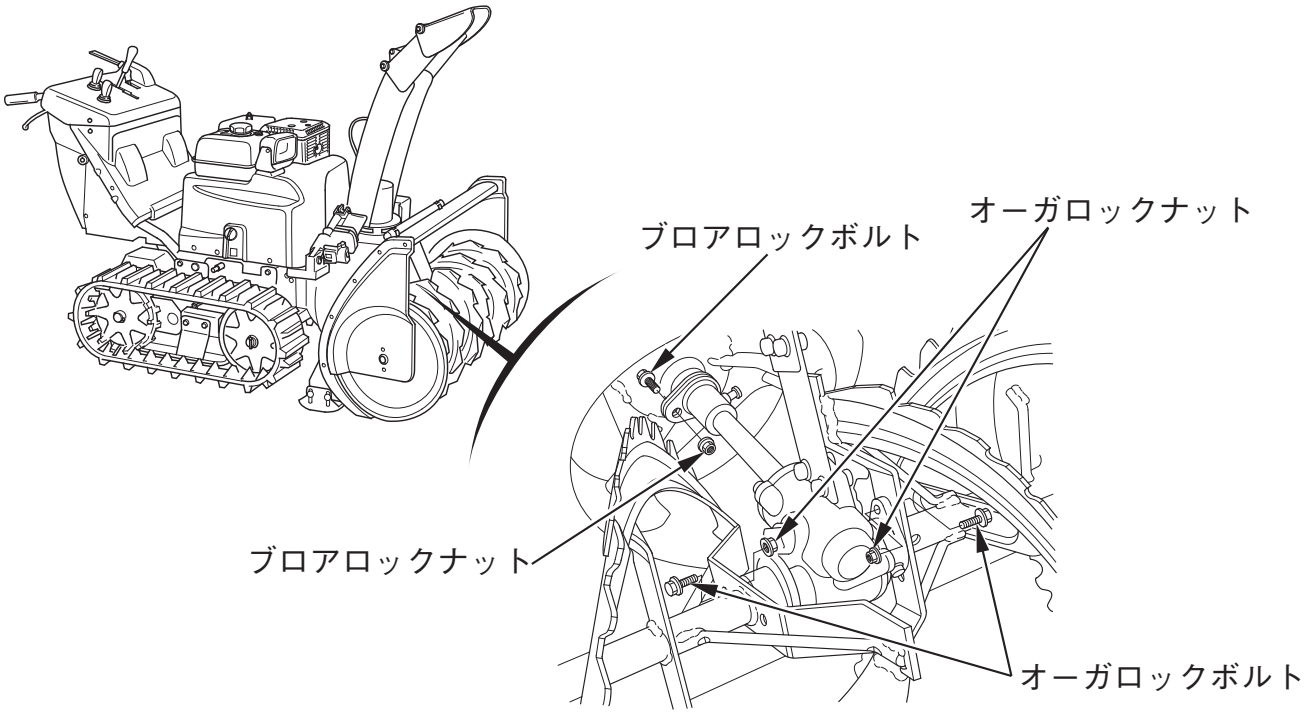
オーガ、ブロアのロックボルトのゆるみ、折れがないことを確認します。

もし折れている場合は下記の手順で同梱されているロックボルトと交換してください。

ロックボルトの交換方法

1. 本機を平坦な場所に水平に止めてください。
2. 除雪クラッチボタンを “**切**”、走行クラッチレバーを “**停止**” に操作してください。
3. 前後進速度調節レバーを “**N**”（**中立**）にしてください。
4. オーガハウジング調節スイッチでオーガを水平にし、着地させてください。
5. エンジンスイッチキーを “**停止**” にして、キーを抜き、各回転部が停止していることを確認してください。
6. オーガ、ブロアの凍結または異物（石、棒、針金など）を取除きます。
7. 除雪部（オーガ、オーガハウジング、ブロア）に損傷がないことを点検してください。

8. 折れたボルトを取除き、新しいボルトと交換し、確実に締付けてください。
（オーガロックナットとブロアロックナットは同一品です。）

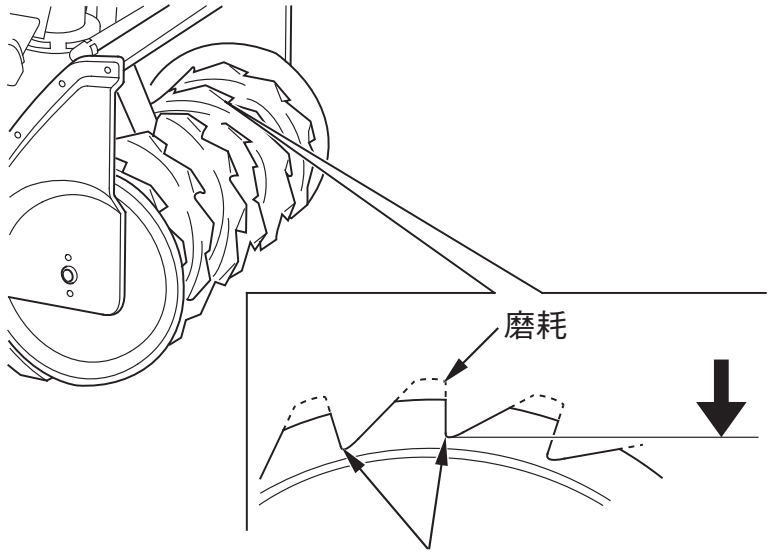


☆ オーガ／ブロアロックボルト、ナットはスペア部品が同梱されています。
使用した場合は、万一に備えて補充してください。

☆ 新しいロックボルト、ナットはお買いあげ販売店にご注文ください。

オーガ、ブロアの交換

・オーガは路面や石との接触により磨耗します。
磨耗したオーガでは除雪性能が悪化しますので、新しい部品に交換してください。



使用限度
オーガが磨耗していくと、除雪性能は下がります。
オーガが摩耗して、雪への食い込み性が悪くなったら交換してください。
除雪作業中にオーガを路面に接触させなければ、早く磨耗しません。

・オーガ、ブロアが変形した場合には、外力を加えて修正しないでください。割れ目が生じ、思わぬ事故の原因となることがあります。
・変形したオーガ、ブロアが回転中に干渉する場合や、除雪性能の低下や投雪距離が短くなったときは、新しい部品に交換してください。
・オーガ、ブロアの交換は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

バッテリ

《端子の手入れ》

端子のゆるみ、腐食は接触不良、作業灯、警告灯、表示灯のバルブ切れの原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、バッテリを取外しぬるま湯で清掃してください。端子部が腐食している場合は、ワイヤブラシかサンドペーパでみがきます。清掃がおわったら、端子接続後グリースを塗布してください。

⚠警告

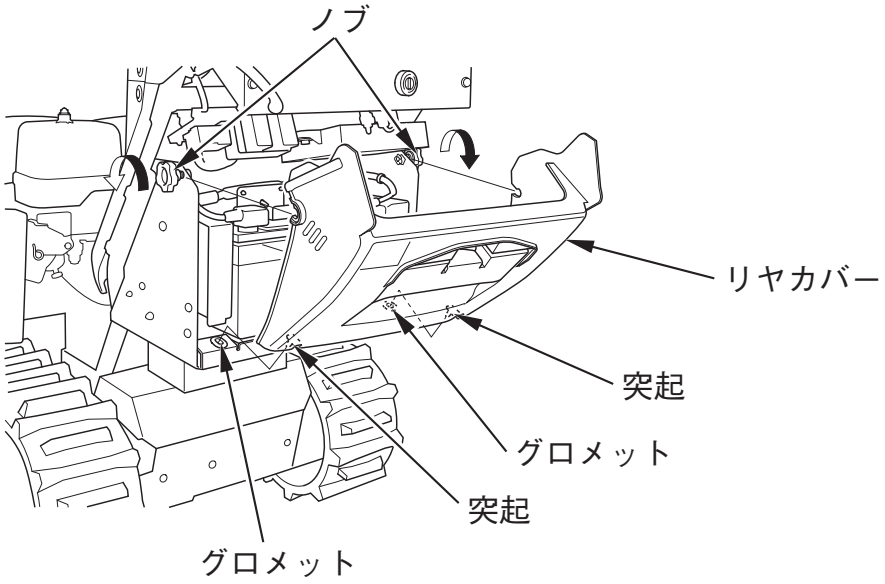
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は（＋）側から接続し、外すときは（－）側から外し、付属のチューブを端子に取付け、保護してください。工具の接触などでショートする場合があります。
  本機に 24 V（12 V バッテリ 2 個直列接続）以外の接続はしないでください。引火、爆発により重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 15 分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

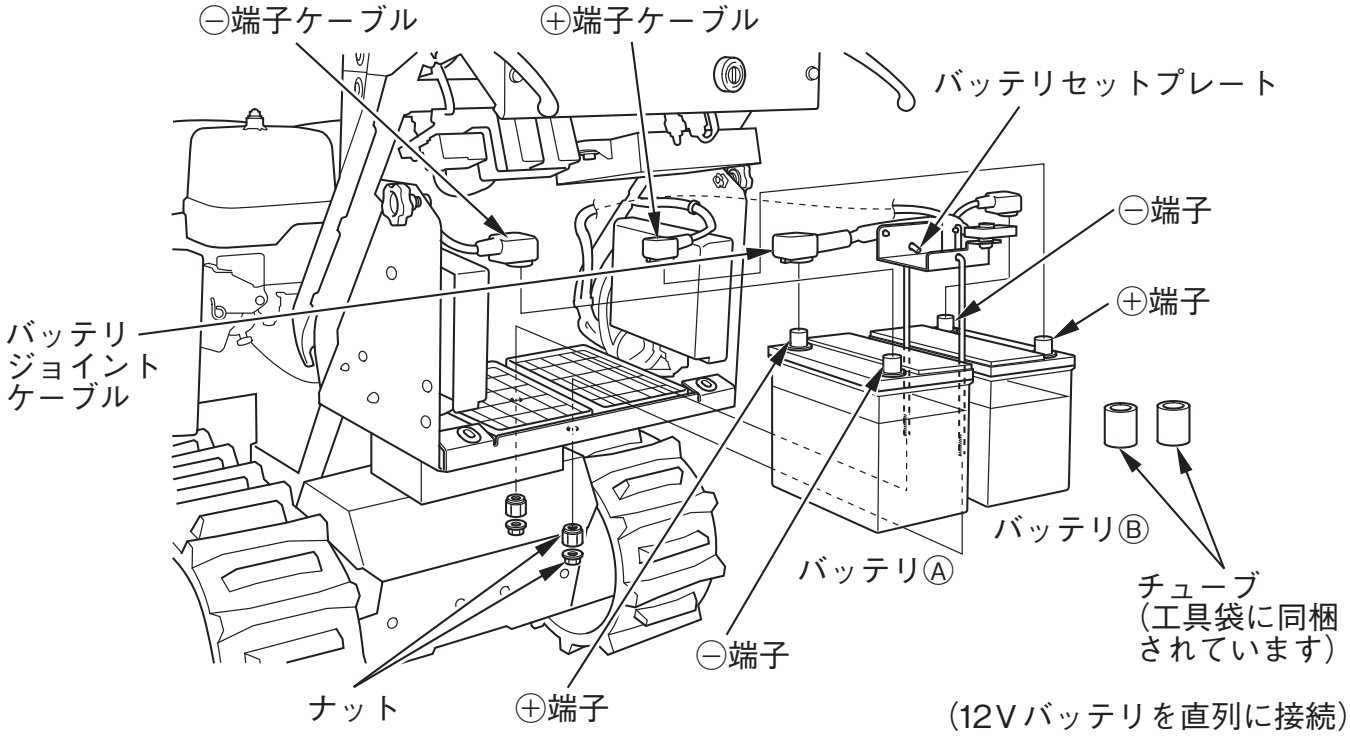
- 長時間使用しない場合には、（－）バッテリ端子を外しておいてください。長期間保管中は、6 か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液（蒸留水）を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限（UPPER LEVEL）以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

バッテリの取外し・取付け

1. エンジンスイッチを “停止” の位置にし、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. リヤカバーの左右のノブ２個をゆるめ、リヤカバーを手前に引き、上の方向に上げて取外します。

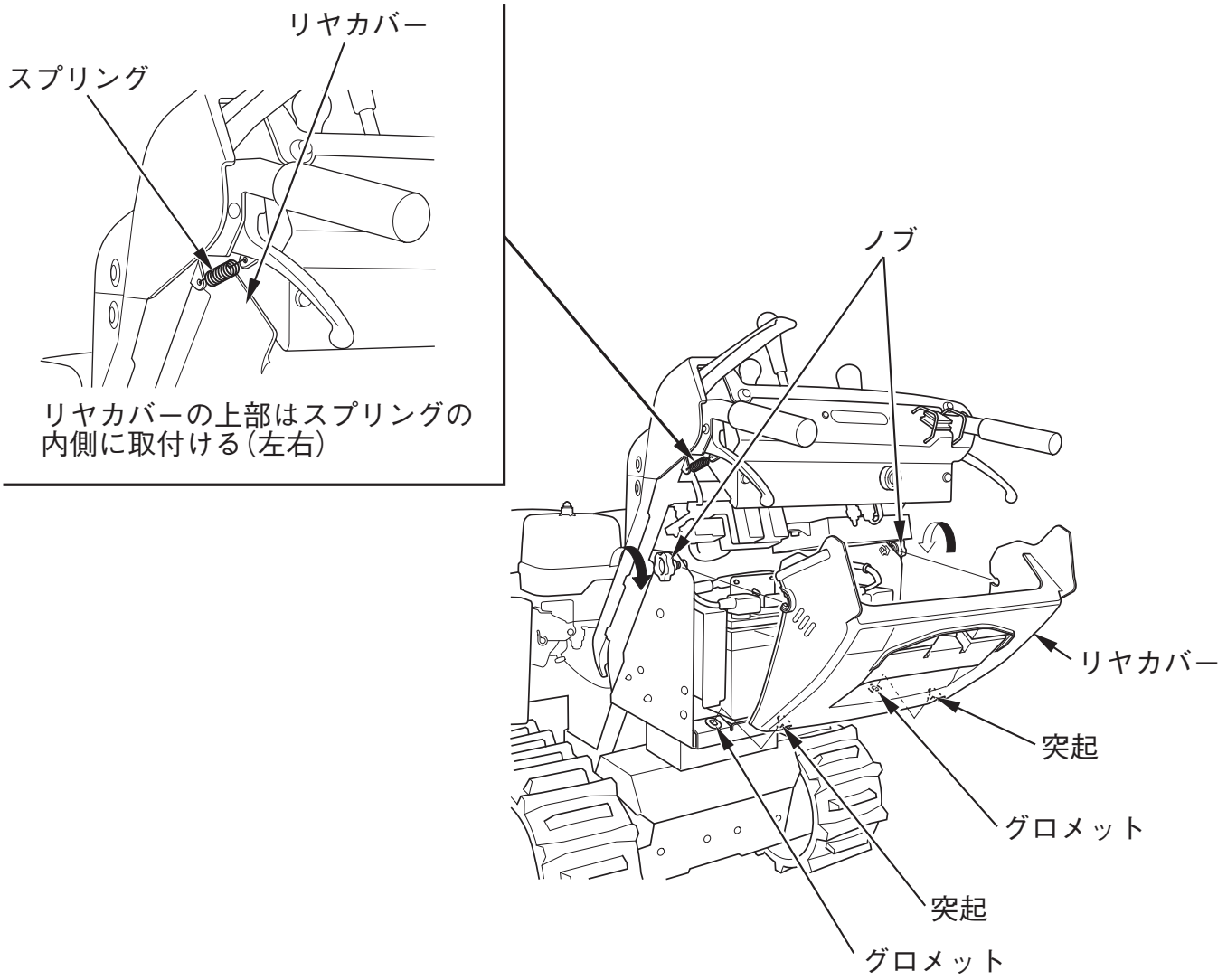


3. バッテリ（A）のバッテリ（−）端子の接続を外し、同梱されているチューブをバッテリの（−）端子部に取り付けます。
4. バッテリ（B）のバッテリ（＋）端子の接続を外し、同梱されているチューブをバッテリの（＋）端子部に取り付けます。



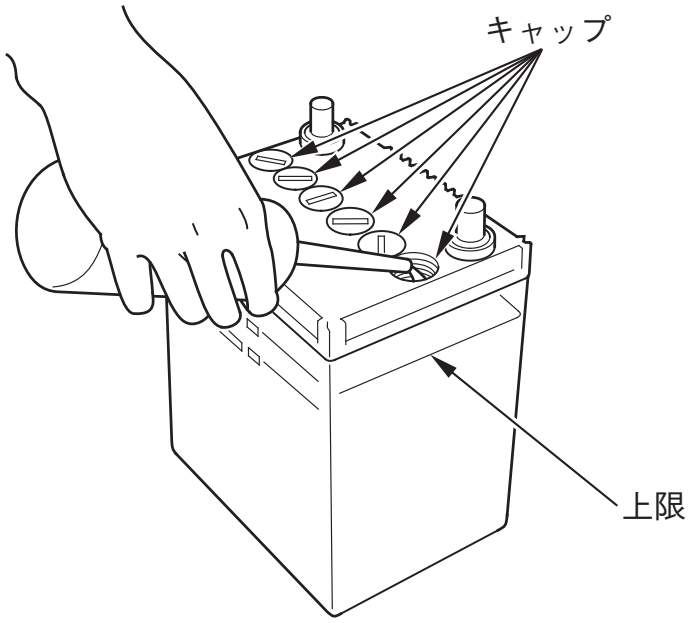
（12Vバッテリを直列に接続）

5. バッテリセットプレートのナットをゆるめて、バッテリを引き出します。
6. バッテリ（B）のバッテリジョイントケーブル（−）端子の接続を外します。
7. バッテリ（A）のバッテリジョイントケーブル（＋）端子の接続を外します。
8. 取付けるときは、取外しの逆の手順で取付けます。
9. リヤカバー下部2ケ所の突起とパネル下のグロメットを合わせてリヤカバーを取付けます。
10. リヤカバーの左右のノブを確実に締付けてください。



バッテリ液の補給

バッテリを外し、キャップを外して、バッテリ補充液（蒸留水）を上限（UPPER LEVEL）まで補給します。バッテリの取外し、取付けは 83 頁を参照してください。



ヒューズについて

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

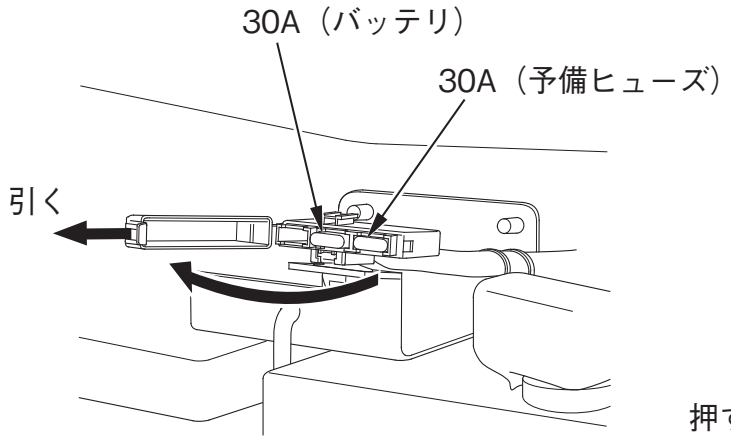
取扱いのポイント

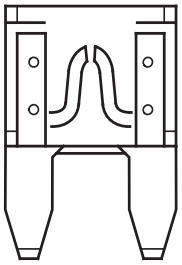
指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

1. リヤカバーを取外します。(83 頁参照)
2. 切れたヒューズを新品のヒューズと交換してください。

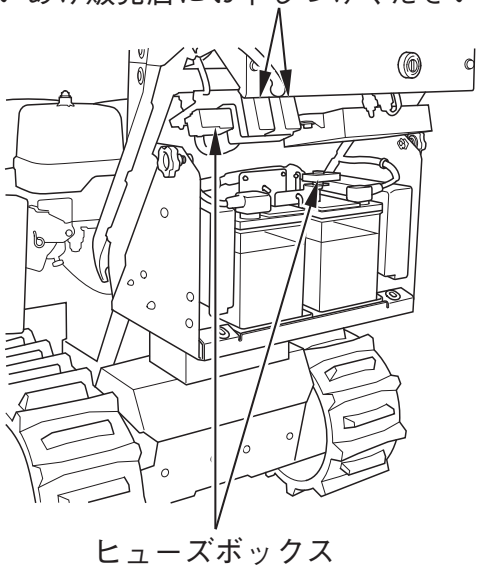
☆ 指定ヒューズは、お買いあげ販売店にご注文ください。

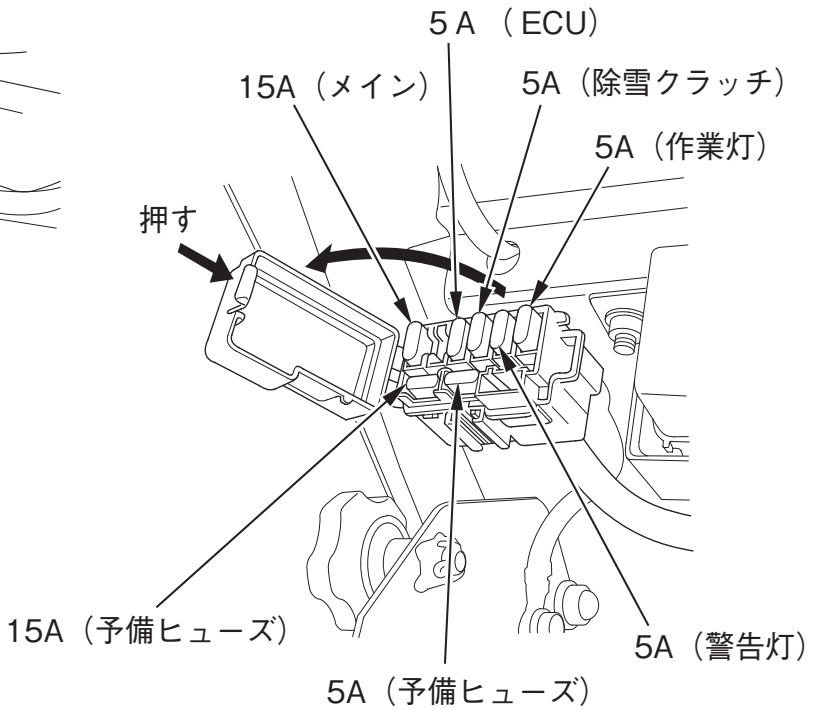




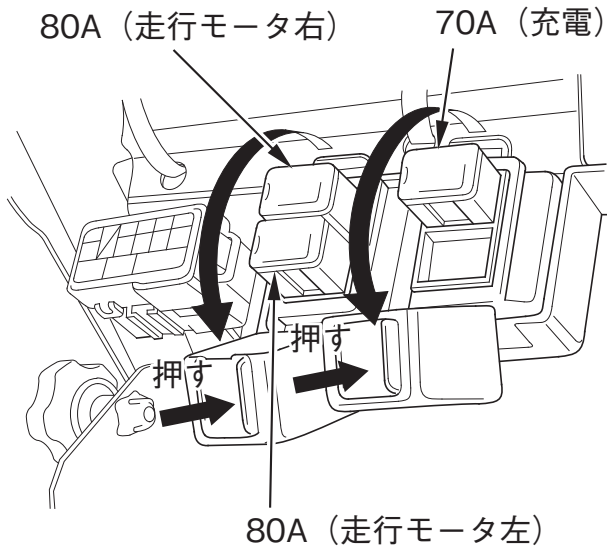
切れたヒューズ

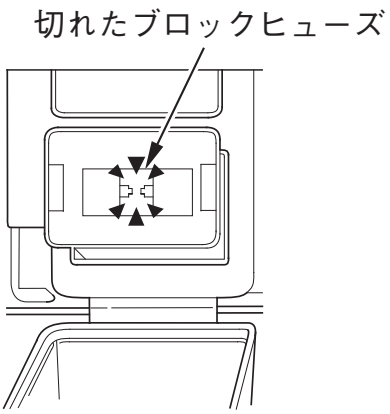
5A、15Aの予備ヒューズが
工具袋に同梱されています





3. ブロックヒューズ（充電、走行モータ）の交換は、お買いあげ販売店で修理を受けてください。





各部が作動しないときは

- ヒューズに異常がないか確認してください。
- ヒューズに異常がない場合は、お買いあげ販売店で、点検・修理を受けてください。

各部の作動点検

年 1 回除雪時期の初めに、次の点検を行ってください。

- エンジンの始動、停止
- レバー類の作動
- スイッチ類の作動
- その他の可動部分の作動

運　搬　す　る　と　き　は

アユミ板を使ってのトラックへの積み降ろし

⚠警告

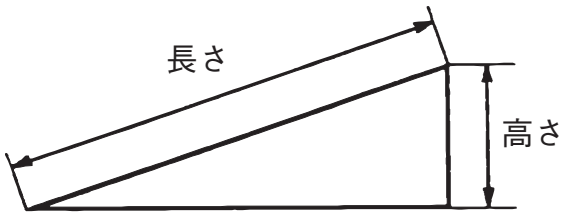
車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。

   本機の総重量：

   - HSM1380i : 約 240 kg（JN タイプ）, 約 250 kg（JR タイプ）
   - HSM1390i : 約 245 kg（JN タイプ）, 約 255 kg（JR タイプ）
3. 下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなアユミ板を選んでください。



アユミ板の長さ	2.5 m	3.0 m	3.5 m
地面からアユミ板までの高さ	50 cm	60 cm	70 cm

4. ほろまたは、キャブ付のトラックでは、あらかじめ除雪機を格納できる高さを確認してください。
5. 燃料が十分あるか確認してください。“空” に近いとエンストしてしまうことがあります。

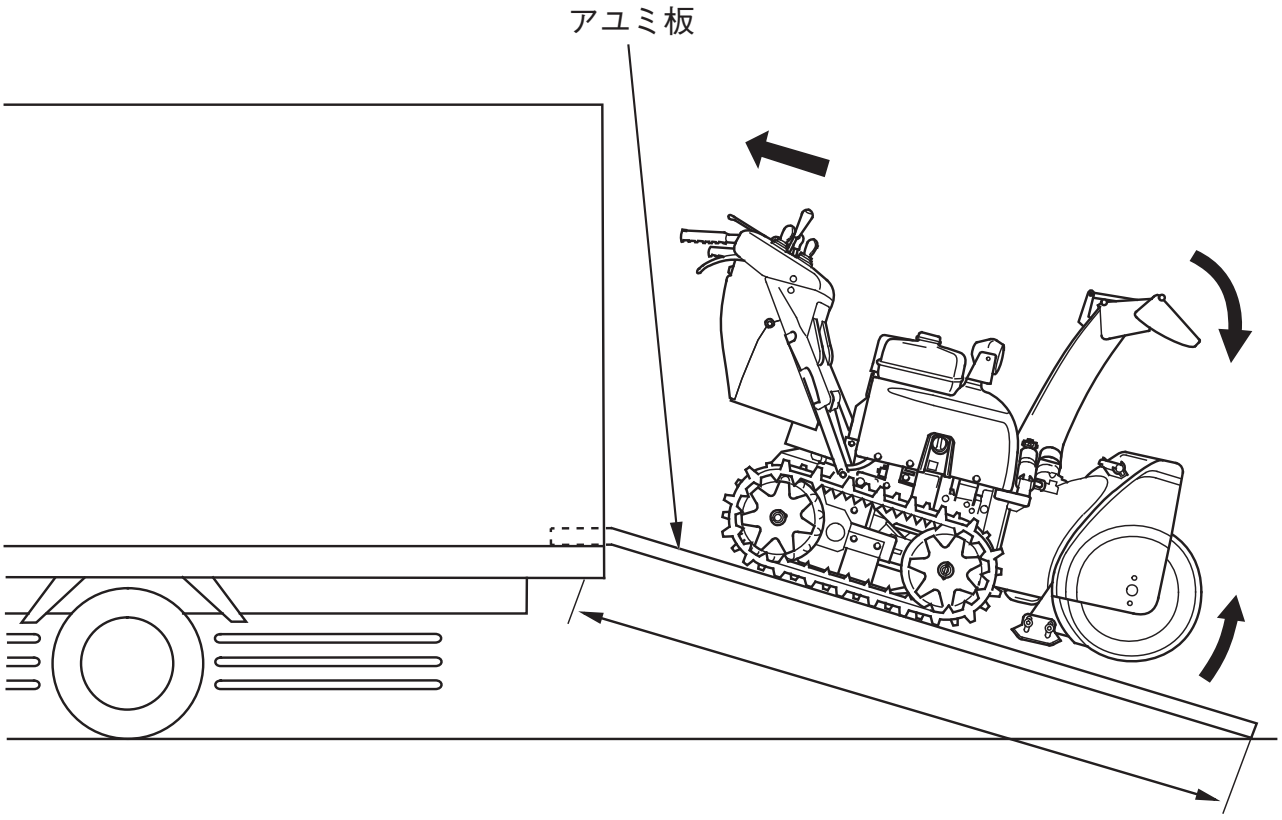
《手順》

1. アユミ板の幅をクローラの幅に合わせます。
2. エンジンを始動し、オーガハウジング調節スイッチで、オーガを積み降ろしに必要な高さまで上げます。
3. 投雪方向調節スイッチで投雪口をいっぱいに下げます。

4. 前後進速度調節レバーを低速域、後進に入れ十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。
5. 除雪部がほろなどに当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

⚠警告

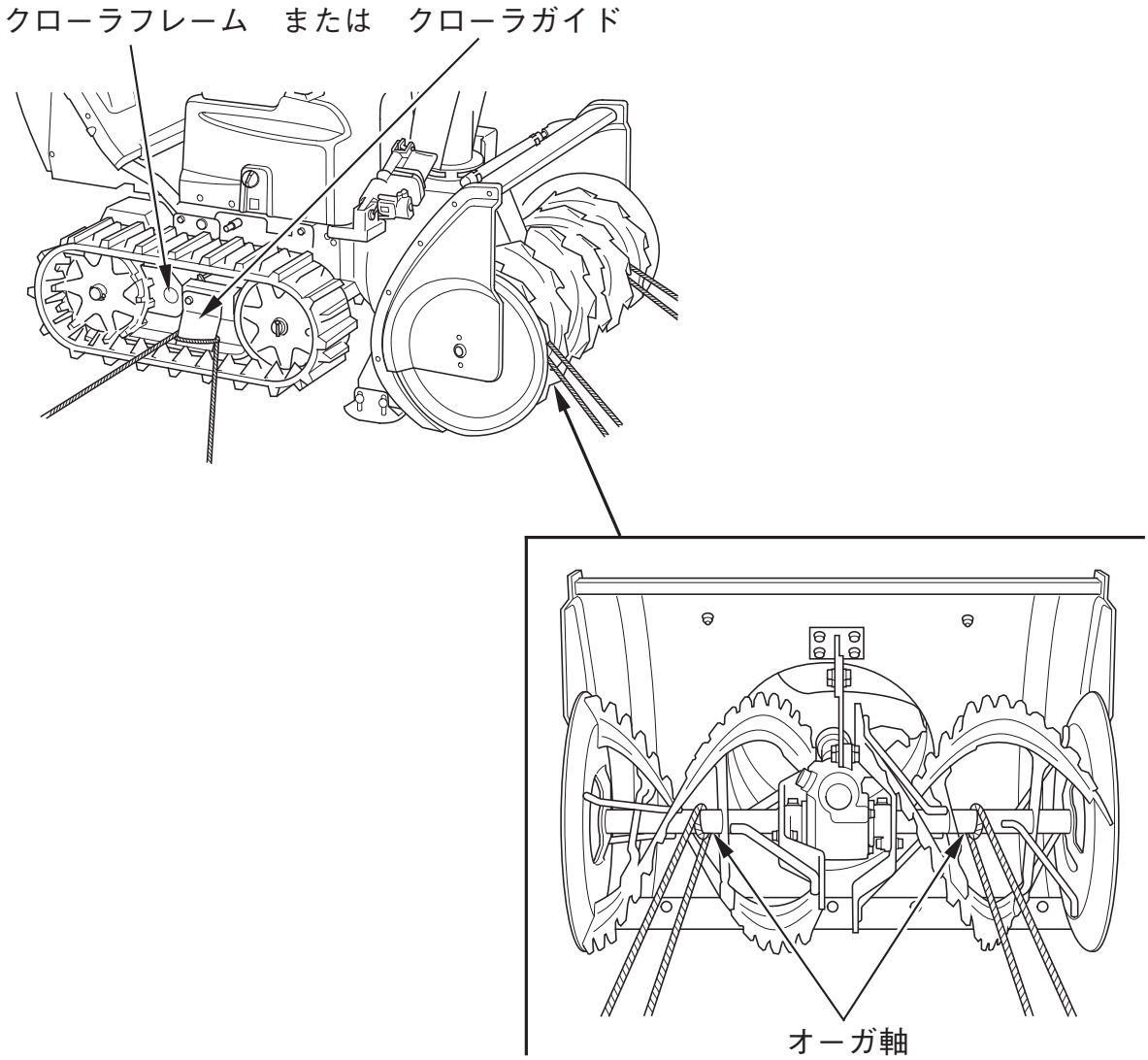
- アユミ板の上を移動途中に、旋回レバーによる操作を絶対に行わないでください。アユミ板から本機が落ちる場合があります。
- アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は前後進速度調節レバーを “N”（中立）の位置（走行クラッチレバーを握っても本機が動かない位置）にして再始動してください。



取扱いのポイント

本機を吊上げないでください。本機が破損するおそれがあります。

6. 荷台に乗せたらエンジンを停止させて、燃料コックレバーを “**止**” にします。
7. ロープなどで固定します。本機が変形するような過大な荷重でロープを締付けないでください。



取扱いのポイント

ロープをかける場合は配線、ケーブル、ホースを一緒にかけないでください。
破損するおそれがあります。

長期間使用しないときの手入れ

除雪シーズンが終わり長期間格納するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次の手入れを必ず行ってください。

・30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータの燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 作業は風通しが良く、換気の良い場所で行い、燃料付近でのタバコの喫煙や、炎など火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから作業を行ってください。静電気の放電による火花により気化した燃料に引火し、やけどを負うおそれがあります。本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料はこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。燃料をふき取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

取扱いのポイント

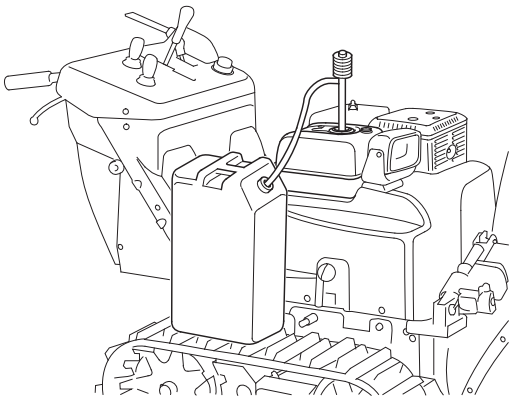
次回使用時は新鮮な燃料を補給してください。

1. 保管するときは、オーガハウジングを接地させ、エンジンスイッチキーを抜いてください。
2. 燃料タンク、キャブレータの燃料を抜きます。

《抜きかた》

－ 1. 燃料タンク内の燃料を抜きます。

燃料給油キャップを外し、市販のガソリン用ポンプなどを使用して燃料タンク内のガソリンを専用容器に移してください。電動式のポンプは使用しないでください。

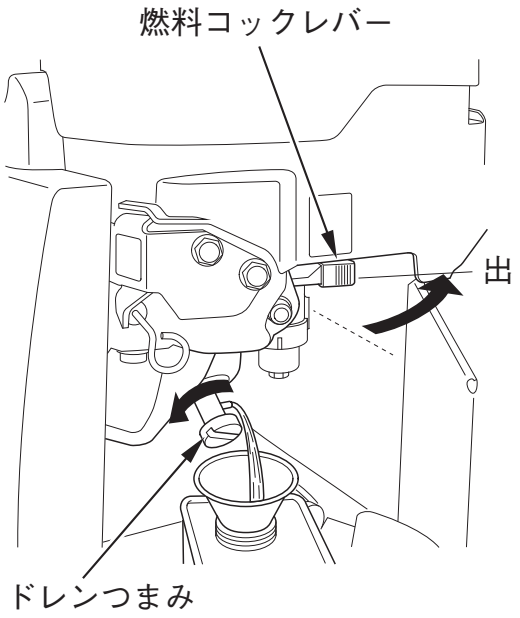


－2. 燃料コックレバーを “**出**” に合わせます。

－3. キャブレータ（気化器）のドレンつまみを回して燃料を容器に受けます。ドレンつまみが固くて回らない場合は、ドレンつまみの溝に合う工具などを使用して回してください。

－4. 完全に抜けたらドレンつまみを確実に締めます。

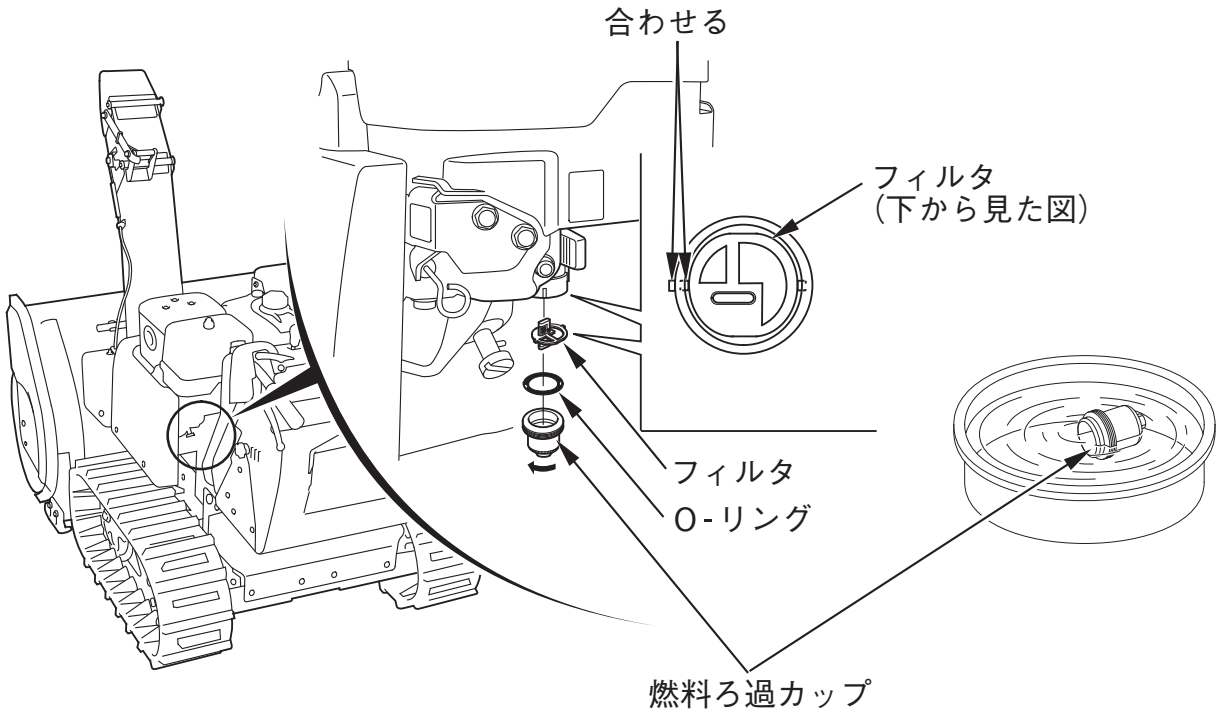
－5. 燃料コックレバーを “**止**” にします。



3. 燃料ろ過カップの清掃

－1. 燃料ろ過カップ、O- リング、フィルタを外し、燃料ろ過カップ、フィルタを洗油で洗浄します。

－2. フィルタ、新しい O- リング、燃料ろ過カップを取付け確実に締めつけます。



4. バッテリの手入れ

保管時は、バッテリの（−）端子を外しておいてください。（83 頁参照）

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので 6 か月に 1 度および除雪時期の初めと、終わりにバッテリを外して（83 頁参照）補充電を行ってください。

本機は 24 V（12 V 用バッテリ 2 個直列）を使用しています。12 V 用充電器を使用するときはバッテリを 1 個づつ別々に、補充電を行ってください。

充電時間：**2.7A で約 10 時間（標準）**

5. ボルト、ナットの破損、腐食、ゆるみの点検。（79、80 頁参照）

6. バッテリ液面の点検。（38 頁参照）

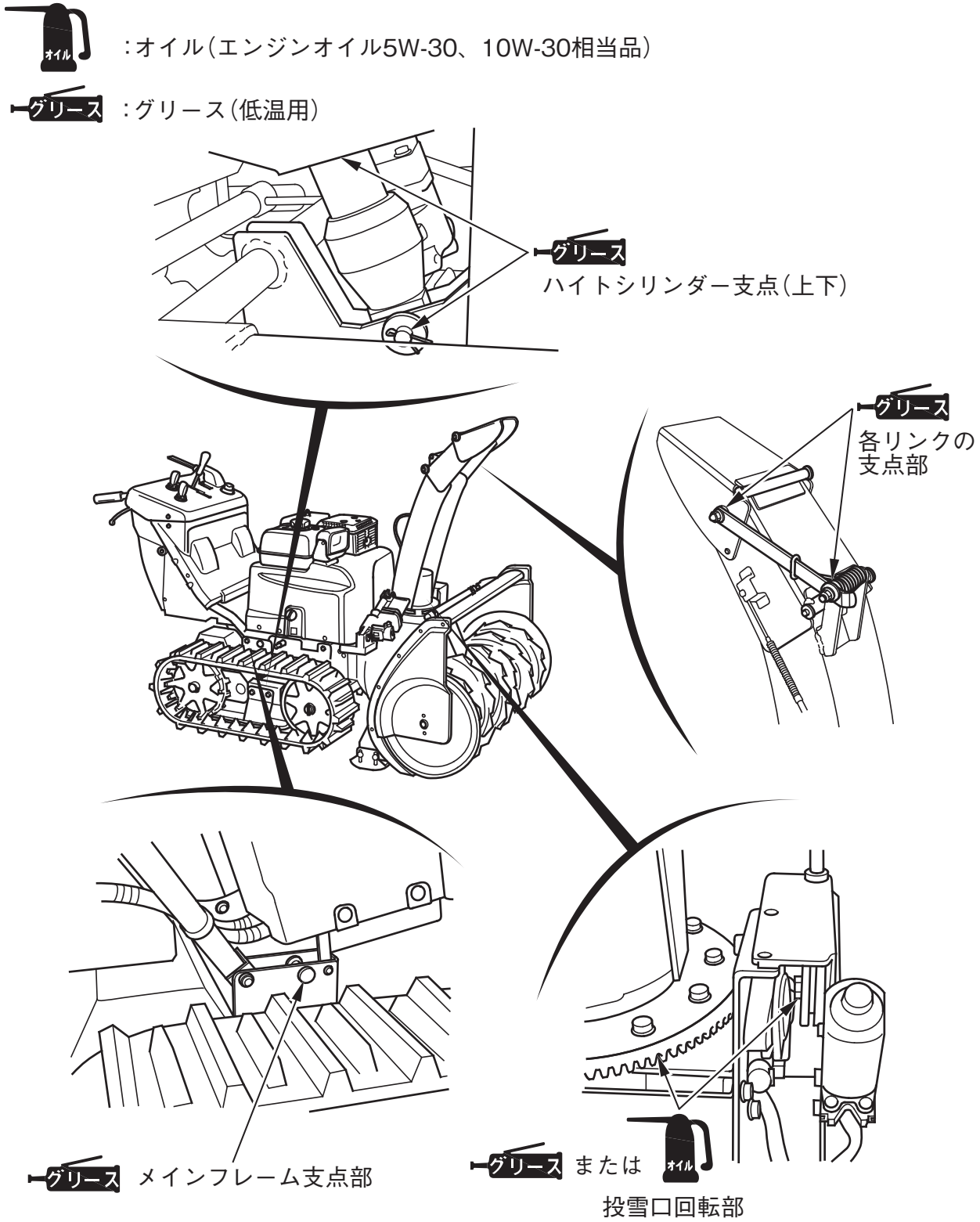
⚠警告

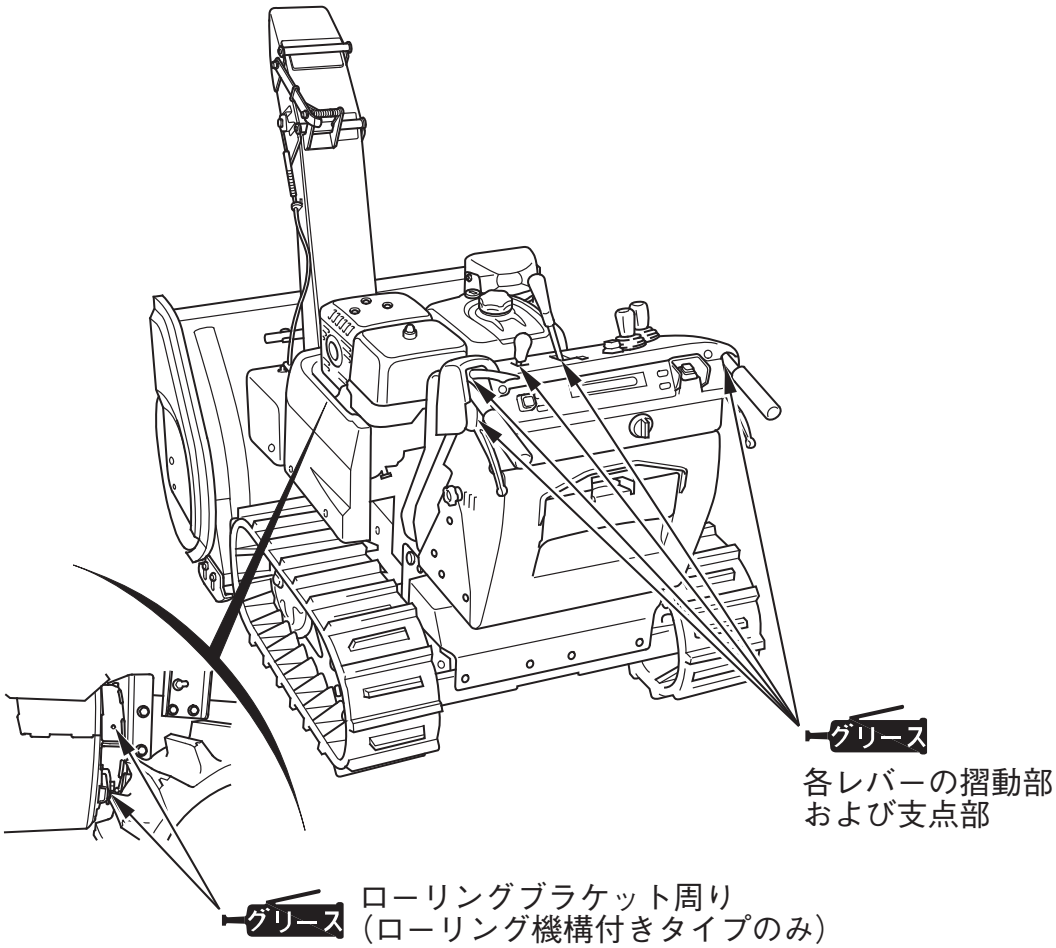
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は（＋）側から接続し、外すときは（−）側から外し、付属のチューブを端子に取付け、保護してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 15 分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

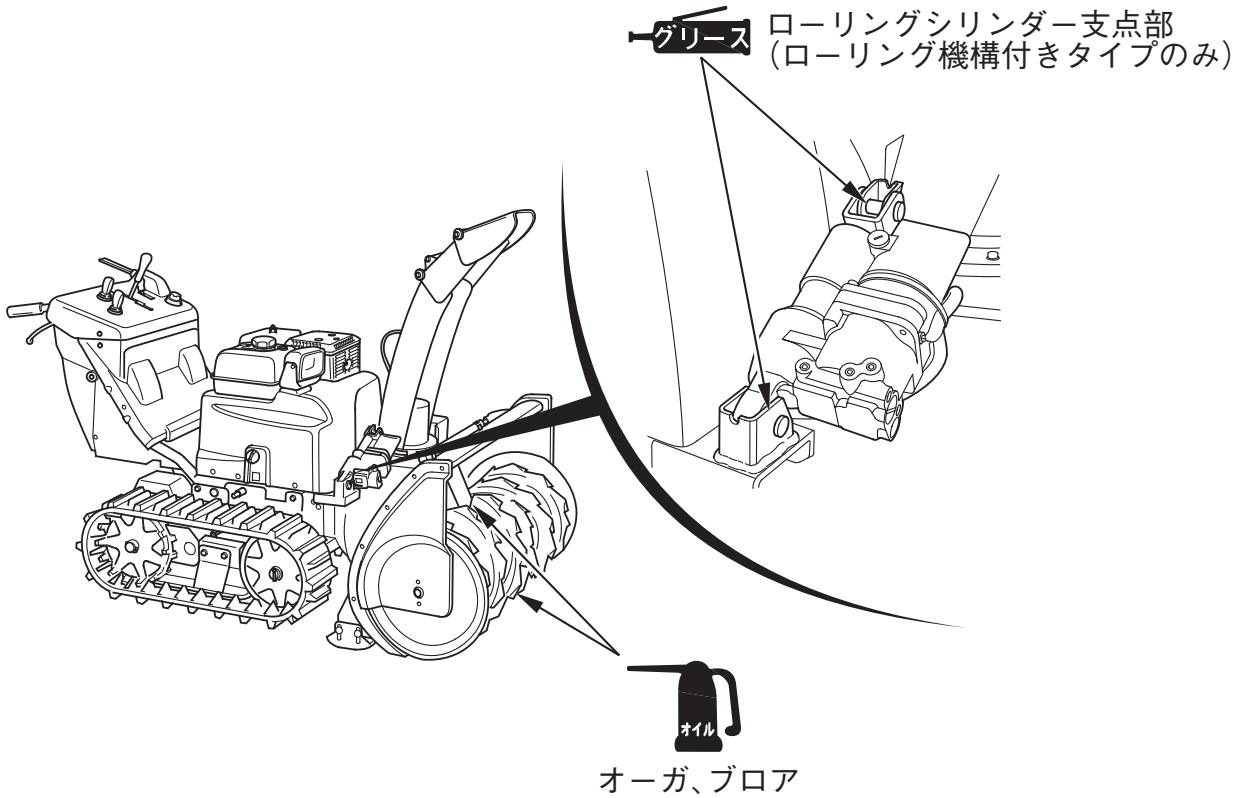
7. 保管時の給油箇所

水気、汚れを拭きとり、乾燥後に回転部および摺動部にオイルまたはグリースを注油してください。

ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店へご相談ください。




グリース
各レバーの摺動部
および支点部
グリース
ローリングブラケット周り
（ローリング機構付きタイプのみ）


グリース
ローリングシリンダー支点部
（ローリング機構付きタイプのみ）
オイル
オーガ、ブロア

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申しつけください。

始動しないときは、次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書どおりですか？（41 ～ 43 頁参照）
2. 燃料はありますか？（35 頁参照）
3. 燃料コックレバーは “**出**” の位置になっていますか？（41 頁参照）
4. オートチョークが氷等の付着により働かなくなっていませんか？（43 頁参照）
5. オイル警告灯が点灯していませんか？（17 頁参照）
6. 点火プラグキャップは確実に取付けられていますか？（77 頁参照）
   点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（77 頁参照）

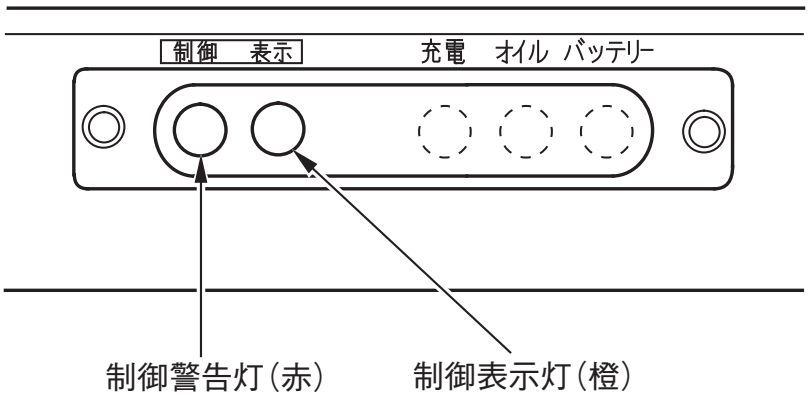
- 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。
- 運転中に表示灯（橙）が点灯、点滅し、エンジン再始動後も消灯しない場合は、ただちにお買いあげ販売店で点検を受けてください。
- 運転中に制御警告灯（赤）が点滅する場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止し、しばらくたってから再始動してください。エンジン始動後に消灯すれば正常です。消灯しない場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。

少し時間をおいてもう一度確めましょう

故障診断機能

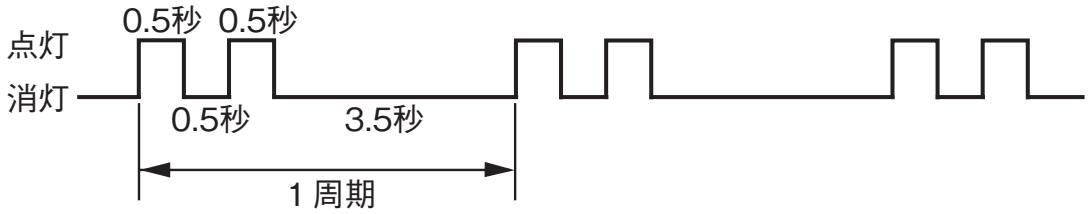
故障の場合

運転中に故障が発生した場合、表示灯（橙）が故障内容にあった点滅回数を繰り返し点滅表示し、故障中であれば、エンジンスイッチを “**停止**” の位置にし、再度エンジンスイッチを “**運転**” の位置にすると故障内容にあった点滅回数を繰返し点滅表示します。(98 頁参照)



・表示灯（橙）の点滅周期は 0.5 秒点灯、0.5 秒消灯。故障回数点滅後に 3 秒消灯時間があり再度の繰り返しをします。

例、2 回点滅の場合：0.5 秒点灯→ 0.5 秒消灯→ 0.5 秒点灯して 3.5 秒消灯し繰り返します。



表示灯（橙）の点灯、もしくは点滅回数を確認してください。

故障診断表

制御 警告灯（赤）	表示灯（橙） 点滅回数	不具合内容	原因	処置
点灯	消灯	メイン ECU マイコン故障	メイン ECU 内部異常	お買いあげ販売店へ お申しつけください。
	2 回	メイン ECU メモリ故障	メイン ECU 内部異常	
	3 回	前後進速度調節レバー信号異常 旋回レバー信号異常 POT 電源異常 走行クラッチスイッチ信号異常 オーガスイッチ信号異常	前後進速度調節レバーセンサ断線 旋回レバーセンサ断線 ECU 内部異常 走行レバースイッチの故障 オーガスイッチの故障	
	4 回	右側　ドライバ故障	右側ドライバ信号異常 右側ドライバ CPU 故障	
	5 回	右側　モータ故障	右側モータの機械的故障 右側モータ／ドライバ故障 右側モータセンサ断線	
	6 回	左側　ドライバ故障	左側ドライバ信号異常 左側ドライバ CPU 故障	
	7 回	左側　モータ故障	左側モータの機械的故障 左側モータ／ドライバ故障 左側モータセンサ断線	
	8 回	電磁ブレーキ異常 オーガクラッチ異常	電磁ブレーキ断線・短絡 オーガクラッチ断線・短絡	
	10 回＊1：	バッテリ電圧の低下（16 V 以下）	バッテリの寿命	
点灯	11 回	モータ温度異常	過負荷によるモータの加熱	5 分間エンジン停止 後再始動＊2：
	12 回	モータ温度検出異常	モータ温度センサ断線	お買いあげ販売店へ お申しつけください。
	13 回	スロットルレバー 信号異常	スロットルレバー センサ断線・短絡	
	14 回	ECU 間の通信異常 エンジン ECU メモリ故障 エンジン ECU マイコン故障	i ガバナからメイン ECU への信号異常 i ガバナ内部故障	

＊1：バッテリ警告灯も点滅します。
＊2：エンジン再始動後も点滅する場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。
異常にお気づきの場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

リセットボタン表示灯（緑）の点滅。（JR タイプ）

表示灯（緑）	不具合内容	原因	処置
点滅	オーガハウジングのリセット異常	ハイトセンサ断線短絡 ロールセンサ断線短絡	お買いあげ販売店へお申しつけください。

(1) エンジンがかからない

現象	原因	解決方法
キャブレータに燃料がこない	燃料タンクにガソリンが不足している	補給：35 頁参照
	燃料コックが開いていない	燃料コックレバーを “出” の位置にする：41 頁参照
	燃料フィルターの詰まり	お買いあげ販売店にお申し付けください
	燃料配管の凍結	
キャブレータに燃料はくる	キャブレータのオーバーフロー	
	キャブレータの詰まり	
	ガソリンが劣化している	新しいガソリンと交換する ガソリンの抜きかた：91、92 頁参照 ガソリンの補給：35 頁参照
	ガソリンに水が混入している	
スタータが回らない	バッテリがあがっている	バッテリの充電または交換：83、93 頁参照
	ヒューズが切れている	ヒューズの点検、交換：86 頁参照
	バッテリ端子が外れている	バッテリの点検 82 頁参照
	始動時に走行クラッチレバー、 除雪クラッチボタンを押している	これらの操作をしていると、スタータは回りません。エンジンのかけかた：41 頁参照
	エンジンオイルが入っていない	エンジンオイルレベルを確認し、上限位置まで補給してください：37 頁参照
スタータは回る	点火プラグの汚れ	お買いあげ販売店にお申し付けください
	点火プラグキャップの取付け不良	点火プラグキャップを確実に取付ける：77 頁参照
	点火プラグの破損	点火プラグの交換：77 頁参照
	オートチョークの凍結	オートチョークが作動不良となっている可能性があります。マニュアルスタートレバーを操作し、再度始動操作を行ってください：43 頁参照
	警告灯が点灯している	エンジンスイッチを切り、再度運転位置に回しても警告灯が点灯する場合には故障の可能性がありますので、お買いあげ販売店にお申しつけください

(2) うまく走行できない

現象	原因	解決方法
除雪作業中に進みにくい	オーガロックボルトが折れている	オーガロックボルトの点検、交換：40、80 頁参照
	オーガハウジングの高さが適正でない	オーガハウジング高さ調節：46 頁参照
	除雪部に雪が付着、堆積している	オーガハウジング下部に堆積した雪の除去。除去方法、雪かき棒の使いかた：67 頁参照
走行しない	走行モータが停止するような重負荷作業をしたために、モータが過熱して保護機能が作動している	エンジンスイッチを切り、少し時間をおいて再始動する。モータの保護機能：60 頁参照
走行スピードが遅くなった	モータ過熱による故障の保護のため、走行モータの出力を抑えています	エンジンスイッチを切り、少し時間をおいて再始動する。 モータ保護機能：60 頁参照
うまく後進できない	オーガハウジングの高さが “高” になっていない	オーガハウジング高さ調節：46 頁参照
走行クラッチレバーを握っても走行しない	クローラのホイールピンが外れている	お買いあげ販売店にお申し付けください
	制御表示灯（橙）が点滅または点灯している	制御表示灯（橙）の点滅回数を確認して（98 頁参照）お買いあげ販売店にお申し付けください※1
旋回しない （旋回しにくい）	雪が多く積もっている所で、除雪部が雪に埋まっている	オーガハウジングの高さを “高” にし、速度を低速にして旋回レバーを握りながらハンドルに力を加えて向きをかえてください。
	旋回レバーを握ったとき、旋回したい方向のクローラが減速または停止していない	旋回レバーセンサ、走行モータなどの故障が考えられます。 お買いあげ販売店にお申し付けください
除雪クラッチボタンを “入” にすると走行スピードが極度に低下する	負荷入力が無いのに負荷制御されている可能性があります。エンジンスイッチを “停止” 位置に戻して、エンジンを再始動させてください	原状が改善せずに、約 6 秒後に表示灯（橙）が点滅する場合は、お買上販売店にお申し付けください
超信地旋回ができない	前後進速度調節レバーの位置が適切でない	前後進速度調節レバーを前進側低速域の位置で、旋回レバーを完全に握り込む。 旋回のしかた：58 頁参照
	旋回レバーの握り込み量が小さい	

現象	原因	解決方法
バッテリ走行ができない	バッテリ走行モードになっていない	左右の旋回レバーを同時に約 3 秒間握り続ける操作が必要です。 バッテリ走行システムの操作方法：61 頁参照
	バッテリ走行が終了後、5 秒経過し、制御警告灯（赤）と制御表示灯（橙）が点灯している	エンジンスイッチを “停止” の位置に戻し、もういちど操作を行ってください。 バッテリ走行システムの操作方法：61 頁参照
	バッテリがあがっている	バッテリの充電または交換：83、93 頁参照
表示灯（橙）が点滅または点灯している	電送部品の故障	点滅回数を確認し（98 頁参照）、お買上販売店にお申し付けてください ※1

※1：販売店に、ご連絡の際は必ず制御表示灯（橙）の点滅回数をお伝えください。

⚠注意

- 柔らかい雪が多く積もっている状態では本機が雪に乗り上げて走行しにくい場合があります。
  クローラがスリップしないように低速で走行するか、ハンドルを押したり引っ張ったりしながら脱出してください。
- エンジンスイッチを “運転” の位置で放置するとバッテリが消耗し、エンジンが始動できなくなります。
  バッテリ走行終了後は、必ずエンジンスイッチを “停止” の位置にしてください。

(3) うまく除雪作業ができない

現象	原因	解決方法
除雪作業中に進みにくい	オーガロックボルトが折損している	オーガロックボルトの点検、交換：40、80 頁参照
	オーガハウジングの高さが適正でない	オーガハウジング高調節：46 頁参照
	除雪部に雪が付着している	オーガハウジング下部に堆積した雪を除去する：67 頁参照
シュータから雪が出ない	シュータに雪が詰まっている	除去方法、雪かき棒の使いかた：67 頁参照
雪を集められない	オーガに雪がついている	除雪部の雪を除去する：67 頁参照
ブロアが回転しない	ブロアロックボルトが折損している	ブロアロックボルトの点検、交換：40、80 頁参照
	走行モータが停止するような重負荷作業をしたために、モータが過熱して保護機能が作動している	エンジンスイッチを切り、少し時間をおいて再始動する。 モータの保護機能：60 頁参照
	除雪クラッチボタンを押しても、ブロアが回転しない	スイッチ、電磁クラッチなどの故障が考えられます。お買いあげ販売店にお申し付けください
オーガが回転しない	オーガロックボルトが折損している	オーガロックボルトの点検、交換：40、80 頁参照
	走行モータが停止するような重負荷作業をしたために、モータが過熱して保護機能が作動している	エンジンスイッチを切り、少し時間をおいて再始動する。 モータの保護機能：60 頁参照
	除雪クラッチボタンを押しても、オーガが回転しない	スイッチ、電磁クラッチなどの故障が考えられます。お買いあげ販売店にお申し付けください
雪の飛びが悪い	エンジンの負荷がきつい (HSM1390i は【手動】モード作業時)	走行速度を下げる：65 頁参照
	エンジンの回転が低い (HSM1390i は【手動】、【パワー】モード作業時)	エンジン回転調節レバーを “高速” にする
	ブロアが変形している	ブロアの交換：81 頁参照
	ブロアロックボルトが折損している	ブロアロックボルトの点検、交換：40、80 頁参照
	オーガロックボルトが折損している	オーガロックボルトの点検、交換：40、80 頁参照
	投雪口が下向きになっている	投雪口を上向きに調節する：29 頁参照

現象	原因	解決方法
硬い雪に乗り上げて食い込まない オーガハウジングから雪があふれてしまう	オーガハウジングの高さが適正ではない	オーガハウジング高さ調節：46 頁参照
	オーガロックボルトが折損している	オーガロックボルトの点検、交換：40、80 頁参照
	オーガが摩耗している	オーガの交換：81 頁参照
	ブロアロックボルトが折損している	ブロアロックボルトの点検、交換：40、80 頁参照
	ソリ、スクレーパの高さが適正ではない	ソリ、スクレーパの調節：44、45 頁参照
オーガが路面に当たる	オーガハウジングの高さが適正ではない	オーガハウジング高さ調節：46 頁参照
	ソリ、スクレーパの高さが適正ではない	ソリ、スクレーパの調節：44、45 頁参照
除雪部から異音がする	オーガ、ブロアの羽根、シャフトなどが変形している	お買いあげ販売店にお申し付けください
投雪方向が調節できない	R. ドライバの故障	お買いあげ販売店にお申し付けください
	モータの過熱（ブレーカ作動）	しばらく待つ。投雪方向調節スイッチを押したままにしない
	モータまたはリレー、スイッチの故障	お買いあげ販売店にお申し付けください
オーガハウジング高さ／ローリングが作動しない	調節スイッチを頻繁に操作している	しばらく待って再度操作する：30 頁参照
制御表示灯（橙）が点滅または点灯する	電装システムの異常、または故障	制御表示灯（橙）の点滅回数を確認して（98 頁参照） お買いあげ販売店にお申し付けください※1

- **積雪が 5 cm に満たないような条件では、雪がまとまって遠くに飛ばない傾向にあります。このようなときは、前後進速度調節レバーを高速にし、多くの雪を集めると飛びやすくなります。**

※1：販売店に、ご連絡の際は必ず制御表示灯（橙）の点滅回数をお伝えください。

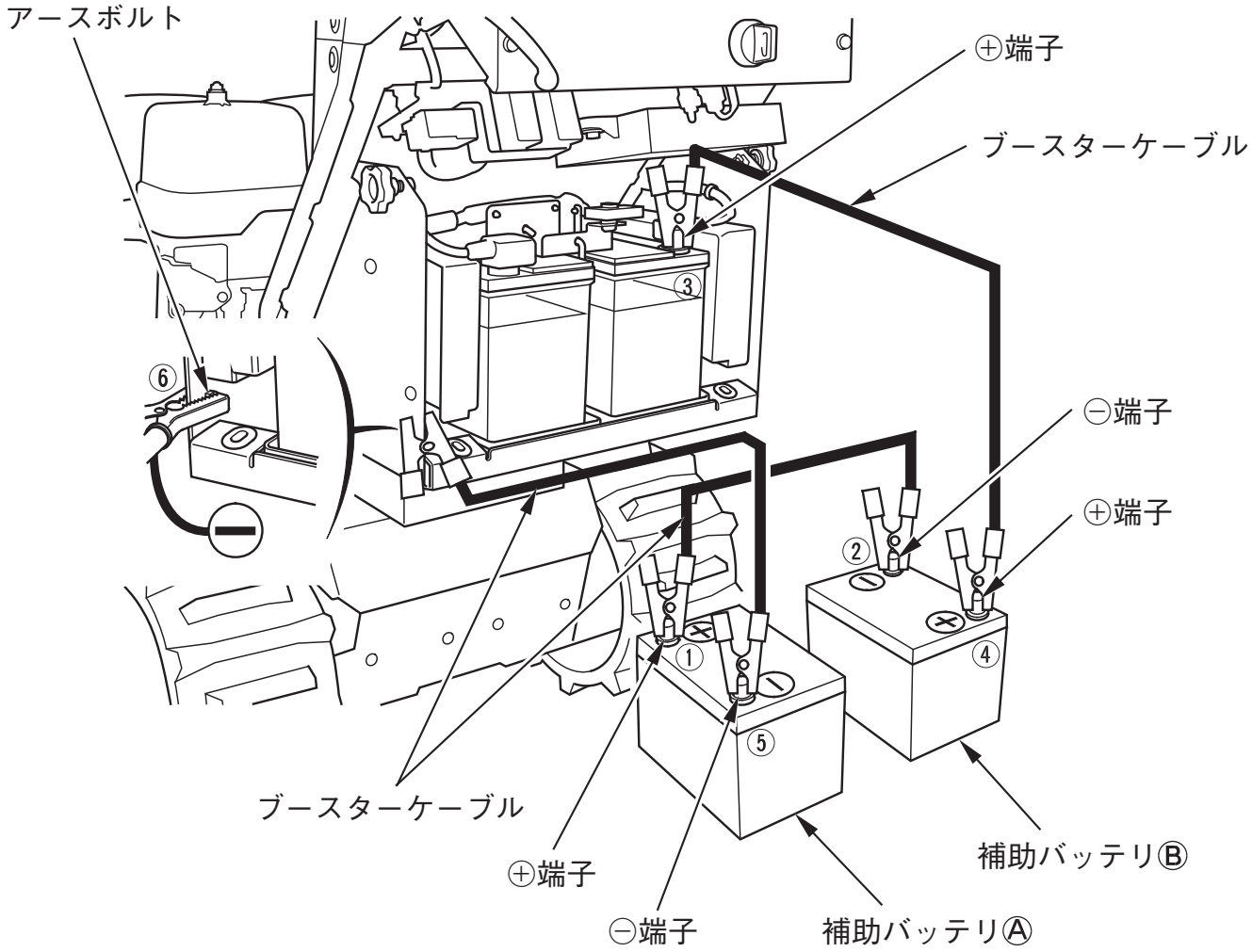
(4) その他のトラブル

現象	原因	解決方法
オーガハウジングの高さが調整できない	パワーハイトの過熱	使用頻度が高く、過熱すると内部保護機能がはたらきます。しばらく待ってから再使用してください。
	パワーハイトの故障	お買いあげ販売店にお申し付けください
クローラが外れてしまう	クローラがゆるんでいる	クローラ張りの点検、調整：78 頁参照
作業灯が点灯しない	バッテリがあがっている	バッテリの充電または交換：83、93 頁参照
	ヒューズがきれている	ヒューズの点検、交換：86 頁参照
	作業灯のバルブが切れている	お買いあげ販売店にお申し付けください

バッテリあがりのとき

24 V 補助バッテリ（12V 2 個直列接続）を利用してエンジンを始動します。

1. ブースターケーブルを次の順番で接続します。
   ・1 本目のブースターケーブル
   (1) 補助バッテリ（A）の（＋）端子に取付けます
   (2) 補助バッテリ（B）の（－）端子に取付けます
   ・2 本目のブースターケーブル
   (3) 本機バッテリの（＋）端子（ビニールカバーを外す）に取付けます
   (4) 補助バッテリ（B）の（＋）端子に取付けます
   ・3 本目のブースターケーブル
   (5) 補助バッテリ（A）の（－）端子に取付けます
   (6) 本機アースボルトに取付けます
2. エンジンを始動します。（41 ～ 43 頁参照）
3. ブースターケーブルを接続と逆の手順で外します。



⚠警告

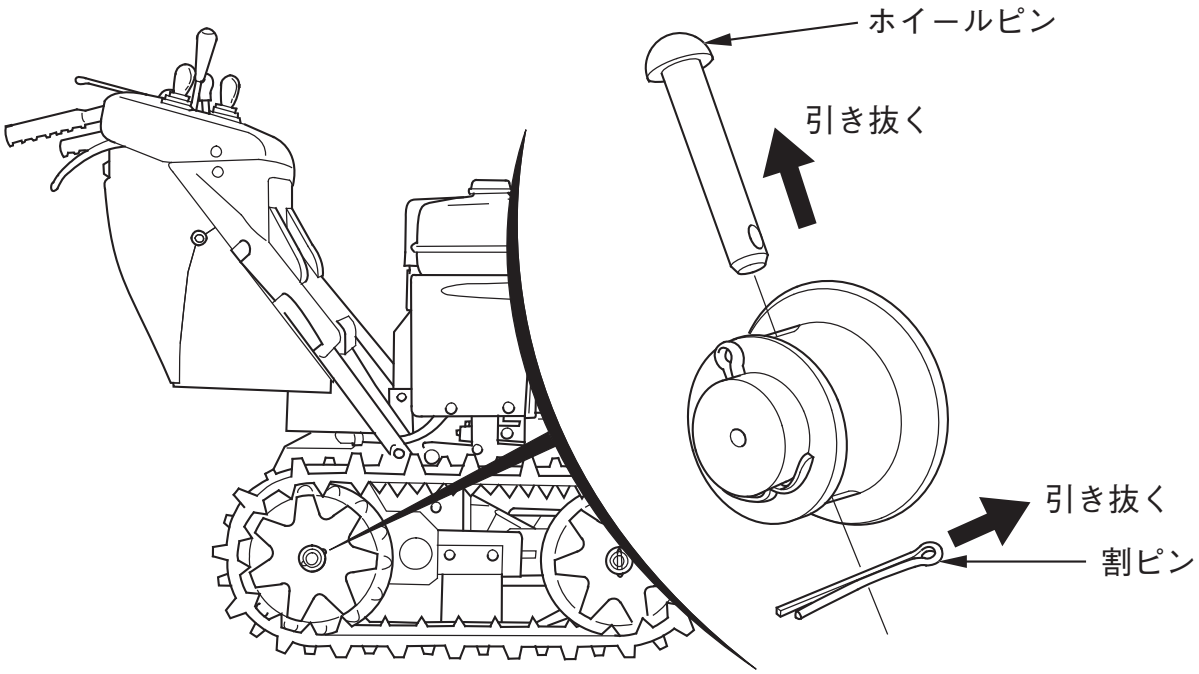
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は（＋）側から接続し、外すときは（－）側から外し、付属のチューブを端子に取付け、保護してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- 本機に 24 V（12 V バッテリ 2 個直列接続）以外の接続はしないでください。引火、爆発により重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 15 分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- ブースターケーブルを接続するときは、次のことを必ず守ってください。火花が出て、バッテリから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
  - ・（＋）端子と（－）端子を間違えないでください。
  - ・ケーブルの先端どうしを接触させないでください。
  - ・補助バッテリを使用してもエンジンが始動しなかったり、本機が起動しなかったりする場合は、ただちにエンジン始動をやめ、バッテリを本機からおろして充電してください。そのままエンジンを始動し続けると、バッテリに重大なダメージを与え、破損、爆発の可能性があります。

取扱いのポイント

バッテリを新品に交換する場合は、2 個同時に交換してください。

• 本機が動かなくなったときの移動手順

1. エンジンスイッチを “**停止**” の位置にし、エンジンスイッチキーを取外します。
2. 左右後輪の割ピンを引き抜きます。
3. 左右後輪のホイールピンを引き抜くと、クローラが空転状態となり、押したり、引いたりして移動できます。



⚠警告

- ホイールピンを抜くときはエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから作業を行ってください。
- 傾斜地ではホイールピンを抜かないでください。本機が空走して、思わぬ事故を招くことがあります。
- 移動後は平坦な場所に駐車し、ホイールピンを取り付けるときは新しい割ピンを使用してください。

主　　要　　諸　　元

名　　称	HSM1380i	
タ　イ　プ	JR（ローリング機構付きタイプ）	JN（ローリング機構無しタイプ）
型　　式	SAYJ	

エンジン

名　　称	GX390
最大出力／回転速度（SAE J1349 に準拠＊）	8.7 kW (11.8 PS)/3,600 rpm
排　気　量	389 cm^3
内径 × 行程	88.0 × 64.0 mm
始動方式	セルフスタータ
点火方式	CDI マグネト点火
オイル容量	1.1 L
燃料タンク容量	5.7 L
点火プラグ	BPR5ES (NGK), W16EPR-U (DENSO)
バッテリ	12 V 27 Ah（28B17R を 2 個直列接続 24 V）

フレーム

全　　長	1,690 mm	
全　　幅	800 mm	
全　　高	1,340 mm	
乾燥質量［重量］	240 kg	230 kg
除　雪　幅	800 mm	
除　雪　高	580 mm	
投雪距離	最大 19 m（雪質および投雪方向により異なります。）	

＊ ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 3,600 rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

名称	HSM1390i	
タイプ	JR（ローリング機構付きタイプ）	JN（ローリング機構無しタイプ）
型式	SBBJ	

エンジン

名称	GX390
最大出力／回転速度（SAE J1349 に準拠＊）	8.7 kW (11.8 PS)/3,600 rpm
排気量	389 cm^3
内径 × 行程	88.0 × 64.0 mm
始動方式	セルフスタータ
点火方式	CDI マグネト点火
オイル容量	1.1 L
燃料タンク容量	5.7 L
点火プラグ	BPR5ES (NGK), W16EPR-U (DENSO)
バッテリ	12 V 27 Ah（28B17R を 2 個直列接続 24 V）

フレーム

全長	1,690 mm	
全幅	920 mm	
全高	1,340 mm	
乾燥質量［重量］	245 kg	235 kg
除雪幅	920 mm	
除雪高	580 mm	
投雪距離	最大 19 m（雪質および投雪方向により異なります。）	

＊ ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 3,600 rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

配　　線　　図

目次

HSM1380i（JN タイプ）····· W-1（巻末）
HSM1380i（JR タイプ）····· W-2（巻末）
HSM1390i（JR タイプ）····· W-3（巻末）
HSM1390i（JN タイプ）····· W-4（巻末）

部品の略語表

ACG	AC ジェネレータ
ACG PL	充電警告灯
Ase	スロットルセンサ
ACSw	除雪クラッチボタン
AH/RoSw	オーガハウジング調節スイッチ
AHSw	オーガハウジング高さスイッチ
BAT	バッテリ
BATF	バッテリフューズ
BAT PL	バッテリ警告灯
BF	ヒューズボックス
Bk	ブレーキ
CCSw	投雪方向調整スイッチ
CGMo	シュータガイドモータ
CMo	シュータモータ
D-CDI	デジタル CDI
DrCISw	走行クラッチレバー
EgECU	ECU（エンジン側）
EgG	アース
EgNESe	エンジン NE センサ
EgSw	エンジンスイッチ
ELEC C&B	電磁クラッチ
En	エンコーダ
FG	アース
FRECU	ECU（フレーム側）
HCSw	ハイトセンサ
HL	作業灯
HMo	ハイトモータ

ICS SW	i コントロールスイッチ
InC	初期化カプラ
JCA	ジャンクション A
JCB	ジャンクション B
LCU	L. ドライバ
LMoAss	L. モータ
LTSe	左旋回センサ
MdSeSw	除雪作業モード切替スイッチ
MF	メインフューズ
Mo	モータ
MoF	モータフューズ
OLSw	オイルレベルスイッチ
PCC	PC カプラ
PCo	パワーコイル
RCU	R. ドライバ
RMoAss	R. モータ
RoMo	ローリングモータ
RTSe	右旋回センサ
RsSw	リセットボタン
SG	アース
SP	点火プラグ
StMo	スタータモータ
TCMo	スロットルコントロールモータ
ThSe	サーモ
WAR1 PL	制御警告灯
WAR2 PL	制御表示灯
WARO PL	オイル警告灯

配線色の略語表

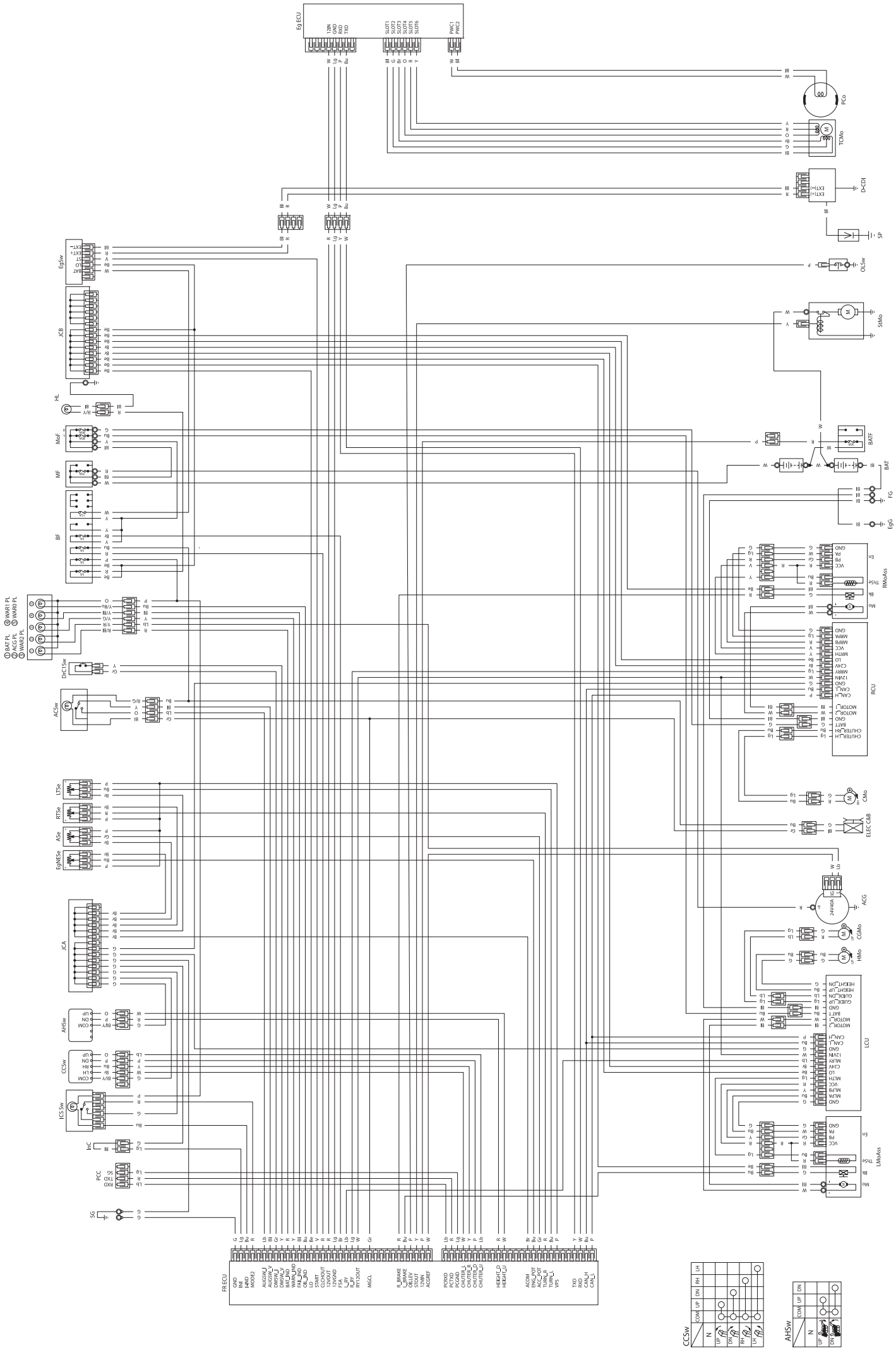
Bl	黒	Br	茶
Y	黄	O	橙
Bu	青	Lb	空
G	緑	Lg	若葉
R	赤	P	桃
W	白	Gr	灰
V	紫	Be	薄茶

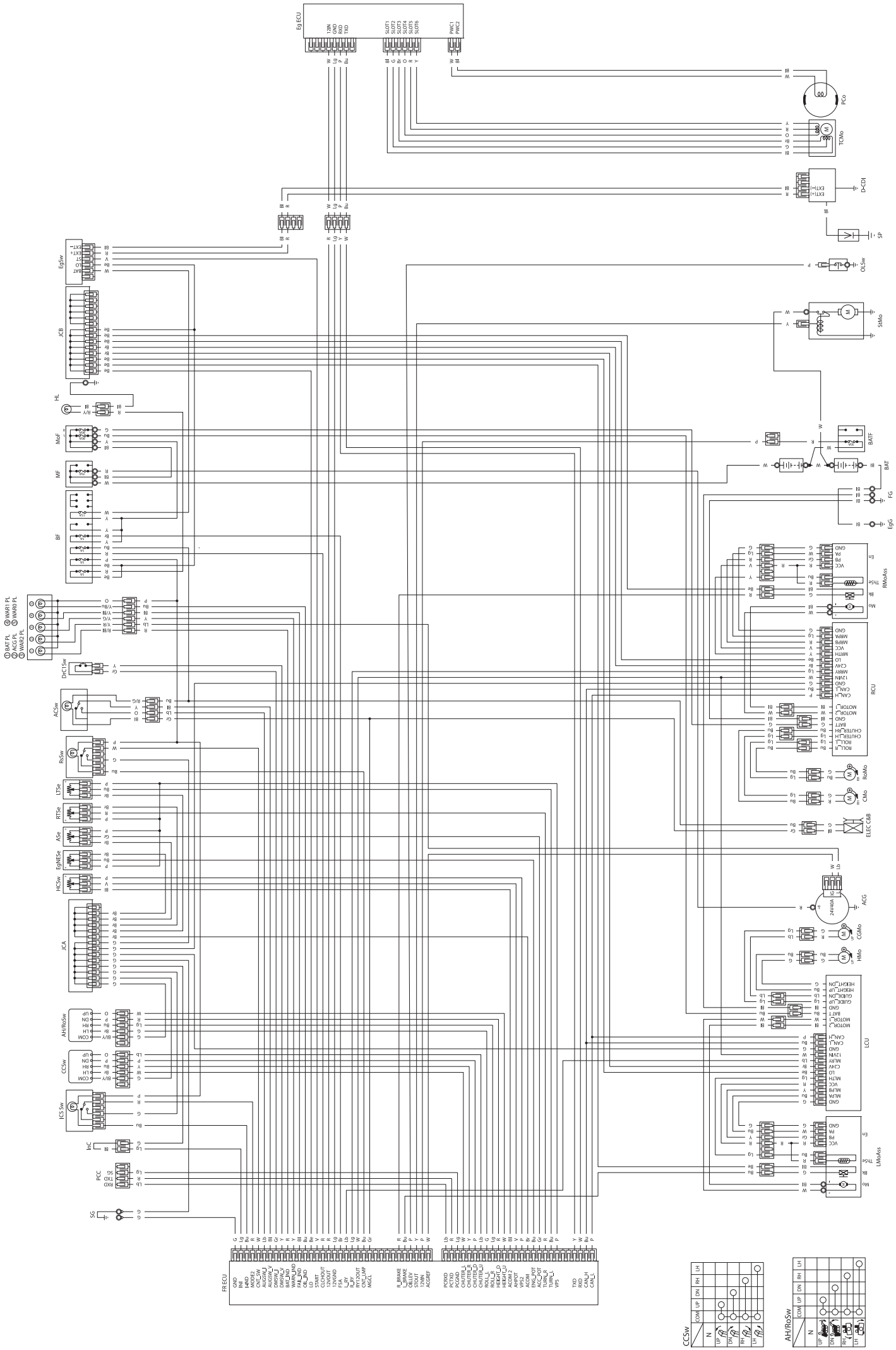
除雪作業モード切替スイッチ

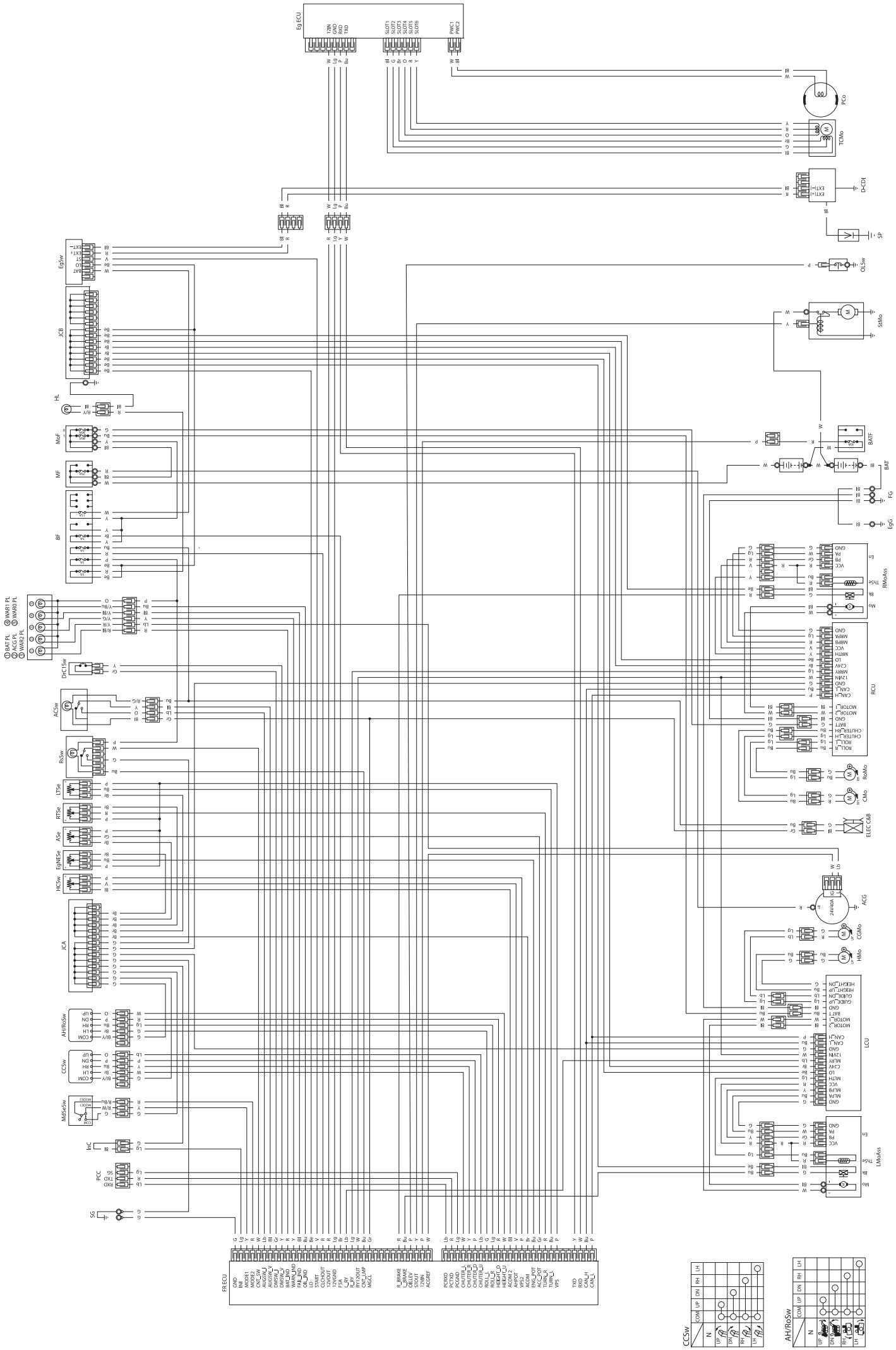
	MODE1	COM	MODE2
セルフ (D1)	○	○	
パワー (D2)		○	○
オート (EPS)			

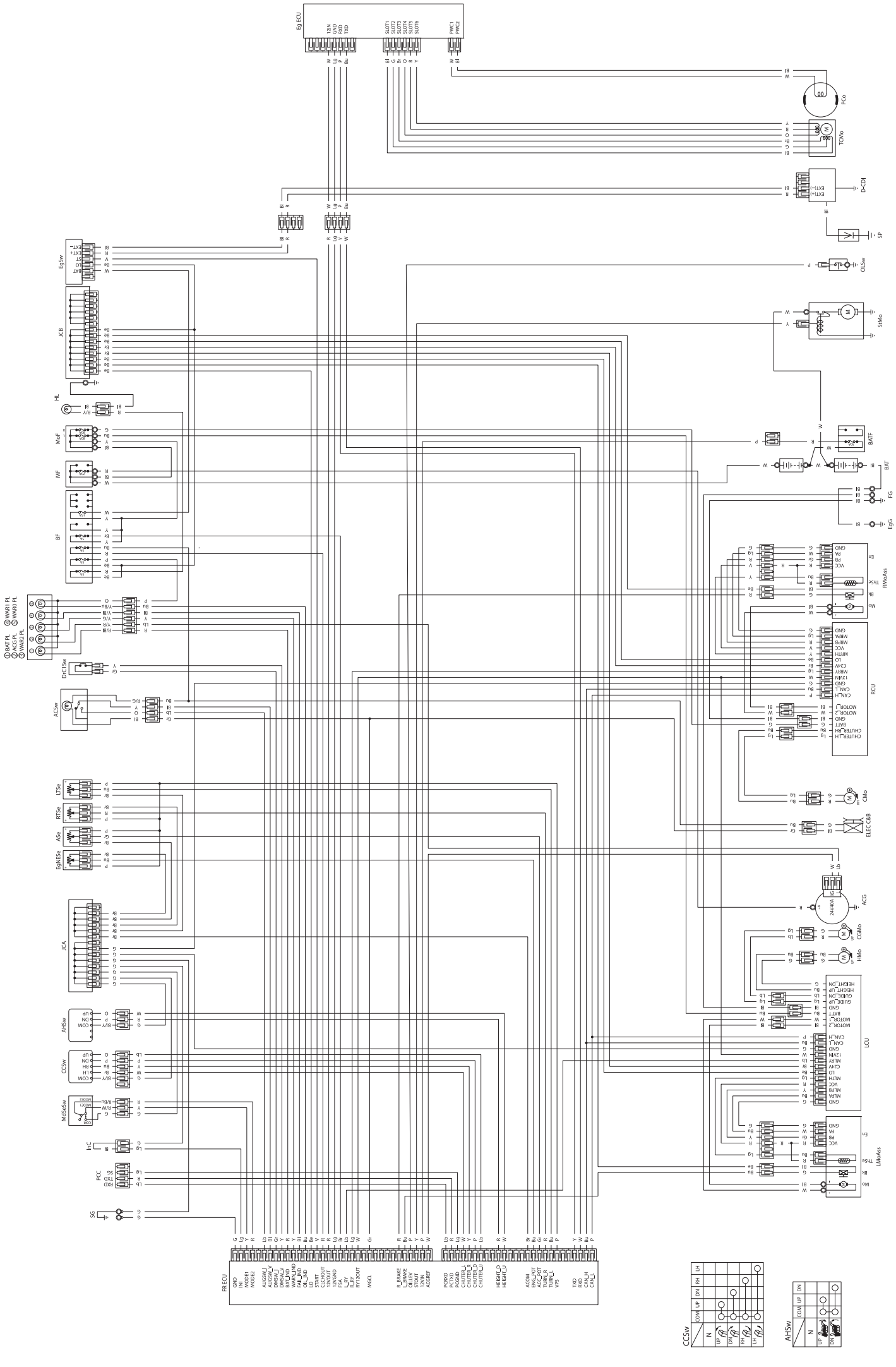
エンジンスイッチ

	EXT (＋)	EXT (－)	BAT	LO	ST
OFF					
ON	○	○	○	○	
ST	○	○	○	○	○


Eg ECU
PCo
TCMo
D-CDI
SP
OLSw
StMo
BATF
BAT
FG
EgG
RMotAss
Mo
RCU
CMo
ELEC C68
ACG
CGMo
HMo
LCU
LMotAss
EgSw
JCB
HL
MoF
MF
BF
DrCtSw
ACSw
LTSe
RTSe
ASe
EgNESe
JCA
AHSw
CCSw
KCS Sw
IncC
PCIC
SG
FR ECU
CCSw
AHSw


Eg ECU
PCo
TCMo
D-CDI
SP
EgSw
OLSw
JCB
StMo
HL
MoF
MF
BF
BATF
BAT
FG
EgG
RMoAss
IRCU
RsMo
CMo
ELEC C68
ACG
CGMo
HMo
LCU
LMoAss
DrCtSw
ACSw
RsSw
LTSe
RTSe
ASe
EgNESe
HCSw
JCA
AH/RoSw
CCSw
ICS Sw
IgC
PCC
SG
FR ECU
CCSw
AH/RoSw


Eg ECU
EgSw
JCB
JCA
HL
MoF
MF
BF
DrCtSw
ACSw
RoSw
LTSe
RTSe
ASe
EgNESe
HCSw
AH/RoSw
CCSw
MdSeSw
IniC
PCIC
SG
FR ECU
PCo
TCMo
D-CDI
SP
OLSw
StMo
BATF
BAT
FG
EgG
RMoAss
RCU
RoMo
CMo
ELEC C68
ACG
CGMo
HMo
LCU
LMoAss
CCSw
AH/RoSw


Eg ECU
PCo
TCMo
D-CDI
SP
EgSw
OLSw
StMo
BATF
BAT
FG
EgG
RMotAss
Mo
IRCU
CMo
ELEC C68
ACG
CGMo
HMo
LCU
LMotAss
JCB
JCA
HL
MoF
MF
BF
LTSe
RTSe
ASe
EgNESe
AHSw
CCSw
MdeSw
InC
PCC
SG
DrCtSw
ACSw
FR ECU
CCSw
AHSw

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

**お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。**

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120 － 112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9:00 ～ 12:00　　13:00 ～ 17:00
〒 351-0188　埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

(1) 製品名、タイプ名
(2) ご購入年月日
(3) 販売店名

HONDA

The Power of Dreams

30V15610
00X30-V15-6102

Ⓢ ⓃⒻⓂ 2000.2014.07
©2011 本田技研工業株式会社